

平成19年

福島県感染症発生動向調査事業報告書

(平成19年1月～12月)

平成20年3月

福島県感染症情報センター
(福島県衛生研究所)
福島県感染症情報解析委員会

はじめに

感染症発生動向調査は、平成11年4月の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下感染症法)の施行に基づき、各都道府県の「感染症発生動向調査事業実施要綱」によって実施されています。平成19年4月には、感染症法の一部改正に伴い、全数把握疾患の類型の変更・追加が行われました。

福島県においても「福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱」により、平成13年7月から地方感染症情報センターを福島県衛生研究所内に移管・設置して、県内の患者情報及び病原体情報を一元的に収集し、その解析と提供を行ってきました。

情報センターが収集・解析した情報は、週報・月報として定点医療機関や医師会等の関係機関に還元し、さらに、衛生研究所のホームページへ掲載することで、県民の皆様幅広く情報提供を行っております。

平成19年は、関東から全国へと拡大した麻しん、成人麻しんの流行があり、高校や大学での集団感染事例も多数報告されました。また、新型インフルエンザの発生も懸念され、感染症対策がますます重要性をおびてきています。

このたび、平成19年の事業報告書を発行することになりました。発行に際し、定点医療機関をはじめ関係機関のご協力を深く感謝申し上げます。また、本報告書を広くご活用いただき、県民の感染症予防に役立ていただければ幸いです。

平成20年3月

福島県衛生研究所長 西田茂樹

目 次

福島県感染症発生動向調査事業実施概要	
(1) 福島県感染症発生動向調査事業実施概要	3
(2) 福島県感染症情報センターの概念図	4
福島県感染症発生動向調査事業一～五類感染症全数把握及び五類感染症定点把握対象報告	
(1) 一～五類感染症【全数把握】対象結果報告	7
(2) 一～五類感染症【全数把握】報告調査結果（福島県・全国）	13
(3) 五類感染症【定点把握】対象結果報告	14
検査情報	
(1) 2007 年感染症発生動向調査事業報告（ウイルス）	45
(2) 2007 年感染症発生動向調査事業報告（細菌）	51
(3) 2006/2007 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況について	58

福島県感染症発生動向調査事業実施概要

福島県結核・感染症発生動向調査事業の実施概要

1 実施体制

(1) 福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱等

本事業の実施に関わる要綱等は、本誌 資料に掲げるとおりである。

(2) 指定届出医療機関（定点選定）

福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱に基づき、指定届出医療機関【患者定点；小児科：48 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（72）から（84）までに掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関を小児科定点として指定する。〕、インフルエンザ：80 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（85）については、前記で選定した小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。〕、眼科：12 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（86）及び（87）については、眼科を標榜する医療機関を眼科定点とする。〕、STD：16 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（88）から（91）については、産婦人科又は産科若しくは婦人科、性病科又は泌尿器科を標榜する医療機関を性感染症定点とする。〕、基幹：7 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（92）から（99）については、患者を 300 人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を各 2 次医療圏域毎に一カ所以上、基幹定点とする。〕、及び病原体定点：21 医療機関〔各選定された患者定点の概ね 10%を病原体定点とする。〕を選定する。

(3) 福島県感染症発生動向調査企画委員会

本事業の実施の推進を図るため、福島県感染症発生動向調査企画委員会を、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱により設置する。

(4) 福島県感染症情報解析委員会

収集した患者情報及び病原体情報を、より専門的な観点から解析、提供を行うため、福島県感染症発生動向調査企画委員会のもとに福島県感染症情報解析委員会を設置する。

2 実施状況

(1) 情報収集

ア 福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱により、患者定点として選定された医療機関は、調査単位が週（月曜日から日曜日まで）の場合は対象週の翌週の月曜日までに、月単位の場合は対象月の翌月の初日までに、FAX 等で保健所に送信する。

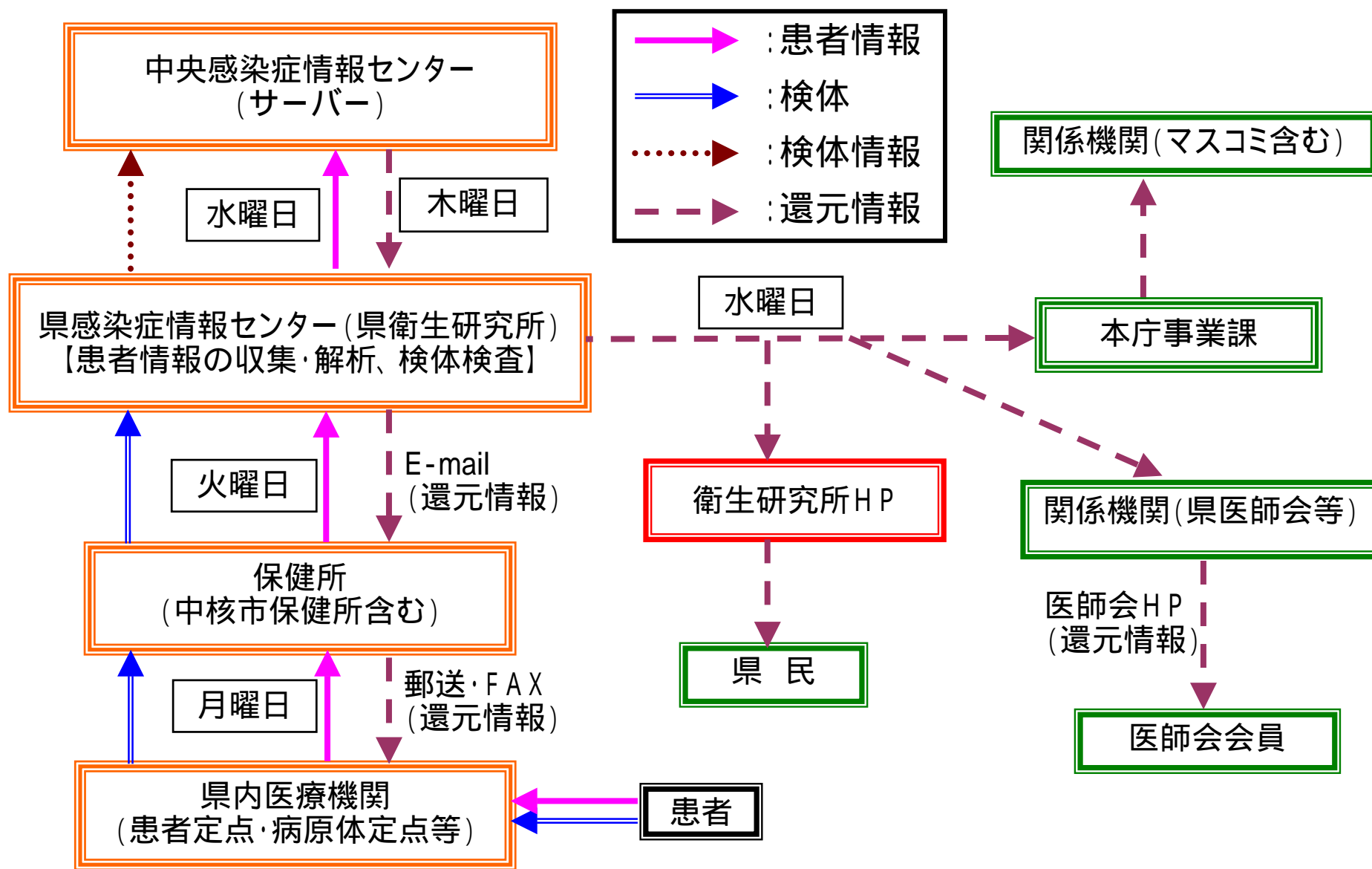
保健所は、患者定点から得られた患者情報を、調査単位が週の場合は調査対象週の翌週の火曜日までに、調査対象が月の場合は調査対象月の翌月の 3 日までに、福島県感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送する。

イ 福島県病原体検査実施要領により、各病原体定点から採取された検体は、福島県衛生研究所で検査を行い、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、検査情報として福島県感染症情報センター及び医療看護グループに報告する。

(2) 情報還元

福島県感染症情報センターは、患者情報及び病原体情報を週単位および月単位で収集、解析するとともに、その結果を全国情報と併せて、週報及び月報等として保健所に提供するとともに福島県医師会、福島県教育委員会、その他関係機関等に提供・公開する。

感染症情報センターの概念図



**感染症発生動向調査事業一～五類感染症
全数把握及び五類感染症定点把握対象報告**

(1) 一 ~ 五類感染症全数把握対象結果報告

一類感染症〔全数把握〕

(1) エボラ出血熱 , (2) クリミア・コンゴ出血熱 , (3) 痘そう , (4) 南米出血熱 , (5) ペスト , (6) マールブルグ病 , (7) ラッサ熱の一類感染症は , とともに報告はなかった .

二類感染症〔全数把握〕

(8) 急性灰白髄炎の報告はなかった .
 (9) 結核の報告は 204 例あった .

・結核報告状況

〔保健所別報告数〕

	県北	郡山市	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき市	計
19年	66	24	19	14	32	3	17	29	204

(10) ジフテリア , (11) 重症急性呼吸器症候群 (病原体がコロナウイルス属 S A R S コロ
 ナウイルスであるものに限る) の報告は , とともになかった .

三類感染症〔全数把握〕

(12) コレラの報告は 1 例あり , 30 週に会津 (70 歳代 : 海外渡航歴無し) から報告があっ
 た .
 (13) 細菌性赤痢の報告は 1 例あり , 7 週に郡山市 (70 歳代) から報告があった .

・細菌性赤痢年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
19年	1例	経口感染 (<i>Shigella flexneri</i>) : 自宅で冷凍保存した白子
18年	1例	不明
17年	3例	不明 (1例 (<i>Shigella sonnei</i>) , 1例 (型不明)) , 経口感染 [1例 (<i>Shigella sonnei</i>) : アメリカ・メキシコへの渡航歴有り , 飲食物 (不明)]

(14) 腸管出血性大腸菌感染症の報告は 54 例あった . いわき市で保育園での集団発生が 1
 件 (33 例) あった .

・腸管出血性大腸菌感染症年別報告状況

〔保健所別報告数〕

	県北	郡山市	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき市	計
19年	4	4	1	1	2	0	4	38	54
18年	4	6	6	5	2	0	3	32	58
17年	3	12	5	0	0	0	3	1	24

〔月別報告数〕

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
19年	0	0	1	1	0	1	1	37	9	3	1	0	54
18年	0	0	1	0	1	2	7	12	5	30	0	0	58
17年	0	2	0	0	1	2	1	9	7	1	1	0	24

〔型別報告数〕

型	19年	18年	17年
O 26	37	5	7
O 103	2	3	0
O 111	0	1	1
O 121	4	0	0
O 157	11	49	16
計	54	58	24

(15) 腸チフスの報告は2例あり、郡山市から1例〔2週(40歳代：感染原因不明)〕、会津から1例〔11週(20歳代：感染原因不明)〕の報告があった。

(16) パラチフスの報告は1例あり、19週に郡山市(60歳代：インド、香港への渡航歴有り)から報告があった。

四類感染症〔全数把握〕

(17) E型肝炎の報告は1例あり、36週に県北(70歳代：生焼け豚レバーの喫食歴有り)から報告があった。また、報告の遅れとして平成18年49週診断の報告が1例あった。

(18) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)の報告はなかった。

(19) A型肝炎の報告は4例あり、県北から1例〔38週(幼児：インドへの渡航歴有り)〕、郡山市から2例〔17週(40歳代：生サバの喫食歴有り)、52週(10歳代：原因不明)〕、いわき市から1例〔23週(40歳代：原因不明)〕の報告があった。

(20) エキノコックス症、(21) 黄熱の報告は、ともになかった。

(22) オウム病の報告は1例あり、26週に郡山市(60歳代：インコを飼育)から報告があった。

(23) オムスク出血熱、(24) 回帰熱、(25) キャサヌル森林病、(26) Q熱、(27) 狂犬病、

(28) コクシジオイデス症、(29) サル痘、(30) 腎症候性出血熱、(31) 西部ウマ脳炎、(32) ダニ媒介脳炎、(33) 炭疽の報告は、ともになかった。

(34) つつが虫病の報告は44例あり、前期(1～6月)に13例〔県北(1例)、郡山市(4例)、県中(1例)、県南(2例)、会津(5例)〕、後期(7～12月)に31例〔県北(1例)、郡山市(5例)、県中(11例)、県南(12例)、会津(1例)、相双(1例)〕の報告があった。

・つつが虫病年別報告状況

〔保健所別報告数〕

	県北	郡山市	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき市	計
19年	2	9	12	14	6	0	1	0	44
18年	9	6	11	16	1	2	0	0	45
17年	7	11	11	8	0	0	1	0	38

〔月別報告数〕

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
19年	1	0	3	0	4	5	0	0	0	0	21	10	44
18年	0	0	2	2	8	7	1	0	1	2	17	5	45
17年	0	0	0	0	10	2	0	0	0	2	14	10	38

(35) デング熱, (36) 東部ウマ脳炎, (37) 鳥インフルエンザ, (38) ニパウイルス感染症, (39) 日本紅斑熱, (40) 日本脳炎, (41) ハンタウイルス肺症候群, (42) B ウイルス病, (43) 鼻疽, (44) ブルセラ症, (45) ベネズエラウマ脳炎, (46) ヘンドラウイルス感染症, (47) 発しんチフス, (48) ポツリヌス症, (49) マラリア, (50) 野兔病, (51) ライム病, (52) リッサウイルス感染症, (53) リフトバレー熱, (54) 類鼻疽の報告は、ともになかった。

(55) レジオネラ症の報告は 12 例あり、県北から 1 例〔39 週（50 歳代）〕、郡山市から 9 例〔2 週（40 歳代）, 23 週（60 歳代）, 29 週（60 歳代）, 31 週（50 歳代）, 33 週（40 歳代）, 42 週（70 歳代）, 43 週（40 歳代）, 44 週（80 歳代）, 48 週（90 歳代）〕、会津から 1 例〔24 週（70 歳代）〕、いわき市から 1 例〔18 週（80 歳代）〕の報告があった。

・レジオネラ症年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
19年	12例	水系感染（3例）, 水系感染・塵埃感染（1例）, 土（1例）, 不明（7例）
18年	4例	塵埃感染（2例）, 不明（2例）
17年	8例	不明（8例）

(56) レプトスピラ症 (57) ロッキー山紅斑熱の報告は、ともになかった。

五類感染症〔全数把握〕

(58) アメーバ赤痢の報告は 7 例あり、県北から 5 例〔5 週（20 歳代）, 12 週（20 歳代）, 16 週（50 歳代）, 40 週（40 歳代）, 49 週（30 歳代）〕、郡山市から 1 例〔44 週（30 歳代）〕、相双から 1 例〔19 週（60 歳代）〕の報告があった。

・アメーバ赤痢年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
19年	7例	性行為感染(3例), 性行為感染・経口感染(1例), 不明(3例)
18年	7例	性行為感染(1例), 不明(6例)
17年	2例	性行為感染(1例), 不明(1例)

(59) ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)の報告は3例あり, いわき市から3例〔24週(C型, 70歳代), 37週(C型, 30歳代), 45週(B型, 60歳代)〕の報告があった。

・ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
19年	3例	不明(3例)
18年	3例	針等の鋭利なものの刺入による感染(2例), 不明(1例)
17年	2例	不明(2例)

(60) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎, 西部ウマ脳炎, ダニ媒介脳炎, 東部ウマ脳炎, 日本脳炎, ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)の報告は3例あり, 県北から1例〔29週(50歳代)〕, いわき市から2例〔22週(幼児), 32週(10歳代)〕の報告があった。

・急性脳炎年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
19年	3例	不明(3例)
18年	2例	インフルエンザ(2例)
17年	2例	水痘(1例), インフルエンザ(1例)

(61) クリプトスポリジウム症の報告はなかった。

(62) クロイツフェルト・ヤコブ病の報告は2例あり, 県北から1例〔14週(70歳代)〕, 会津から1例〔51週(50歳代)〕の報告があった。

・クロイツフェルト・ヤコブ病年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
19年	2例	家族性(1例), 不明(1例)
18年	3例	ヒト乾燥硬膜(1例), 不明(2例)
17年	2例	ヒト乾燥硬膜(1例), 不明(1例)

(63) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告は1例あり、39週に県北(80歳代)から報告があった。

・劇症型溶血性レンサ球菌感染症年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
19年	1例	不明(1例)
18年	2例	不明(2例)
17年	3例	不明(3例)

(64) 後天性免疫不全症候群の報告は8例あり、県北から4例〔17週(70歳代:男性, AIDS), 18週(60歳代:女性, 無症候期), 27週(30歳代:男性, AIDS), 30週(40歳代:男性, AIDS)], 郡山市から2例〔25週(30歳代:女性, 無症候期), 52週(40歳代:男性, AIDS)], 会津から2例〔2週(30歳代:男性, 無症候期), 43週(20歳代:男性, 無症候期)]の報告があった。

・後天性免疫不全症候群年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
19年	8例	性的接触(異性間性的接触3例, 同性間性的接触1例), 静注薬物常用・性的接触(異性間同性間不明)(1例), 不明(3例)
18年	9例	性的接触(異性間性的接触3例, 同性間性的接触2例, 異性間・同性間性的接触2例), 輸血(1例), 不明(1例)
17年	3例	性的接触(異性間性的接触1例, 異性間・同性間性的接触1例), 不明(1例)

(65) ジアルジア症, (66) 髄膜炎菌性髄膜炎, (67) 先天性風しん症候群の報告は、ともになかった。

(68) 梅毒の報告は9例あり、郡山市から4例〔20週2例(ともに30歳代, 無症候梅毒および早期顕症梅毒), 26週(50歳代, 早期顕症梅毒), 39週(20歳代, 早期顕症梅毒)], 県南から1例〔37週(90歳代, 無症候梅毒)], いわき市から4例〔17週(30歳代, 早期顕症梅毒), 27週(20歳代, 無症候梅毒), 41週(40歳代, 無症候梅毒), 52週(50歳代, 無症候梅毒)]の報告があった。

・梅毒年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
19年	9例	性的接触(6例), 不明(3例)
18年	3例	性的接触(2例), 不明(1例)
17年	6例	性的接触(5例), 輸血(1例)

(69) 破傷風の報告は2例あり、44週に県北(40歳代, 70歳代)から報告があった。

(70) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の報告はなかった。

(71)バンコマイシン耐性腸球菌感染症の報告は2例あり、郡山市から1例〔4週(70歳代)〕、相双から1例〔6週(70歳代)〕の報告があった。

(3) 平成19年五類感染症定点把握対象結果報告

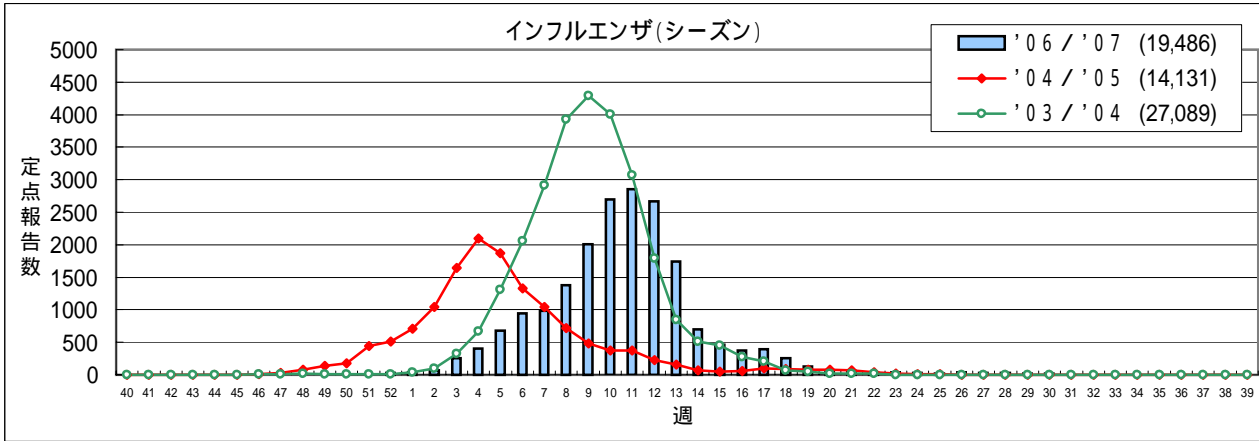
五類感染症対象疾患（定点把握）

(85)	インフルエンザ〔鳥インフルエンザを除く〕 (80 インフルエンザ定点：32 内科定点，48 小児科定点)	週報対象疾患	
(72)	RS ウイルス感染症 (48 小児科定点)		
(73)	咽頭結膜熱 (48 小児科定点)		
(74)	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (48 小児科定点)		
(75)	感染性胃腸炎 (48 小児科定点)		
(76)	水痘 (48 小児科定点)		
(77)	手足口病 (48 小児科定点)		
(78)	伝染性紅斑 (48 小児科定点)		
(79)	突発性発しん (48 小児科定点)		
(80)	百日咳 (48 小児科定点)		
(81)	風しん (48 小児科定点)		
(82)	ヘルパンギーナ (48 小児科定点)		
(83)	麻しん〔成人麻しんを除く〕 (48 小児科定点)		
(84)	流行性耳下腺炎 (48 小児科定点)		
(86)	急性出血性結膜炎 (12 眼科定点)		
(87)	流行性角結膜炎 (12 眼科定点)		
(92)	クラミジア肺炎〔オウム病を除く〕 (7 基幹定点)		
(93)	細菌性髄膜炎 (7 基幹定点)		
(95)	マイコプラズマ肺炎 (7 基幹定点)		
(96)	成人麻しん (7 基幹定点)		
(97)	無菌性髄膜炎 (7 基幹定点)		
(88)	性器クラミジア感染症 (16 STD 定点)		月報対象疾患
(89)	性器ヘルペスウイルス感染症 (16 STD 定点)		
(90)	尖圭コンジローマ (16 STD 定点)		
(91)	淋菌感染症 (16 STD 定点)		
(94)	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (7 基幹定点)		
(98)	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (7 基幹定点)		
(99)	薬剤耐性緑膿菌感染症 (7 基幹定点)		

五類感染症（定点把握）患者地域別定点機関数

	小児科定点	内科定点	眼科定点	基幹定点	STD 定点
県北	10	7	3	1	4
郡山市	7	5	2	1	2
県中	6	4	1	0	2
県南	4	3	1	1	1
会津	6	4	2	1	2
南会津	2	1	0	1	0
相双	5	3	1	1	2
いわき市	8	5	2	1	3
計	48	32	12	7	16

(85)インフルエンザ(鳥インフルエンザを除く)



インフルエンザ (80インフルエンザ定点)

06/07シーズンの定点報告数は19,486例あり、前シーズンと比較して約4割増の報告数であった。'06年末から県北を中心に流行が始まり、第3週に流行開始宣言をした。その後、県内各地域に流行が拡大し、第11週のピーク以降報告数が減少し、第22週に終息となったが、いわき市では第30週まで流行が続いた。

年齢構成では、10歳未満が5割以上(52.8%)を占めた。

少ない 多い

06/07シーズン 報告数

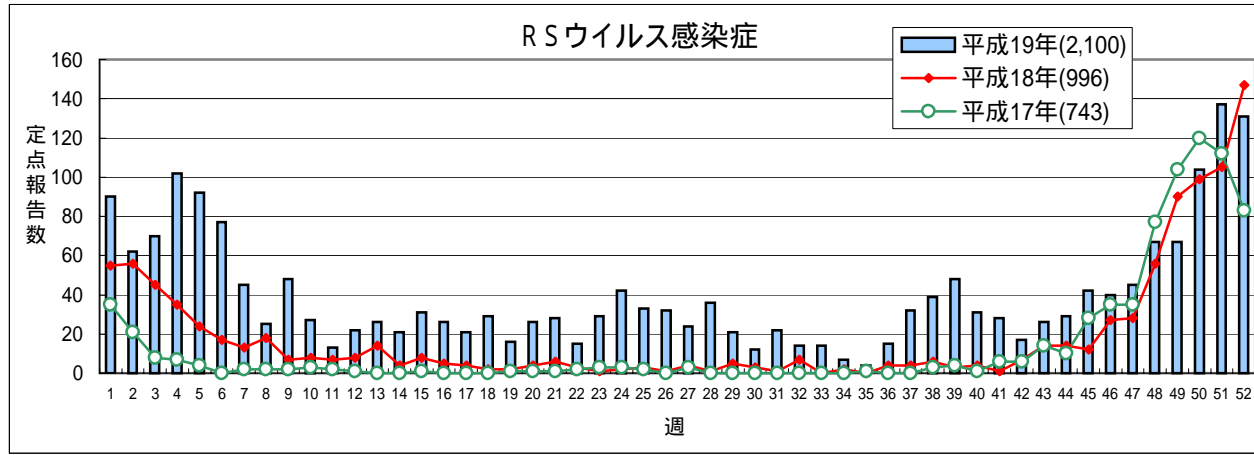
週	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w
県北	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	22	18	36	103	139	225	260	188	197	310	316	454	495	370	170
郡山市	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	3	51	86	161	204	241	241	356	499	457	400	229	87
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	6	42	45	70	97	126	151	211	264	216	219	165	82
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	3	8	28	31	73	146	205	344	340	339	219	57
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	2	2	28	51	78	119	212	341	379	378	250	200	106
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	9	8	10	21	18	21	27	128	33	45	29	9
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	15	21	39	64	69	107	151	136	231	178	150	52
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	8	34	68	99	190	155	300	411	631	741	743	383	134
06/07	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	28	35	70	259	403	683	945	989	1375	2012	2697	2850	2669	1745	697
05/06	0	0	0	0	2	4	11	30	81	141	181	442	508	708	1041	1643	2092	1870	1327	1043	714	478	373	373	225	159	68
04/05	0	0	3	0	1	0	5	10	21	11	11	11	6	35	102	325	667	1307	2060	2918	3926	4293	4006	3066	1788	849	512
週	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	合計	
県北	135	139	146	84	35	18	15	14	15	2	0	0	1	0	2	2	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3,749
郡山市	57	31	39	21	11	4	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,101
県中	39	26	47	30	20	12	9	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,800
県南	48	41	40	24	12	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,912
会津	66	54	34	11	2	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2,218
南会津	4	2	3	7	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	378
相双	27	35	42	47	17	10	8	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,359
いわき市	87	48	41	33	26	9	23	17	18	25	24	44	31	34	22	19	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,272
06/07	463	376	392	257	127	58	60	36	38	27	24	44	33	34	24	22	4	1	1	1	0	0	0	0	1	0	19,486
05/06	46	60	97	92	79	81	70	39	24	13	6	2	0	3	2	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	14,131
04/05	454	276	208	70	47	23	22	23	2	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27,089

年齢構成

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「26」

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	80歳~	合計
06/07	72	260	840	860	1087	1202	1276	1215	1259	1179	1039	4330	922	912	1130	717	477	234	263	212	19,486
05/06	121	248	787	764	815	1010	1021	891	786	656	611	1911	730	939	1043	667	448	257	251	175	14,131

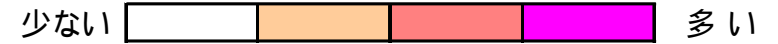
(72)RSウイルス感染症



RSウイルス感染症（48小児科定点）

定点からの年間報告数は2,100例あり、前年の約2倍の報告数であった。前年末からの流行に引き続き、2月まで県北、郡山市、県南、相双を中心に流行が見られた。県南ではその後も流行が見られ、年間をとって流行が続いた。また、11月頃から県北、郡山市を中心に再び流行が始まった。

年齢構成では、1歳までの報告が7割以上（75.5%）を占めた。



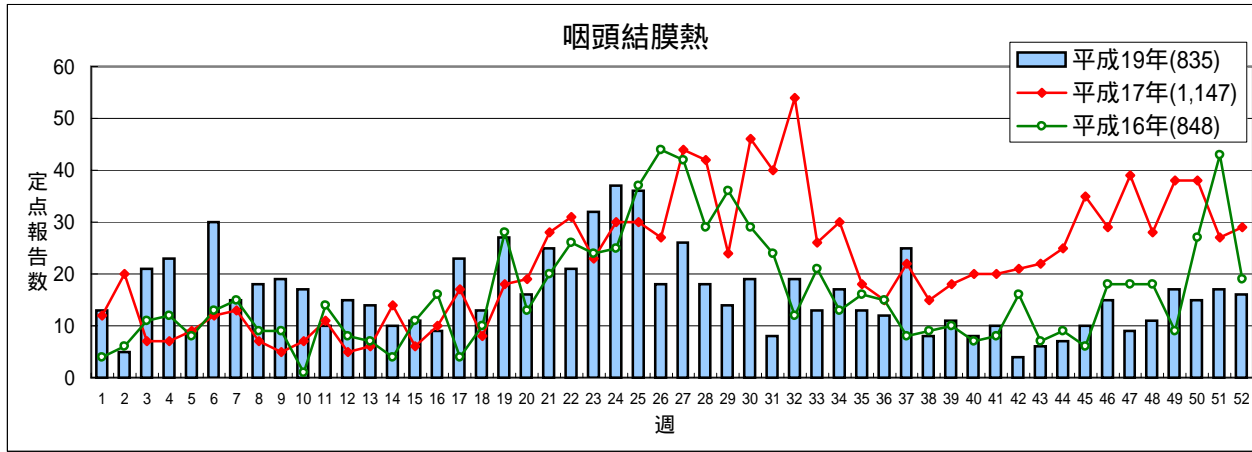
平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	39	27	34	40	37	33	22	12	13	8	1	6	9	12	12	8	8	7	2	4	5	4	5	6	6	2	1
郡山市	20	9	11	8	14	14	7	3	8	9	7	7	9	3	4	9	5	5	4	6	5	5	6	9	6	6	3
県中	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	5	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0
県南	20	12	11	14	16	12	3	2	5	2	1	3	1	3	8	7	7	16	10	14	10	6	16	24	18	21	16
会津	2	0	0	1	3	0	0	2	5	5	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	0	1	1	3	3	1
南会津	0	0	0	3	2	3	2	3	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	9	10	12	23	10	4	2	0	2	0	1	4	7	2	2	1	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	4	2	12	10	11	9	3	6	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	3
H19	90	62	70	102	92	77	45	25	48	27	13	22	26	21	31	26	21	29	16	26	28	15	29	42	33	32	24
H18	55	56	45	35	24	17	13	18	7	8	7	8	14	4	8	5	4	2	2	4	6	3	1	2	3	1	4
H17	35	21	8	7	4	0	2	2	2	3	2	1	0	0	1	0	0	0	1	1	1	2	3	3	2	0	3
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	2	1	1	2	1	1	2	1	0	1	2	5	4	4	5	5	6	12	12	12	17	25	45	46	29	604	
郡山市	4	4	2	4	2	2	1	1	0	1	3	2	2	2	1	4	4	6	7	11	18	14	29	49	54	429	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0	6	23	
県南	29	14	9	16	11	11	2	2	8	18	8	17	8	1	5	6	12	8	9	13	22	18	15	33	29	602	
会津	1	2	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	3	0	2	0	48	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	23	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	7	11	25	24	15	20	6	10	5	10	8	7	6	2	5	3	5	262	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	1	2	4	1	2	4	4	7	3	8	109	
H19	36	21	12	22	14	14	7	4	15	32	39	48	31	28	17	26	29	42	40	45	67	67	104	137	131	2,100	
H18	1	5	3	1	7	0	2	0	4	4	6	3	4	1	7	14	14	12	27	28	56	90	99	105	147	996	
H17	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	4	1	6	6	14	10	28	35	35	77	104	120	112	83	743	

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H19	409	492	685	258	114	64	42	16	8	5	1	4	0	2	2,100
H18	211	260	306	106	65	26	14	4	3	0	1	0	0	0	996

(73) 咽頭結膜熱



咽頭結膜熱 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は835例あり、前年と比較し約3割の減となった。5月から6月にかけて郡山市、相双、いわき市を中心に流行が見られ、その後県中でも流行が見られた。

年齢構成では、1～5歳の報告が約7割(73.5%)を占めた。



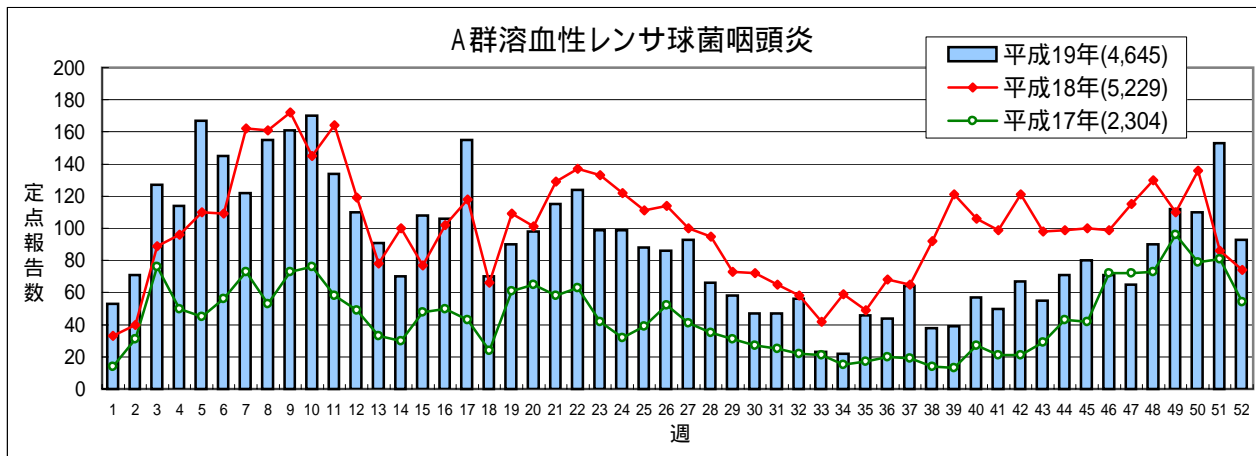
平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	3	0	5	5	3	5	0	3	3	2	1	6	1	0	1	1	6	1	1	1	5	4	6	12	4	2	14
郡山市	2	1	2	7	3	9	4	6	4	9	2	3	8	3	6	4	7	8	15	3	6	4	10	10	11	7	0
県中	3	0	1	0	1	0	0	2	0	0	4	0	0	1	2	2	0	0	1	1	2	1	1	2	1	1	3
県南	0	0	5	1	0	4	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	1	1	2	4	1	3	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	2	4	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0
相双	2	3	3	3	2	6	4	5	6	6	3	3	3	3	1	2	7	3	5	7	3	3	4	5	6	3	4
いわき市	3	1	5	7	0	6	7	2	6	0	0	3	0	0	0	0	3	1	4	2	5	3	5	7	11	5	5
H19	13	5	21	23	9	30	15	18	19	17	10	15	14	10	11	9	23	13	27	16	25	21	32	37	36	18	26
H18	12	20	7	7	9	12	13	7	5	7	11	5	6	14	6	10	17	8	18	19	28	31	23	30	30	27	44
H17	4	6	11	12	8	13	15	9	9	1	14	8	7	4	11	16	4	10	28	13	20	26	24	25	37	44	42
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	4	3	5	3	4	5	3	1	2	10	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	141	
郡山市	5	4	3	0	2	1	3	5	0	0	1	6	2	1	1	1	0	0	5	0	2	4	4	5	5	214	
県中	1	4	2	1	5	3	10	2	7	12	7	3	5	4	1	2	3	1	0	2	2	3	7	5	3	124	
県南	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	30	
会津	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	17	
南会津	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	8	
相双	2	0	5	2	4	0	0	3	1	1	0	0	1	2	0	0	1	8	9	6	5	3	2	2	8	170	
いわき市	1	1	3	2	3	4	1	1	2	2	0	0	0	2	2	3	2	1	1	1	1	5	2	0	0	131	
H19	18	14	19	8	19	13	17	13	12	25	8	11	8	10	4	6	7	10	15	9	11	17	15	17	16	835	
H18	42	24	46	40	54	26	30	18	15	22	15	18	20	20	21	22	25	35	29	39	28	38	38	27	29	1,147	
H17	29	36	29	24	12	21	13	16	15	8	9	10	7	8	16	7	9	6	18	18	18	9	27	43	19	848	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H19	4	51	161	123	108	127	95	56	33	23	15	30	3	6	835
H18	6	46	187	157	153	186	150	76	51	39	25	49	5	17	1,147

(74) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は4,645例あり、前年と比較し、約1割の減となった。県内全域で継続または断続した流行が見られ、年間をとおして流行が続いた。年齢構成では、4～6歳の報告が多かった。



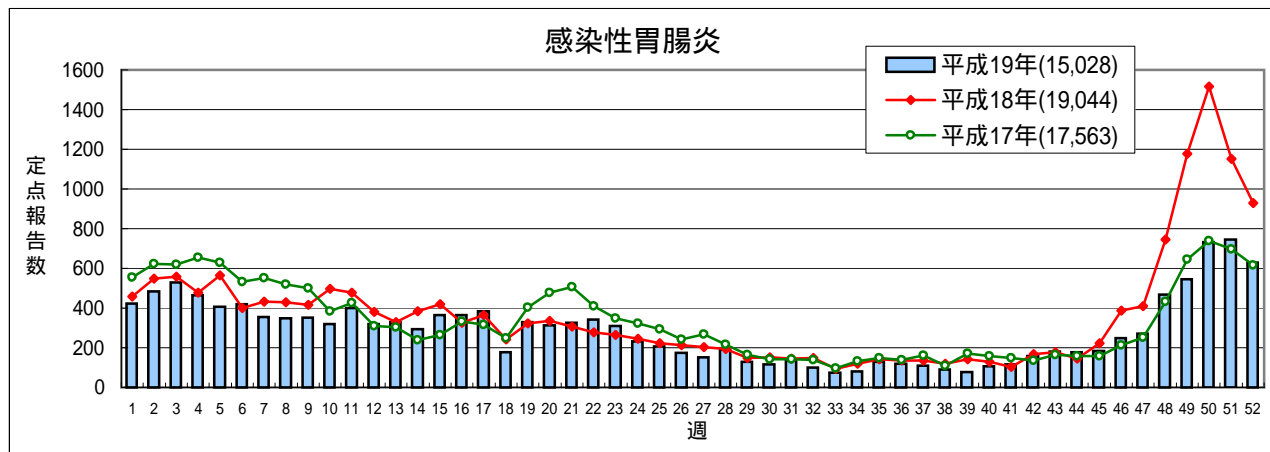
平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	29	17	35	27	67	50	43	67	75	63	60	53	45	36	60	55	85	35	43	41	43	65	46	53	55	45	35
郡山市	2	3	7	1	6	3	7	4	6	9	9	6	6	7	3	3	11	8	7	4	15	13	11	7	4	12	12
県中	1	5	7	3	4	7	6	10	13	3	1	3	2	4	3	0	2	0	7	5	10	0	7	3	1	11	7
県南	4	4	8	10	6	9	8	7	3	3	4	13	7	4	8	4	6	4	1	4	7	2	4	6	2	3	1
会津	3	16	19	27	42	48	29	36	36	23	30	23	17	11	17	17	16	8	5	14	9	7	13	11	10	5	7
南会津	0	0	1	0	0	1	2	1	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	2	1	2	0	0	0	0	1
相双	5	11	13	18	14	10	9	8	10	41	7	3	5	3	3	13	21	9	3	8	6	13	3	7	8	2	6
いわき市	9	15	37	28	28	17	18	22	18	27	22	9	9	5	13	13	14	6	23	20	24	22	15	12	8	8	24
H19	53	71	127	114	167	145	122	155	161	170	134	110	91	70	108	106	155	70	90	98	115	124	99	99	88	86	93
H18	33	40	89	96	110	109	162	161	172	145	164	119	78	100	77	102	118	66	109	101	129	137	133	122	111	114	100
H17	14	31	76	50	45	56	73	53	73	76	58	49	33	30	48	50	43	24	61	65	58	63	42	32	39	52	41
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	21	27	23	27	36	12	12	25	23	27	17	18	19	23	32	25	23	35	25	21	25	38	26	27	32	1,947	
郡山市	11	5	4	2	2	1	0	2	2	3	7	3	11	5	9	10	8	8	8	8	12	12	10	18	17	364	
県中	4	2	3	2	4	3	1	1	3	10	5	1	2	3	8	1	7	8	5	7	6	12	26	35	13	297	
県南	3	3	2	1	4	1	3	2	0	7	3	2	0	1	0	0	1	2	4	1	3	2	0	1	2	190	
会津	9	5	2	2	1	1	1	0	3	4	2	2	8	1	3	1	1	2	1	2	2	3	5	2	3	565	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	5	5	1	3	1	36	
相双	6	8	9	7	4	5	2	1	2	3	2	4	6	9	7	3	9	10	8	16	15	24	30	51	12	512	
いわき市	12	8	4	6	5	0	3	15	11	10	2	9	10	8	8	14	21	14	19	10	22	16	12	16	13	734	
H19	66	58	47	47	56	23	22	46	44	64	38	39	57	50	67	55	71	80	71	65	90	112	110	153	93	4,645	
H18	95	73	72	65	58	42	59	49	68	65	92	121	106	99	121	98	99	100	99	115	130	110	136	86	74	5,229	
H17	35	31	27	25	22	21	15	17	20	19	14	13	27	21	21	29	43	42	72	72	73	96	79	81	54	2,304	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H19	7	30	188	267	433	595	720	633	415	366	261	538	49	143	4,645
H18	4	44	215	322	452	768	824	693	552	407	299	517	35	97	5,229

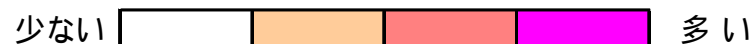
(75) 感染性胃腸炎



感染性胃腸炎（48小児科定点）

定点からの年間報告数は15,028例あり、前年より報告数は減少した。例年どおり年末に報告数が増加した。

年齢構成では、1歳の報告が最も多く、次いで2歳、3歳、4歳、5歳の順に報告が多かった。



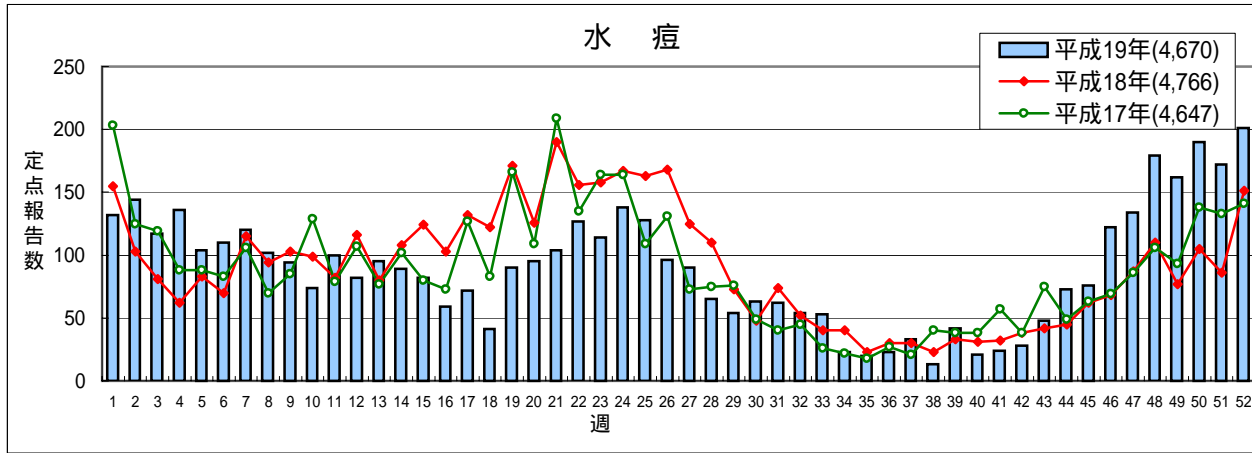
平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	87	103	83	83	42	61	66	55	65	58	87	67	85	72	77	72	74	29	72	57	58	65	44	45	31	26	27
郡山市	38	52	79	72	82	47	45	48	41	61	48	36	39	44	45	57	74	43	57	43	58	39	43	26	28	24	16
県中	59	79	85	78	79	52	54	67	34	42	63	38	41	40	57	74	50	15	54	56	53	61	44	34	35	20	24
県南	29	23	36	20	14	25	21	14	20	22	15	14	20	6	24	12	19	12	9	10	17	15	17	6	18	17	8
会津	67	97	101	93	59	83	55	56	74	48	55	44	49	39	37	42	42	40	42	49	52	79	76	54	35	38	31
南会津	32	15	15	1	1	4	3	2	3	3	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
相双	45	72	74	67	77	82	69	65	83	26	78	58	37	37	58	56	49	22	57	64	53	51	70	36	45	35	26
いわき市	67	43	56	52	52	66	43	43	32	59	53	61	57	55	66	52	75	15	38	34	34	31	15	30	16	14	19
H19	424	484	529	466	406	420	356	350	352	319	399	319	328	293	364	365	384	176	329	313	325	342	309	231	208	174	151
H18	459	548	559	478	565	401	433	430	417	497	479	380	330	385	420	326	365	243	324	336	308	279	263	246	222	213	202
H17	555	622	620	654	629	532	553	519	499	384	427	311	304	239	263	332	316	250	402	477	505	411	349	323	295	243	268
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	27	9	23	22	12	13	15	14	20	11	9	13	16	12	26	17	17	27	20	59	98	78	185	137	126	2,697	
郡山市	20	14	11	12	16	6	14	26	11	9	8	8	16	14	29	66	33	37	58	42	59	68	75	84	69	2,090	
県中	24	30	20	32	18	12	7	21	22	23	16	12	18	22	25	30	29	28	35	35	81	100	78	97	50	2,253	
県南	8	5	3	6	4	2	0	5	0	2	2	2	3	4	3	0	5	2	4	7	14	33	52	66	49	744	
会津	42	20	20	15	18	20	17	22	19	21	14	21	21	33	37	23	17	36	30	41	67	72	71	97	103	2,434	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	86	
相双	46	39	25	30	20	17	18	24	40	34	27	18	29	25	30	37	58	38	51	54	95	103	104	85	91	2,630	
いわき市	23	12	13	18	11	4	9	16	6	10	14	5	4	4	8	9	20	16	52	32	55	90	167	180	138	2,094	
H19	190	129	115	135	99	74	80	128	118	110	90	79	107	115	158	182	179	184	250	270	469	544	732	746	629	15,028	
H18	194	147	153	145	150	95	118	141	137	136	118	143	128	104	167	179	144	221	386	409	744	1179	1517	1151	930	19,044	
H17	217	166	141	143	139	97	131	147	139	161	109	172	158	149	134	164	157	159	213	253	433	645	740	697	617	17,563	

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H19	110	937	1940	1476	1463	1316	1227	976	778	667	517	1576	319	1726	15,028
H18	203	1124	2618	1974	1763	1757	1684	1265	929	764	656	1938	390	1979	19,044

(76)水痘



水痘 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は4,670例あり、5月から7月にかけては郡山市を中心に、11月から12月にかけては県北、郡山市、県中を中心に流行が見られた。流行の季節推移は例年どおりの形となった。

年齢構成では、1～5歳の報告が多く、約8割(78.4%)を占めた。



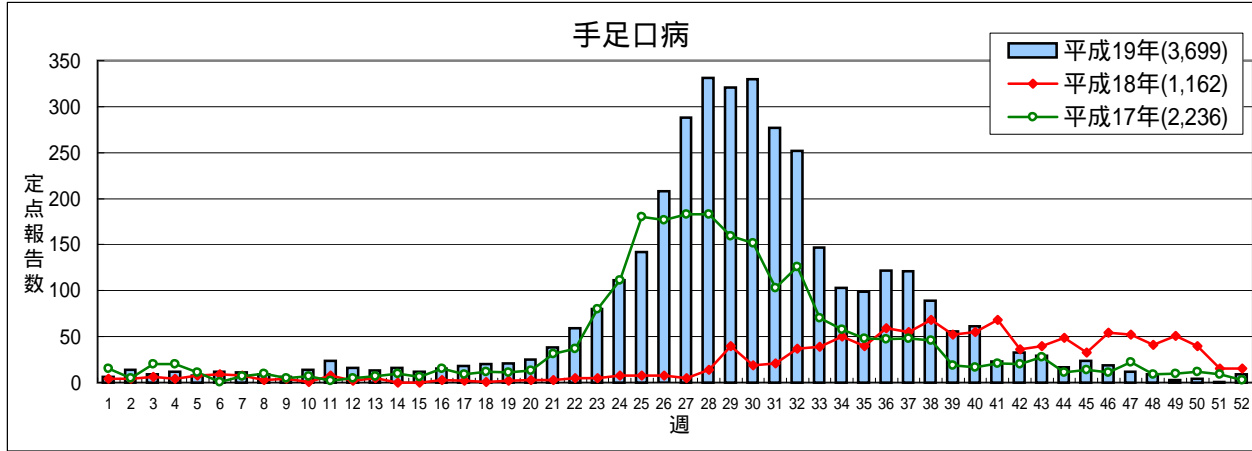
平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	36	22	30	34	38	22	31	15	18	14	18	17	18	22	8	26	7	13	21	30	23	26	34	17	31	31	25
郡山市	10	10	12	8	8	2	6	7	6	8	11	5	11	10	17	7	24	8	23	24	25	32	20	50	18	23	15
県中	23	33	18	25	14	12	29	11	31	13	14	22	11	14	15	9	11	3	11	10	18	19	12	31	13	11	13
県南	3	14	6	5	2	13	7	15	6	6	5	1	4	1	2	0	3	0	6	4	3	7	7	5	4	4	6
会津	5	16	13	11	11	6	8	11	2	6	3	4	2	9	1	3	2	1	4	6	9	8	10	8	17	8	11
南会津	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	3	3
相双	7	1	3	1	4	5	6	6	5	8	20	12	22	17	17	7	5	0	5	5	9	17	16	9	18	8	3
いわき市	46	48	35	51	27	50	33	37	26	19	29	20	27	16	22	7	20	16	20	16	15	18	15	18	25	8	14
H19	132	144	117	136	104	110	120	102	94	74	100	82	95	89	82	59	72	41	90	95	104	127	114	138	128	96	90
H18	155	103	81	62	83	70	115	94	103	99	82	116	80	108	124	103	132	122	171	126	190	156	158	167	163	168	125
H17	203	125	119	88	88	83	106	70	85	129	79	107	77	102	80	73	127	83	166	109	209	135	164	164	109	131	73
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	8	18	12	13	15	13	3	7	5	5	3	7	4	6	8	12	21	26	43	44	64	47	64	43	51	1,169	
郡山市	20	10	24	23	16	22	8	5	5	5	3	4	3	6	3	7	10	10	28	19	23	19	30	33	46	782	
県中	9	6	5	8	3	1	0	0	2	4	1	1	7	6	5	13	13	13	20	21	37	37	45	27	44	774	
県南	5	3	2	2	0	3	1	0	3	1	2	2	0	1	2	1	6	5	13	11	11	10	7	17	6	253	
会津	9	9	5	5	5	4	5	2	3	3	1	0	0	0	3	4	6	5	2	7	29	18	24	21	19	384	
南会津	2	0	3	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	26	
相双	6	4	2	6	8	3	3	4	3	10	2	24	5	2	2	4	3	3	4	13	6	7	7	8	12	387	
いわき市	6	4	10	5	6	5	3	2	1	5	1	4	2	2	5	7	14	14	12	19	9	24	13	22	22	895	
H19	65	54	63	62	54	53	23	20	23	33	13	42	21	24	28	48	73	76	122	134	179	162	190	172	201	4,670	
H18	110	73	48	74	52	40	40	23	30	30	23	33	31	32	38	42	45	62	68	87	110	77	105	86	151	4,766	
H17	75	76	49	40	45	26	22	18	27	21	40	38	38	57	38	75	49	63	69	86	106	93	138	133	141	4,647	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H19	104	329	890	830	765	684	494	232	103	78	45	78	11	27	4,670
H18	96	291	794	824	796	770	573	273	118	75	36	94	9	17	4,766

(77)手足口病



手足口病（48小児科定点）

定点からの年間報告数は3,699例あり、前年の3倍以上の報告数であった。6月下旬から8月中旬にかけて南会津を除く県内全地域で流行が見られ、特に郡山市では大きな流行が見られた。

年齢構成では、1～4歳の報告が多く、約7割(71.9%)を占めた。



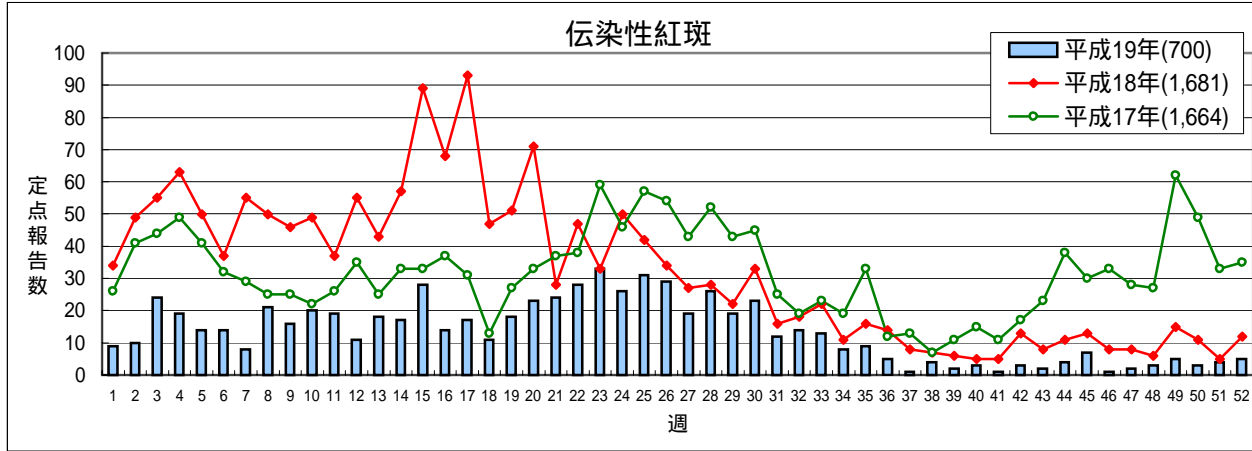
平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	2	0	1	1	0	0	0	0	0	1	2	1	1	1	0	1	4	0	0	2	0	0	2	3	3	19	22
郡山市	0	3	1	1	0	2	1	1	0	1	5	2	4	5	4	3	6	10	9	13	13	31	31	35	51	77	100
県中	0	1	0	1	1	3	5	1	1	1	3	8	4	8	3	4	2	2	4	3	7	5	10	34	38	58	94
県南	2	1	0	3	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2	1	1	2	4	13	14	13	7	24	19
会津	0	0	4	1	2	1	1	3	5	11	11	3	4	2	2	1	1	3	1	0	3	2	8	8	15	7	10
南会津	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	7	6	12	12	18	19	38
いわき市	2	8	3	5	5	6	3	4	0	0	2	1	0	0	2	3	2	4	5	3	4	2	3	6	10	4	5
H19	6	14	9	12	8	12	11	9	6	14	24	16	13	16	12	15	18	20	21	25	38	59	80	111	142	208	288
H18	4	4	6	4	8	9	8	3	4	1	8	2	5	0	0	3	2	1	2	3	3	5	5	8	8	8	5
H17	15	5	20	20	11	1	7	10	5	7	2	5	7	10	6	15	9	12	11	13	31	37	80	111	180	177	183
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	28	24	40	58	54	24	24	32	34	40	19	11	18	6	8	7	2	7	5	1	1	0	0	0	0	510	
郡山市	176	135	109	59	37	17	16	3	11	6	2	3	5	1	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	994	
県中	72	89	82	51	48	14	8	5	2	4	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	683	
県南	19	16	26	16	16	18	9	3	13	18	18	2	4	2	3	1	2	0	0	2	0	0	1	0	1	300	
会津	8	22	25	41	41	39	23	31	27	22	28	17	16	6	8	9	6	13	7	5	3	2	3	1	5	517	
南会津	0	0	0	2	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	11	
相双	22	19	25	23	21	23	8	8	10	6	1	3	0	2	4	0	0	1	1	0	5	0	0	0	0	298	
いわき市	6	16	23	27	35	10	15	17	25	24	15	19	18	6	9	10	7	1	5	4	0	0	0	0	2	386	
H19	331	321	330	277	252	147	103	99	122	121	89	56	61	23	33	29	17	24	19	12	9	3	4	1	9	3,699	
H18	14	40	19	21	37	39	50	40	59	55	68	52	55	68	36	40	49	33	54	52	41	51	40	15	15	1,162	
H17	183	159	152	103	126	70	58	48	47	48	46	19	17	21	20	28	11	14	11	22	9	10	12	9	3	2,236	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H19	17	169	861	732	570	496	344	202	95	79	41	71	7	15	3,699
H18	4	48	281	257	182	138	103	64	28	14	10	24	1	8	1,162

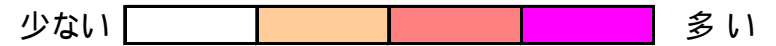
(78) 伝染性紅斑



伝染性紅斑 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は700例あり、前年の1/2以下の報告数であった。

年齢構成では、3歳～7歳の報告が多く、約7割(67.9%)を占めた。



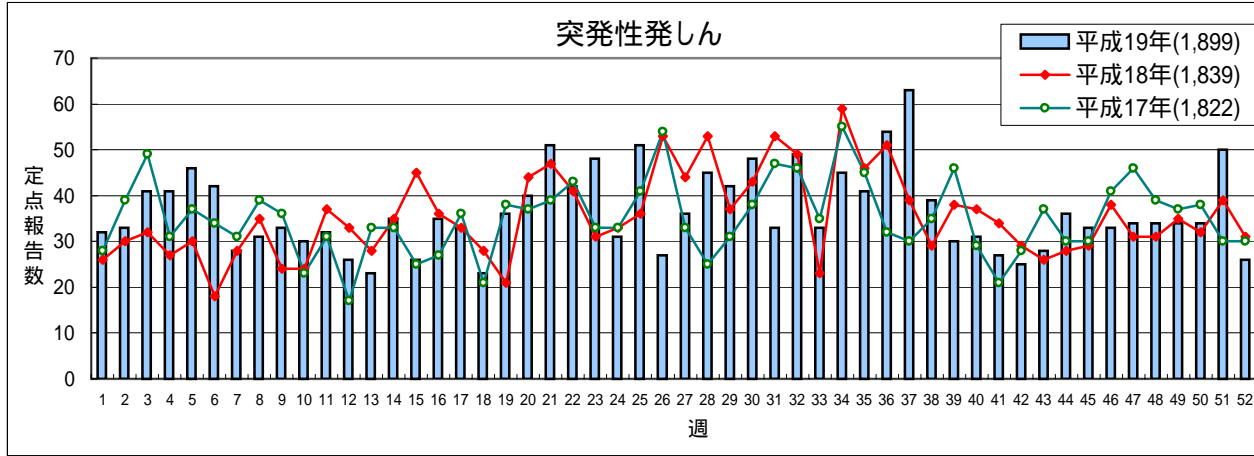
平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	2	0	2	4	1	3	1	4	1	3	6	3	4	4	6	4	5	0	3	3	3	2	4	4	5	2	5
郡山市	2	9	14	8	6	4	3	7	8	11	8	3	8	5	10	4	3	3	5	3	5	10	17	5	7	8	3
県中	4	0	5	2	1	1	0	1	1	1	2	2	0	0	0	2	5	0	5	5	7	5	4	5	3	9	1
県南	0	0	2	1	4	3	1	3	2	1	0	2	1	2	3	0	1	3	2	8	6	6	7	7	7	3	3
会津	1	1	1	1	1	0	1	2	4	2	2	1	0	1	3	1	1	3	2	1	1	1	0	2	2	3	4
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	2	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1	0
いわき市	0	0	0	2	0	3	1	3	0	2	0	0	5	5	5	1	2	1	1	2	1	4	1	3	6	3	3
H19	9	10	24	19	14	14	8	21	16	20	19	11	18	17	28	14	17	11	18	23	24	28	33	26	31	29	19
H18	34	49	55	63	50	37	55	50	46	49	37	55	43	57	89	68	93	47	51	71	28	47	33	50	42	34	27
H17	26	41	44	49	41	32	29	25	25	22	26	35	25	33	33	37	31	13	27	33	37	38	59	46	57	54	43
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	4	7	9	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	2	0	0	1	1	0	0	0	0	115
郡山市	11	3	6	1	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	2	1	2	213	
県中	5	4	1	3	6	3	3	5	2	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	107	
県南	2	3	3	1	4	6	2	1	1	1	2	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	2	109	
会津	1	1	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	1	1	0	1	0	55	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3	
相双	0	0	1	1	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	1	24	
いわき市	3	1	3	3	2	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	74	
H19	26	19	23	12	14	13	8	9	5	1	4	2	3	1	3	2	4	7	1	2	3	5	3	4	5	700	
H18	28	22	33	16	18	22	11	16	14	8	7	6	5	5	13	8	11	13	8	8	6	15	11	5	12	1,681	
H17	52	43	45	25	19	23	19	33	12	13	7	11	15	11	17	23	38	30	33	28	27	62	49	33	35	1,664	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H19	2	18	39	39	87	99	149	81	59	46	41	35	0	5	700
H18	4	34	82	120	188	262	241	206	187	128	99	103	4	23	1,681

(79)突発性発しん



突発性発しん (48小児科定点)

定点からの年間報告数は1,899例あり、例年どおりの報告数となった。
年齢構成では、1歳までの報告がほとんど(97.7%)であった。



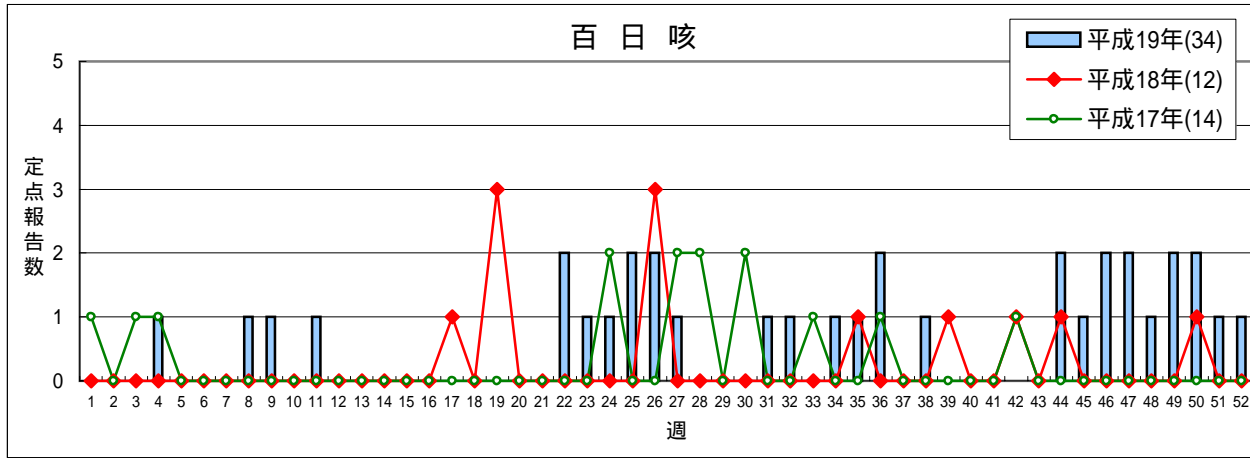
平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	8	7	7	12	16	10	9	4	8	6	9	7	5	11	2	5	12	7	8	8	15	12	8	8	14	4	11
郡山市	6	6	12	6	8	12	5	5	9	4	5	4	7	8	6	8	5	6	9	11	13	9	8	5	7	3	5
県中	3	7	3	3	0	4	2	2	6	4	4	2	0	2	2	2	1	0	4	4	5	3	7	3	2	5	0
県南	3	2	5	5	4	4	0	2	0	2	1	1	1	2	1	6	2	1	4	4	2	3	5	1	8	0	1
会津	1	2	3	0	6	1	1	3	1	3	2	2	4	2	3	3	4	0	4	1	4	5	4	1	5	2	1
南会津	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
相双	4	3	4	3	4	3	5	3	4	4	5	4	3	4	5	5	3	4	4	3	6	4	4	1	9	7	5
いわき市	6	6	7	12	8	8	6	12	5	7	6	6	3	6	7	6	6	5	3	9	6	6	11	11	6	6	13
H19	32	33	41	41	46	42	28	31	33	30	32	26	23	35	26	35	33	23	36	40	51	42	48	31	51	27	36
H18	26	30	32	27	30	18	28	35	24	24	37	33	28	35	45	36	33	28	21	44	47	41	31	33	36	53	44
H17	28	39	49	31	37	34	31	39	36	23	31	17	33	33	25	27	36	21	38	37	39	43	33	33	41	54	33
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	10	8	15	6	12	7	11	9	19	17	13	3	13	8	8	12	8	13	6	7	10	12	12	12	3	487	
郡山市	8	11	13	5	6	6	4	7	10	10	9	6	6	2	4	4	5	9	4	3	6	4	4	7	2	347	
県中	3	1	4	5	3	3	6	4	5	5	3	4	2	4	1	0	4	1	2	5	2	1	5	4	5	162	
県南	4	2	2	3	6	6	6	2	4	3	1	3	0	0	2	0	1	1	4	2	2	3	2	4	3	136	
会津	5	7	3	3	1	3	0	6	6	7	5	3	0	5	1	1	4	0	2	5	2	4	2	1	0	144	
南会津	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	10	
相双	6	6	4	3	7	3	7	3	3	9	3	4	3	3	3	5	5	3	7	5	2	4	3	6	3	223	
いわき市	9	7	7	7	13	5	11	10	7	12	5	7	6	4	6	6	8	5	8	7	10	6	6	16	9	390	
H19	45	42	48	33	49	33	45	41	54	63	39	30	31	27	25	28	36	33	33	34	34	34	34	50	26	1,899	
H18	53	37	43	53	49	23	59	46	51	39	29	38	37	34	29	26	28	29	38	31	31	35	32	39	31	1,839	
H17	25	31	38	47	46	35	55	45	32	30	35	46	29	21	28	37	30	30	41	46	39	37	38	30	30	1,822	

年齢構成

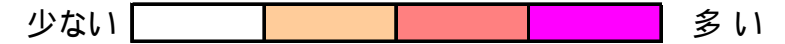
	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H19	57	1162	636	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,899
H18	96	1115	579	41	5	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1,839

(80)百日咳



百日咳 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は34例あった。
年齢構成では、2歳までの報告が約6割(64.7%)であった。



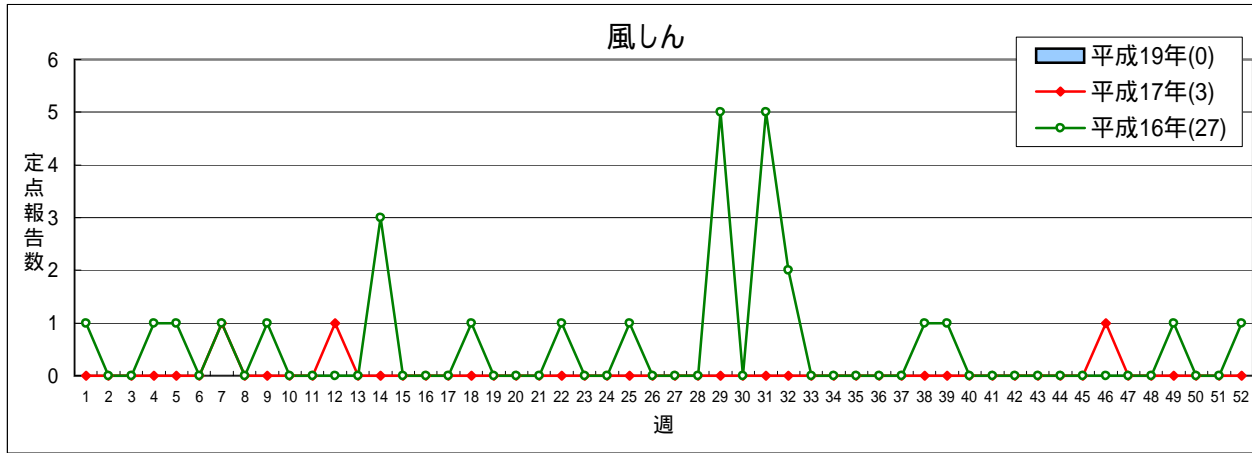
平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	
県中	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H19	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	2	2	1	
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	
H17	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計		
県北	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5		
郡山市	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	7		
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2		
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
相双	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	2	2	1	1	15		
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
H19	0	0	0	1	1	0	1	1	2	0	1	0	0	0	0	0	2	1	2	2	1	2	2	1	1	34		
H18	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	12		
H17	2	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14		

年齢構成

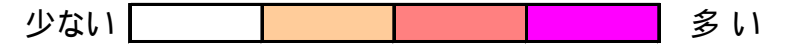
	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H19	5	8	2	7	2	2	0	1	0	0	1	5	0	1	34
H18	1	4	0	4	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	12

(81)風しん



風しん (48小児科定点)

定点からの報告はなかった。



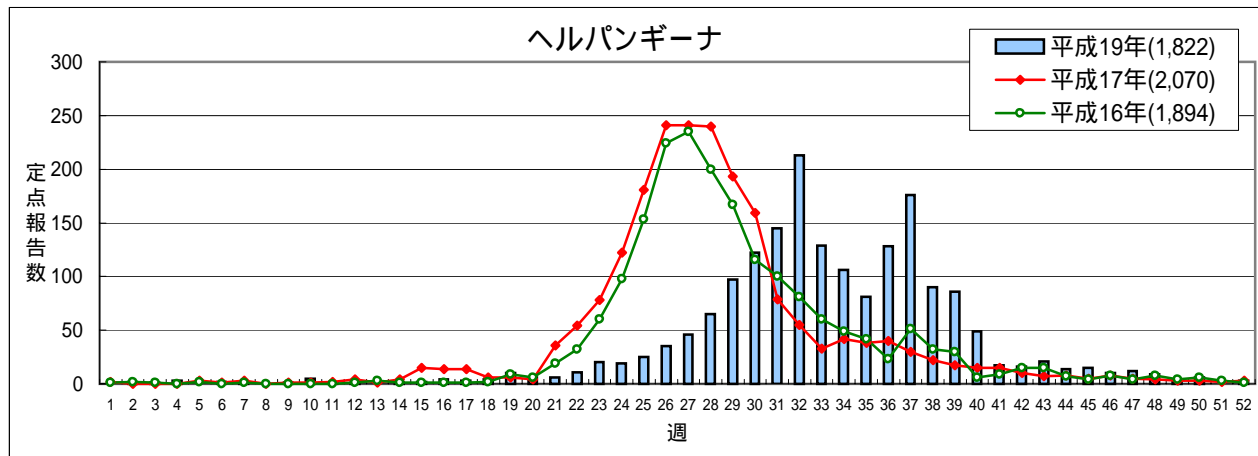
平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H18	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	
H17	0	5	0	5	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	27	

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H18	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3

(82)ヘルパンギーナ



ヘルパンギーナ（48小児科定点）

定点からの年間報告数は1,822例あり、7月下旬からいわき市を中心に流行が始まり、その後県内全域に流行が拡大し、10月まで続いた。例年と比べて遅い季節に流行した。

年齢構成では、1歳～2歳の報告が多く、約半数（48.9%）を占めた。



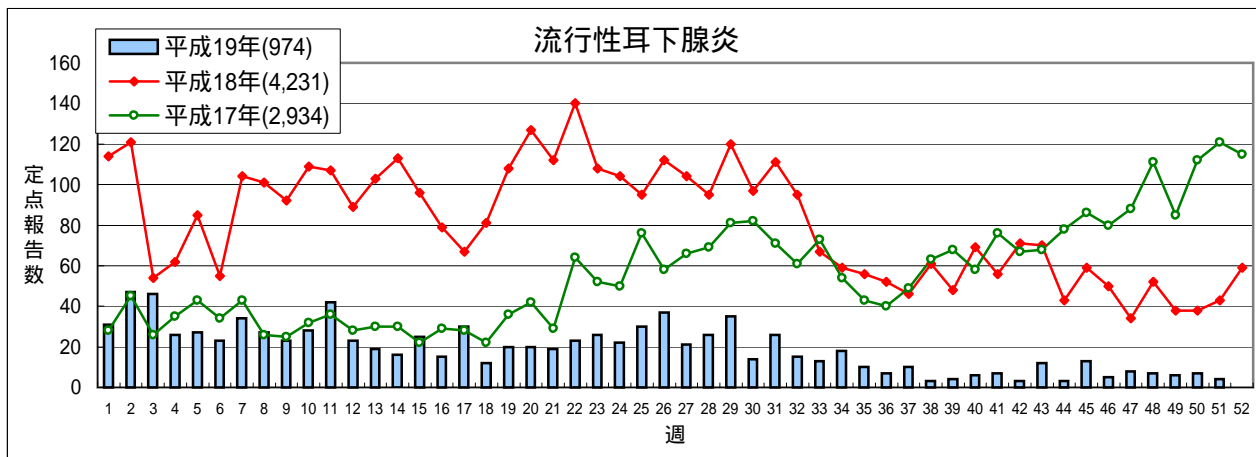
平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	5	3	4	7
県中	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
県南	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	5	3	2	2
会津	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1
いわき市	0	1	0	2	0	1	0	0	1	5	1	1	0	0	1	4	3	4	9	3	5	10	15	7	15	26	34
H19	0	2	1	3	0	2	1	0	1	5	1	1	0	1	2	4	3	4	10	6	6	11	20	19	25	35	46
H18	2	0	0	0	3	1	3	0	1	1	2	4	1	4	15	14	14	6	6	4	36	54	78	122	181	241	241
H17	1	2	1	0	2	0	1	0	0	0	0	1	3	1	1	1	1	2	9	6	19	32	60	98	153	224	235
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	2	5	10	23	53	24	33	17	41	50	13	11	10	4	6	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	315	
郡山市	5	7	12	8	5	11	11	5	9	11	9	6	2	0	2	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	130	
県中	4	3	4	0	8	8	5	1	5	8	8	5	5	1	2	0	3	2	0	0	1	2	2	0	1	85	
県南	0	3	13	7	15	6	4	8	10	11	8	10	1	1	0	0	0	5	5	1	0	1	1	0	0	127	
会津	0	4	6	3	13	17	18	27	31	52	21	28	17	2	3	6	6	3	1	10	5	0	0	0	0	278	
南会津	0	0	0	0	3	9	4	0	10	9	6	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	44	
相双	1	2	31	41	57	24	11	10	10	21	9	8	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	234	
いわき市	53	73	46	63	59	30	20	13	12	14	16	18	11	8	2	6	4	3	3	0	3	0	2	0	2	609	
H19	65	97	122	145	213	129	106	81	128	176	90	86	49	17	16	21	14	15	10	12	9	3	6	0	3	1,822	
H18	240	193	159	79	55	33	42	38	40	30	22	17	15	15	10	7	8	5	8	5	4	3	3	2	3	2,070	
H17	200	167	116	100	81	60	49	42	23	51	32	30	6	9	15	15	7	4	8	4	8	4	6	3	1	1,894	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H19	15	170	529	362	274	194	137	56	30	24	10	18	1	2	1,822
H18	16	160	533	454	325	251	176	64	36	22	15	15	1	2	2,070

(84)流行性耳下腺炎



流行性耳下腺炎 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は974例あり、前年の約1/4の報告数であった。相双では前年の流行に引き続いて、7月まで流行が見られた。

年齢構成では、4歳をピークに2～7歳の報告が多く、約8割(80.4%)を占めた。



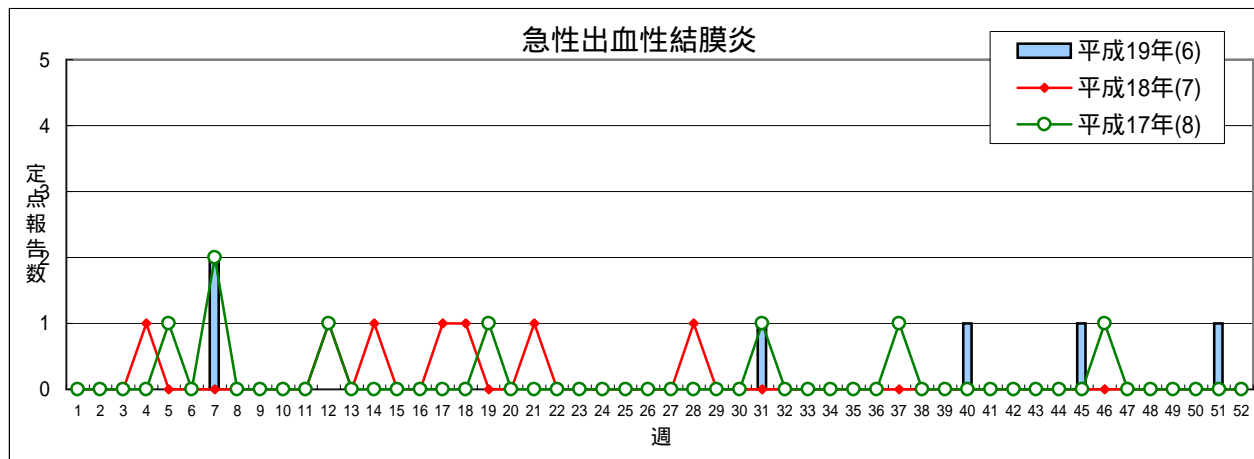
平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	6	10	5	6	9	5	3	8	2	3	7	2	1	2	3	2	5	0	1	4	0	6	2	0	6	3	1
郡山市	3	0	3	2	2	1	4	1	3	1	3	0	0	1	1	1	2	0	0	3	0	1	0	2	4	3	1
県中	4	6	11	7	5	3	15	0	4	5	3	4	0	1	0	4	2	1	6	1	3	2	8	5	9	13	5
県南	0	4	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	4	1	1	0	0	2	0	2	1	1	2
会津	1	3	2	1	0	1	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0
南会津	1	5	10	0	2	1	1	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	9	12	12	7	6	4	5	6	10	9	18	9	9	12	18	6	15	7	9	9	12	7	10	6	9	14	8
いわき市	7	7	3	3	3	7	5	10	3	8	7	8	6	0	3	2	2	2	3	3	4	5	6	7	0	2	4
H19	31	47	46	26	27	23	34	27	23	28	42	23	19	16	25	15	30	12	20	20	19	23	26	22	30	37	21
H18	114	121	54	62	85	55	104	101	92	109	107	89	103	113	96	79	67	81	108	127	112	140	108	104	95	112	104
H17	28	45	26	35	43	34	43	26	25	32	36	28	30	30	22	29	28	22	36	42	29	64	52	50	76	58	66
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	1	1	1	0	2	0	2	0	3	2	1	2	0	0	1	0	4	0	2	1	2	2	2	0	0	131
郡山市	3	1	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	59
県中	10	11	3	20	2	1	10	6	5	1	0	1	3	1	3	1	0	2	1	1	2	1	1	0	0	213	
県南	3	2	0	0	0	3	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	37	
会津	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	22	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	26	
相双	5	17	5	1	6	5	2	1	0	2	1	1	0	5	0	1	1	2	2	3	2	1	1	1	0	323	
いわき市	5	3	4	4	4	2	2	1	1	4	0	0	0	1	0	4	0	3	0	0	1	2	2	0	0	163	
H19	26	35	14	26	15	13	18	10	7	10	3	4	6	7	3	12	3	13	5	8	7	6	7	4	0	974	
H18	95	120	97	111	95	67	59	56	52	46	61	48	69	56	71	70	43	59	50	34	52	38	38	43	59	4,231	
H17	69	81	82	71	61	73	54	43	40	49	63	68	58	76	67	68	78	86	80	88	111	85	112	121	115	2,934	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H19	0	4	44	96	144	193	165	102	83	53	28	54	1	7	974
H18	3	18	164	329	520	698	697	564	425	272	203	254	25	59	4,231

(86)急性出血性結膜炎



急性出血性結膜炎 (12眼科定点)

定点からの年間報告数は6例あり、年間をとおして散発事例のみであった。



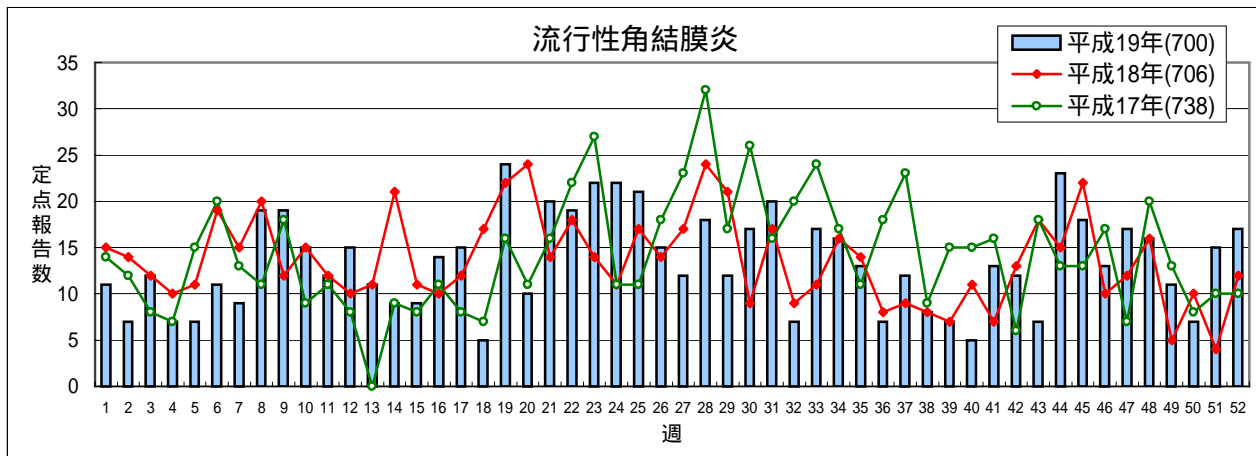
平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H19	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H18	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
H17	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
会津	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H19	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	6	
H18	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	
H17	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	8	

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	70歳~	合計
H19	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	6
H18	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	1	0	7

(87)流行性角結膜炎



流行性角結膜炎 (12眼科定点)

定点からの年間報告数は700例あり、年間をととして流行は見られなかった。
年齢構成では、20歳以上の報告が、約7割(78.4%)を占めた。



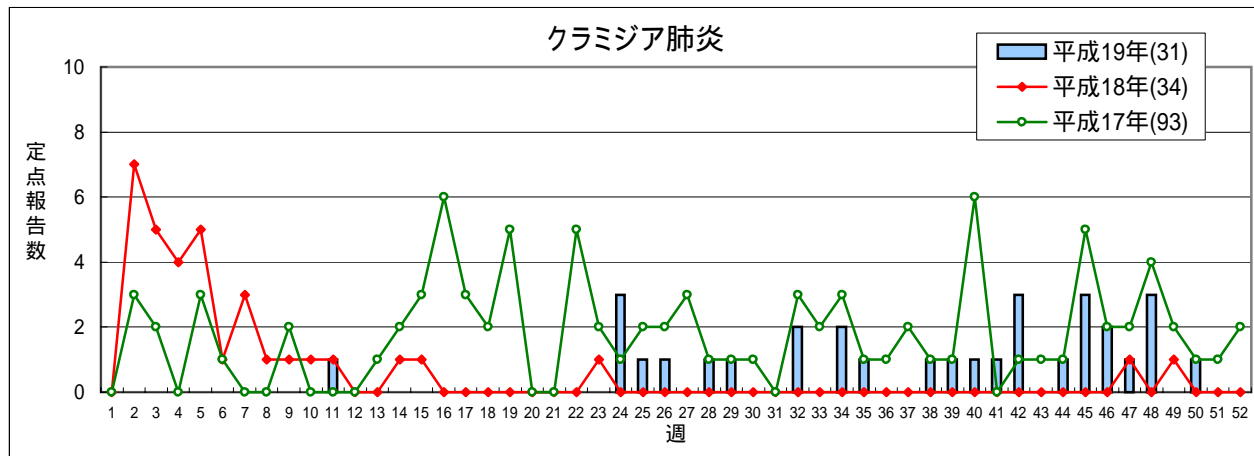
平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	3	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	2	1	4	2	1	3
郡山市	2	3	4	2	5	1	1	4	8	7	6	4	2	4	4	6	4	1	7	5	7	7	9	7	7	3	4
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
県南	0	3	2	2	0	2	2	3	2	3	3	7	6	2	2	4	3	3	8	3	6	6	9	5	5	7	2
会津	0	0	3	2	1	3	2	4	0	0	1	1	0	0	0	2	3	0	3	1	4	3	2	1	4	1	0
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
相双	2	1	2	0	1	3	3	7	4	4	2	1	0	0	1	1	2	1	5	1	2	1	0	3	2	2	2
いわき市	4	0	1	1	0	2	1	0	2	0	0	2	3	1	2	1	2	0	1	0	0	0	1	2	1	1	0
H19	11	7	12	7	7	11	9	19	19	15	12	15	11	9	9	14	15	5	24	10	20	19	22	22	21	15	12
H18	15	14	12	10	11	19	15	20	12	15	12	10	11	21	11	10	12	17	22	24	14	18	14	11	17	14	17
H17	14	12	8	7	15	20	13	11	18	9	11	8	0	9	8	11	8	7	16	11	16	22	27	11	11	18	23
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	1	4	1	2	0	2	2	1	1	4	1	2	0	0	1	0	2	0	0	1	2	0	1	1	1	1	53
郡山市	5	3	8	8	3	5	3	4	1	5	2	0	0	4	0	3	2	2	2	7	5	4	0	2	5	207	
県中	1	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	1	3	0	0	1	1	18	
県南	4	1	4	5	1	3	5	2	0	3	1	1	0	1	5	2	11	5	5	4	1	3	1	4	5	177	
会津	5	3	1	1	2	4	4	2	1	0	1	0	0	1	0	0	2	5	5	2	2	1	0	2	1	86	
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
相双	1	1	3	3	1	1	2	3	4	0	2	2	3	5	6	2	4	3	0	1	1	1	1	1	2	106	
いわき市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	1	1	1	1	2	2	4	4	2	53	
H19	18	12	17	20	7	17	16	13	7	12	8	7	5	13	12	7	23	18	13	17	16	11	7	15	17	700	
H18	24	21	9	17	9	11	16	14	8	9	8	7	11	7	13	18	15	22	10	12	16	5	10	4	12	706	
H17	32	17	26	16	20	24	17	11	18	23	9	15	15	16	6	18	13	13	17	7	20	13	8	10	10	738	

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	70歳~	合計
H19	0	0	8	9	14	21	15	11	9	9	3	21	31	146	178	89	70	41	25	700
H18	1	6	18	14	22	15	13	20	7	7	7	28	27	111	162	99	87	37	25	706

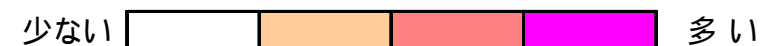
(92)クラミジア肺炎(オウム病を除く)



クラミジア肺炎 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は31例あった。また、すべて郡山市からの報告であった。

年齢構成では、70歳以上が約半数(51.6%)を占めた。



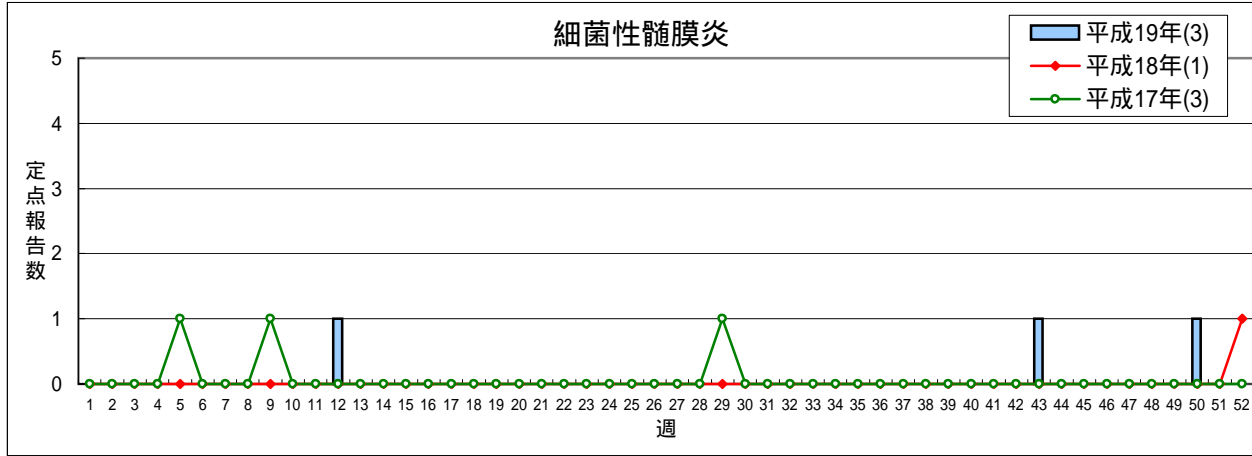
平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0
H18	0	7	5	4	5	1	3	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
H17	0	3	2	0	3	1	0	0	2	0	0	0	1	2	3	6	3	2	5	0	0	5	2	1	2	2	3
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
郡山市	1	1	0	0	2	0	2	1	0	0	1	1	1	1	3	0	1	3	2	1	3	0	1	0	0	31	
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H19	1	1	0	0	2	0	2	1	0	0	1	1	1	1	3	0	1	3	2	1	3	0	1	0	0	31	
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	34	
H17	1	1	1	0	3	2	3	1	1	2	1	1	6	0	1	1	1	5	2	2	4	2	1	1	2	93	

年齢構成

	~0歳	~4歳	~9歳	~14歳	~19歳	~24歳	~29歳	~34歳	~39歳	~44歳	~49歳	~54歳	~59歳	~64歳	~69歳	70歳~	合計
H19	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	2	3	1	2	4	16	31
H18	0	0	0	0	1	0	2	2	2	0	0	1	3	1	5	17	34

(93)細菌性髄膜炎



細菌性髄膜炎 (7基幹定点)

定点からの年間報告数はいわき市からの3例であった。



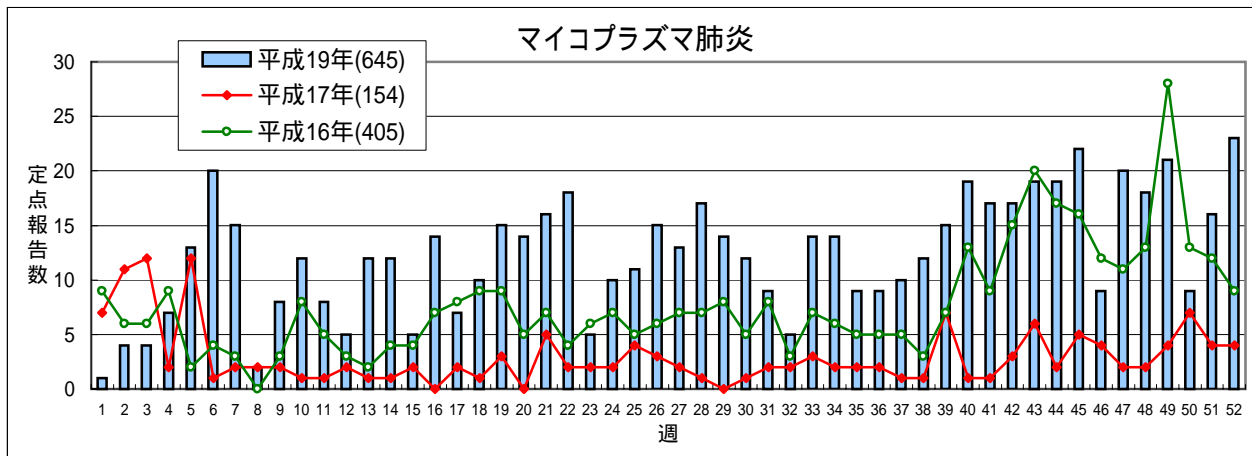
平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	
H19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
H17	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	

年齢構成

	~0歳	~4歳	~9歳	~14歳	~19歳	~24歳	~29歳	~34歳	~39歳	~44歳	~49歳	~54歳	~59歳	~64歳	~69歳	70歳~	合計
H19	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

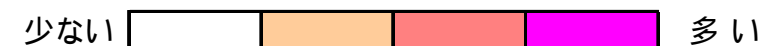
(95) マイコプラズマ肺炎



マイコプラズマ肺炎 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は645例あり、前年の4倍以上の報告数であった。報告数のほとんどが、県北、郡山市、南会津、いわき市からのものであり、いわき市の報告数は全体の約6割(57.8%)、南会津は約2割(20.3%)を占めた。

年齢構成では、14歳以下の報告が約9割(88.4%)を占めた。



平成19年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	1	3	4	3	1	3	2	1	0	1	0	0	0	1	2	1	0	2	2	2	3	1	1	2	1	1	2
郡山市	0	1	0	3	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	11	15	12	1	8	9	7	4	12	10	3	11	6	8	13	12	13	17	3	6	9	13	7
H19	1	4	4	7	13	20	15	2	8	12	8	5	12	12	5	14	7	10	15	14	16	18	5	10	11	15	13
H18	7	11	12	2	12	1	2	2	2	1	1	2	1	1	2	0	2	1	3	0	5	2	2	2	4	3	2
H17	9	6	6	9	2	4	3	0	3	8	5	3	2	4	4	7	8	9	9	5	7	4	6	7	5	6	7
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	1	1	2	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	2	1	2	1	1	2	1	2	2	1		69
郡山市	3	7	3	1	1	3	1	2	3	0	2	2	1	2	4	1	6	1	0	2	2	3	0	1	6		70
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	5	1	2	1	1	9	9	1	2	2	2	7	7	7	4	6	7	11	3	8	6	9	1	2	5		131
いわき市	8	5	5	6	2	1	3	5	4	7	7	5	10	7	9	10	4	8	5	9	8	8	6	10	11		373
H19	17	14	12	9	5	14	14	9	9	10	12	15	19	17	17	19	19	22	9	20	18	21	9	16	23		645
H18	1	0	1	2	2	3	2	2	2	1	1	7	1	1	3	6	2	5	4	2	2	4	7	4	4		154
H17	7	8	5	8	3	7	6	5	5	5	3	7	13	9	15	20	17	16	12	11	13	28	13	12	9		405

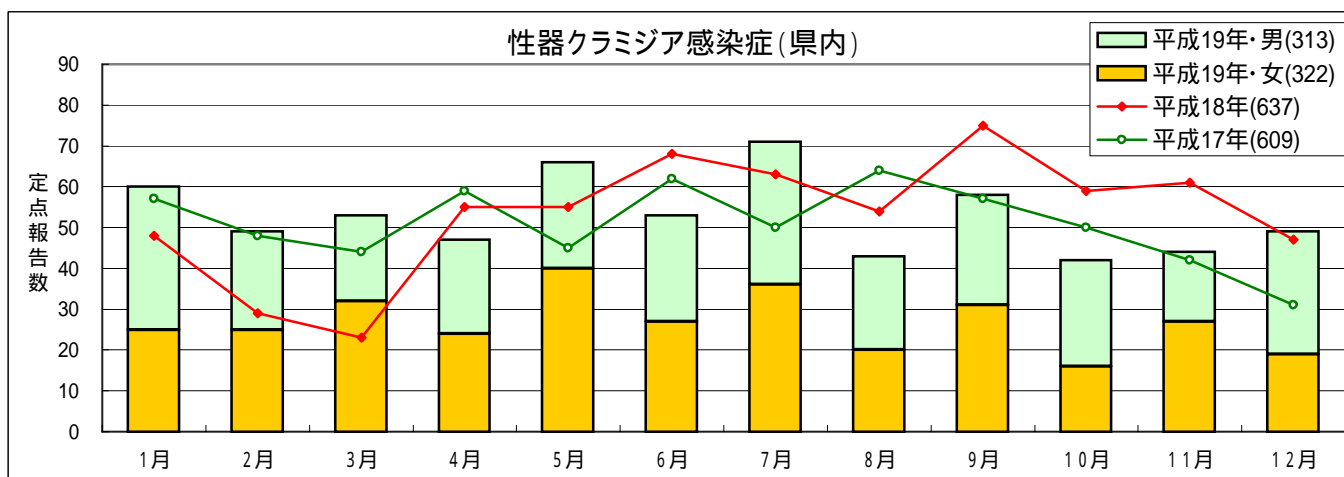
年齢構成

	~0歳	~4歳	~9歳	~14歳	~19歳	~24歳	~29歳	~34歳	~39歳	~44歳	~49歳	~54歳	~59歳	~64歳	~69歳	70歳~	合計
H19	11	254	217	88	12	6	11	8	3	1	1	2	1	2	4	24	645
H18	2	41	56	32	1	3	3	1	3	1	2	1	2	1	1	4	154

(88) 性器クラミジア感染症

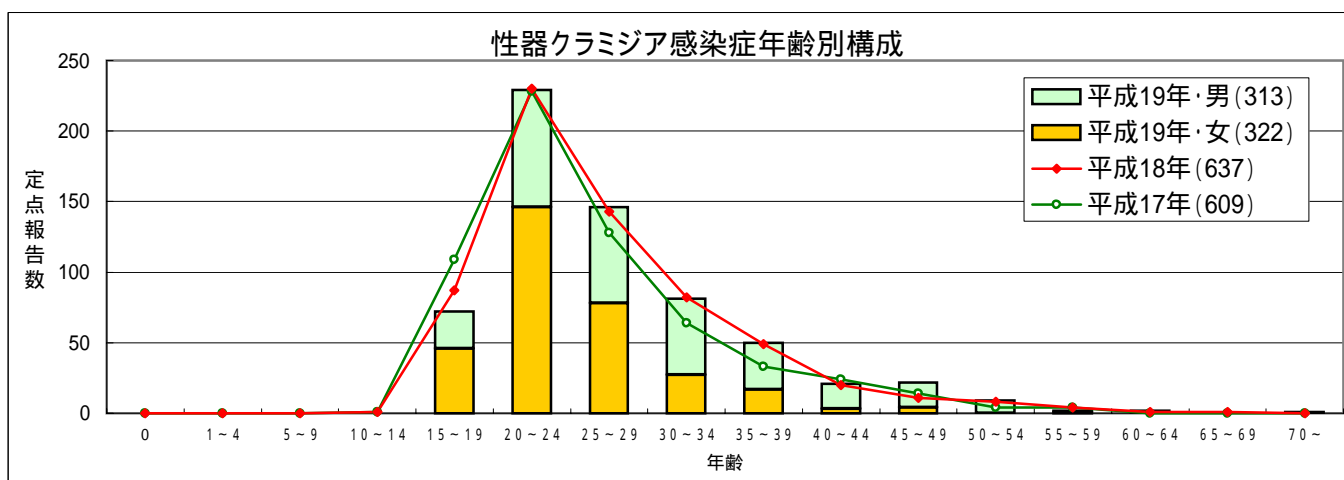
(16STD定点)

定点からの年間報告数は635例(男313例、女322例)あり、20～29歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、20～24歳の感染者の占める割合が高かった。

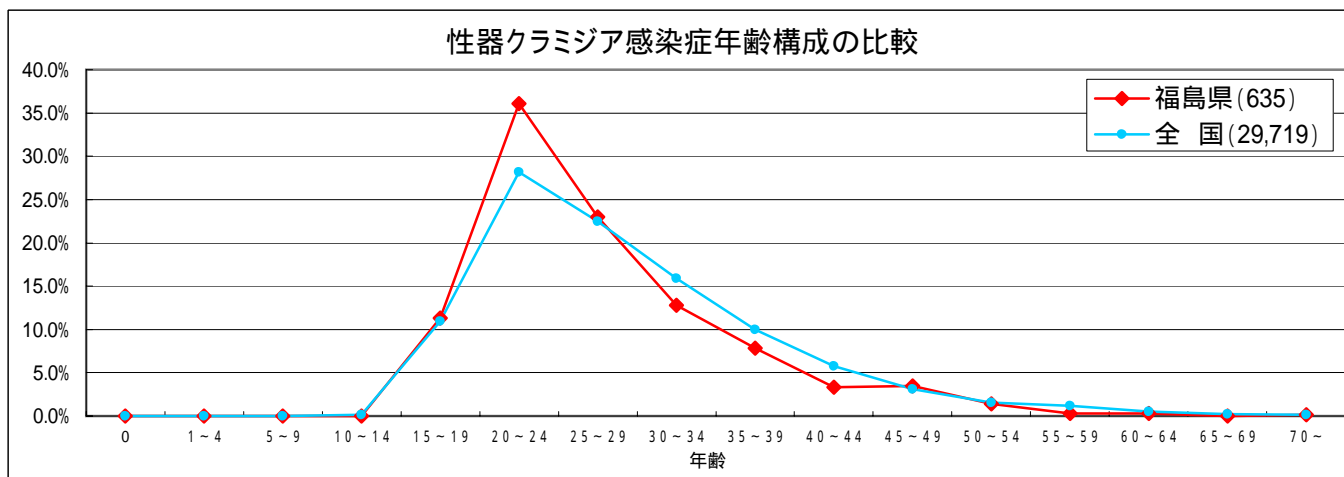


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成19年・男(313)	35	24	21	23	26	26	35	23	27	26	17	30	313
平成19年・女(322)	25	25	32	24	40	27	36	20	31	16	27	19	322
平成19年(635)	60	49	53	47	66	53	71	43	58	42	44	49	635
平成18年(637)	48	29	23	55	55	68	63	54	75	59	61	47	637
平成17年(609)	57	48	44	59	45	62	50	64	57	50	42	31	609

平成17～19年 県内の年齢別構成

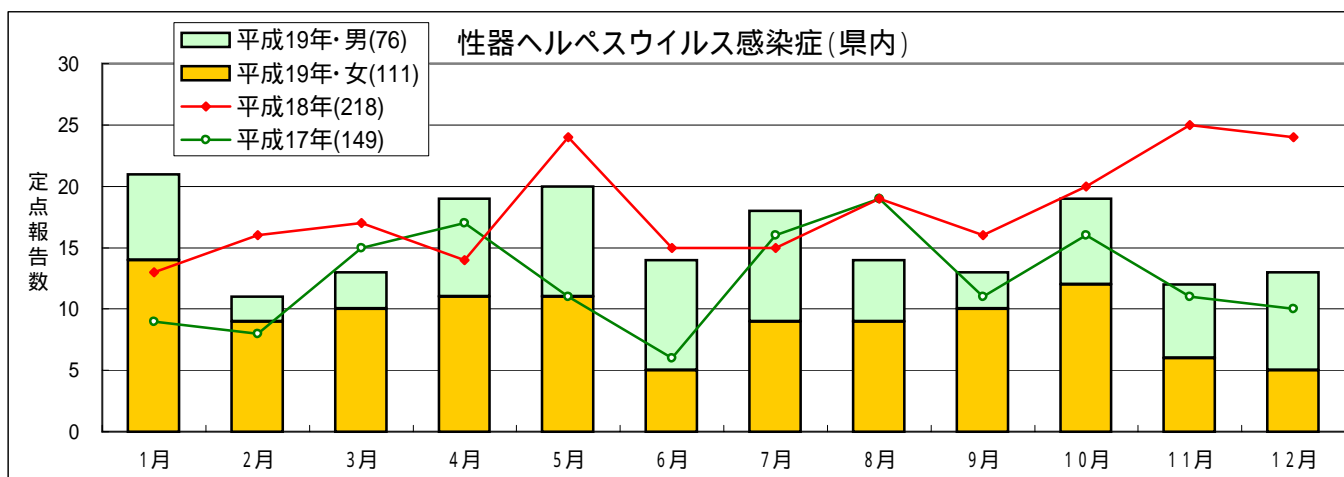


平成19年 年齢構成の比較



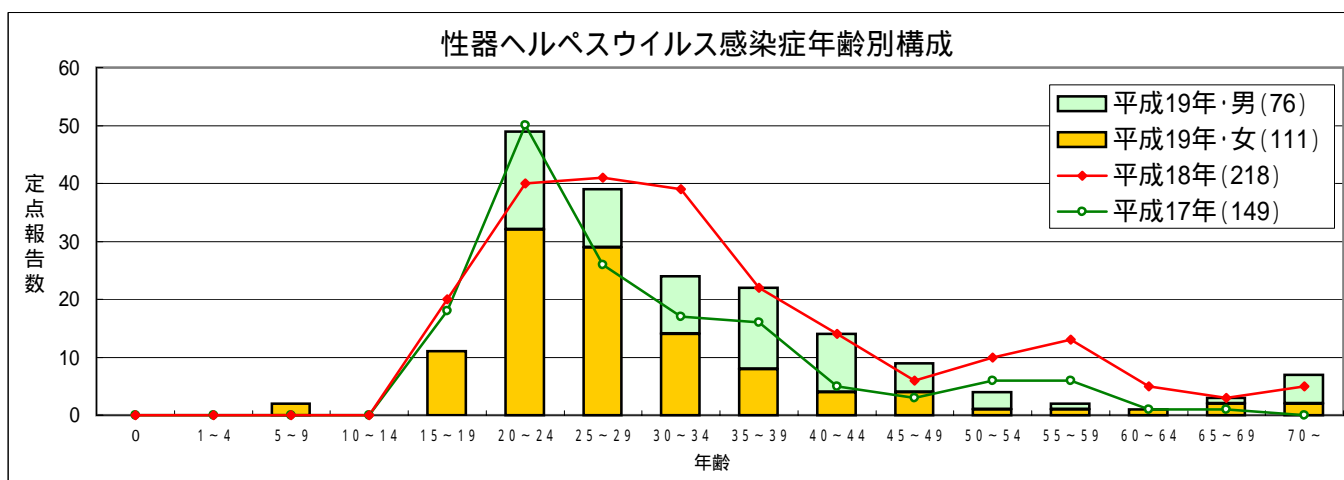
(89) 性器ヘルペスウイルス感染症 (16STD定点)

定点からの年間報告数は187例(男76例、女111例)あり、20～29歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、20～29歳の感染者の占める割合が高かった。

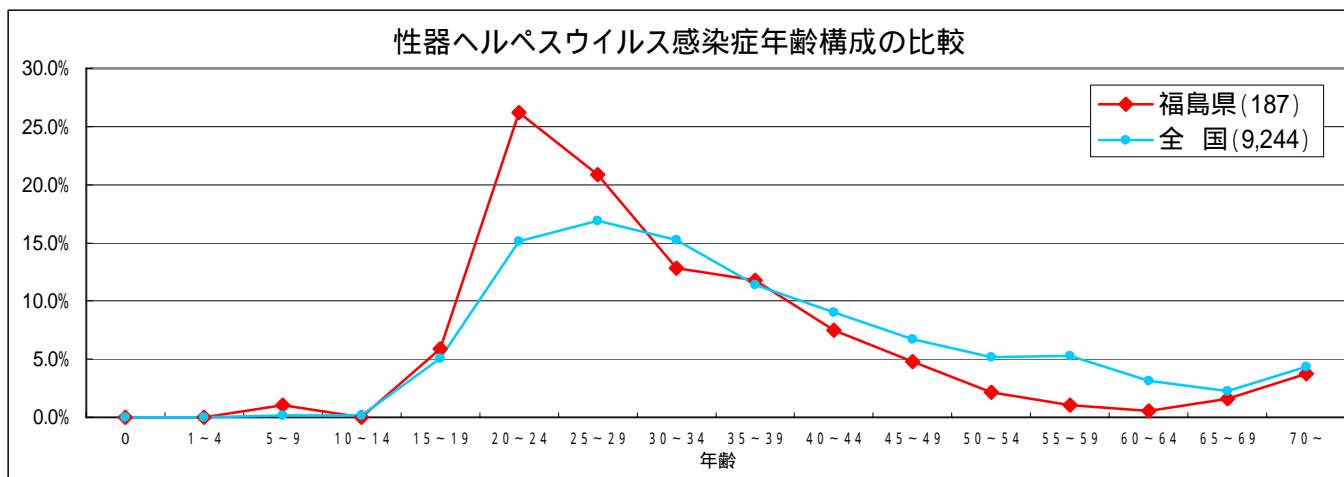


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成19年・男(76)	7	2	3	8	9	9	9	5	3	7	6	8	76
平成19年・女(111)	14	9	10	11	11	5	9	9	10	12	6	5	111
平成19年(187)	21	11	13	19	20	14	18	14	13	19	12	13	187
平成18年(218)	13	16	17	14	24	15	15	19	16	20	25	24	218
平成17年(149)	9	8	15	17	11	6	16	19	11	16	11	10	149

平成17～19年 県内の年齢別構成



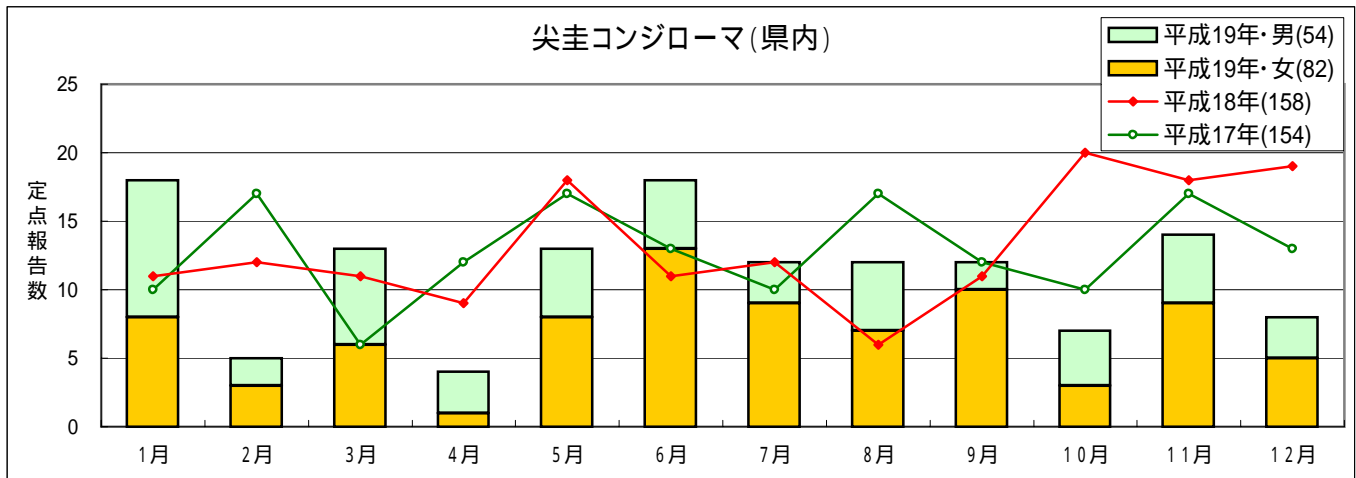
平成19年 年齢構成の比較



(90)尖圭コンジローマ

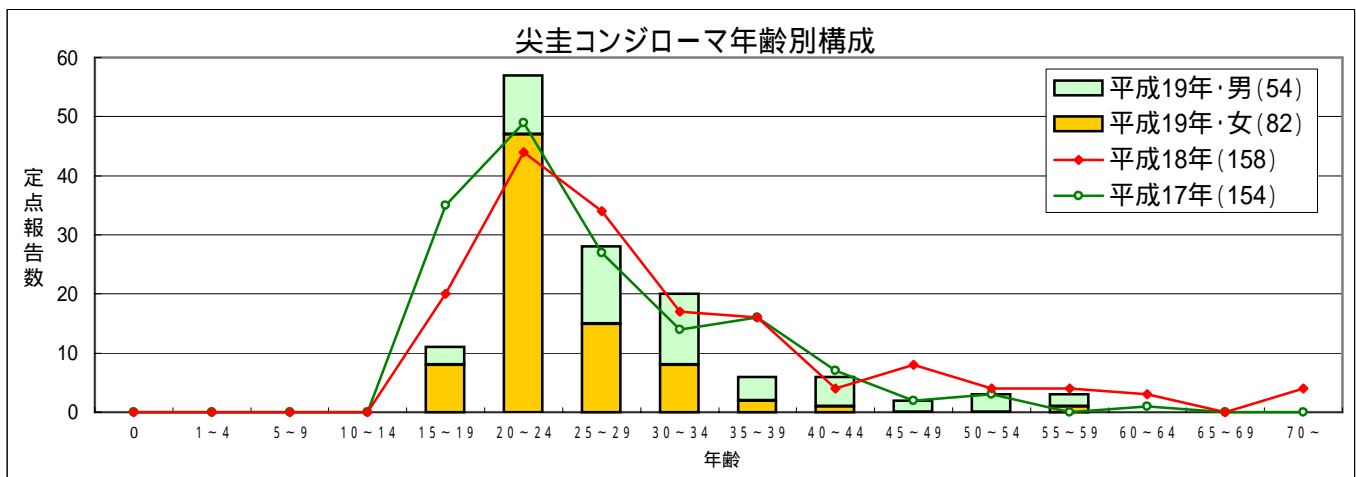
(16STD定点)

定点からの年間報告数は136例(男54例、女82例)あり、20～24歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、20～24歳の感染者の占める割合が高かった。

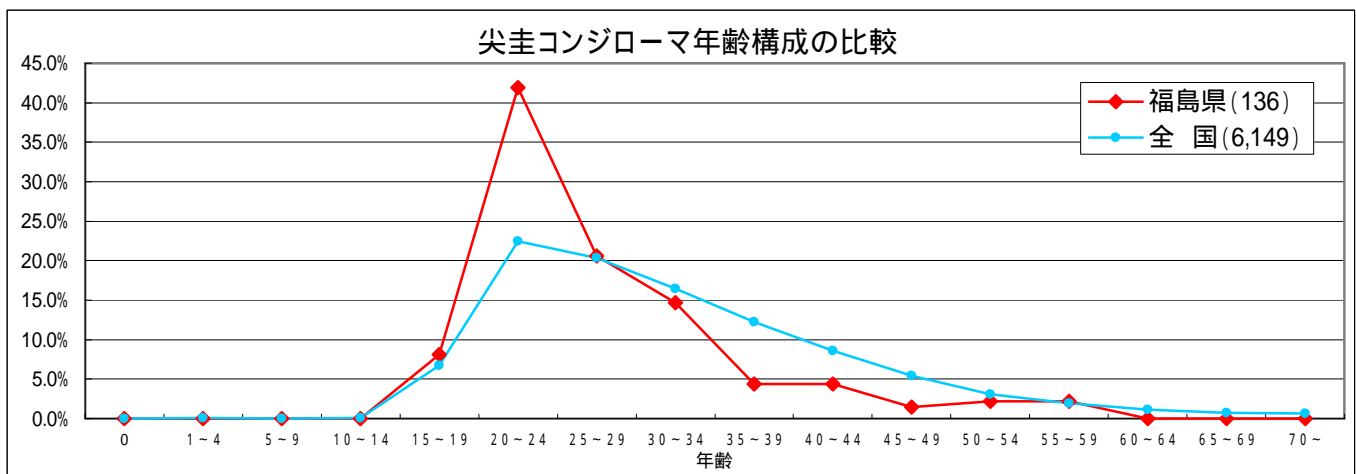


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成19年・男(54)	10	2	7	3	5	5	3	5	2	4	5	3	54
平成19年・女(82)	8	3	6	1	8	13	9	7	10	3	9	5	82
平成19年(136)	18	5	13	4	13	18	12	12	12	7	14	8	136
平成18年(158)	11	12	11	9	18	11	12	6	11	20	18	19	158
平成17年(154)	10	17	6	12	17	13	10	17	12	10	17	13	154

平成17～19年 県内の年齢別構成



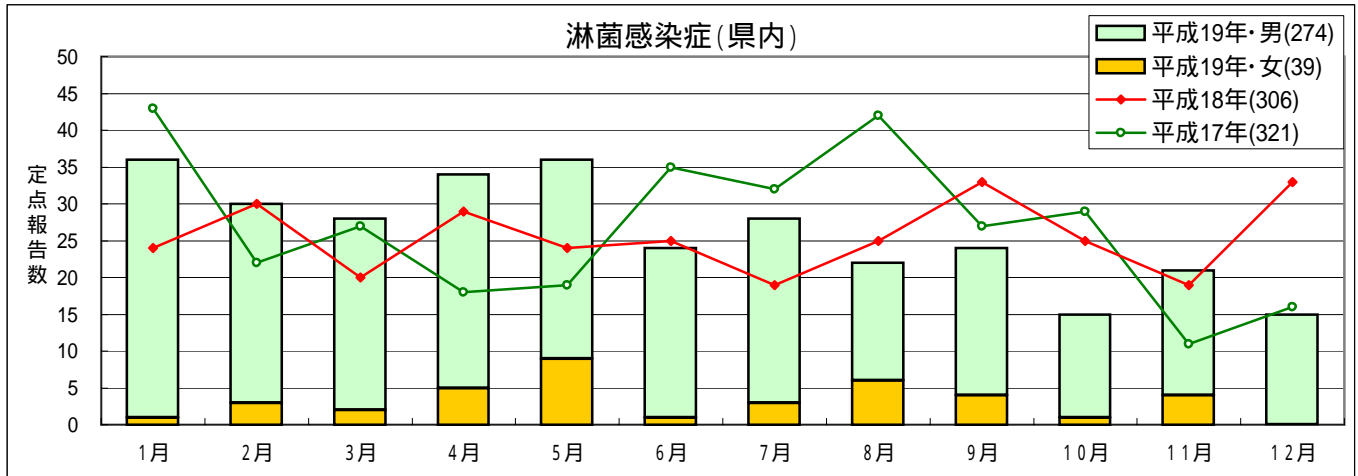
平成19年 年齢構成の比較



(91) 淋菌感染症

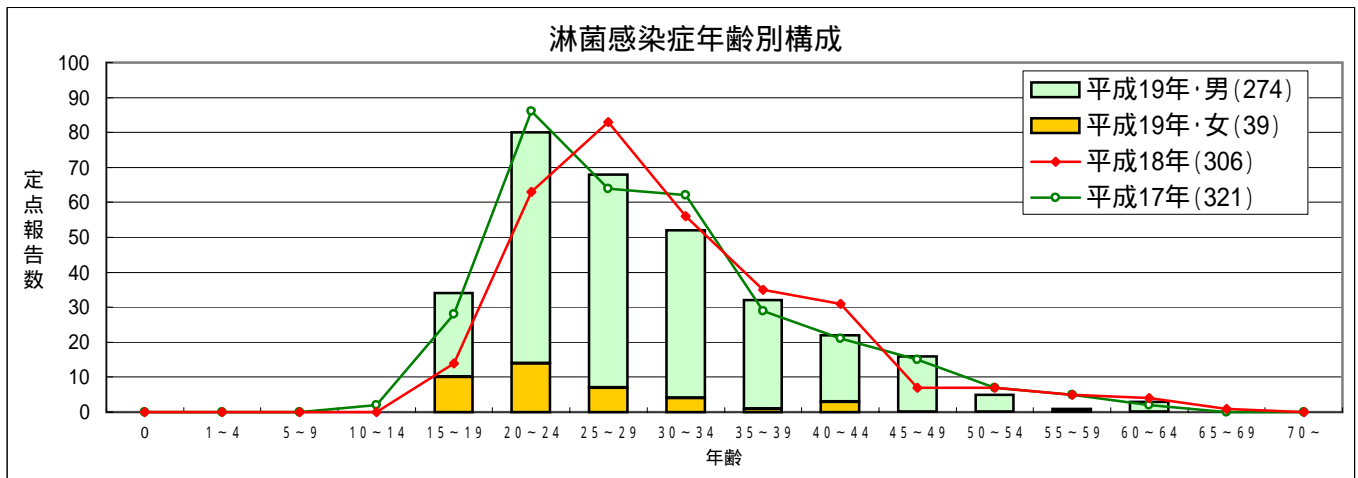
(16STD定点)

定点からの年間報告数は313例(男274例、女39例)あり、20～34歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、20～24歳の感染者の占める割合が高かった。

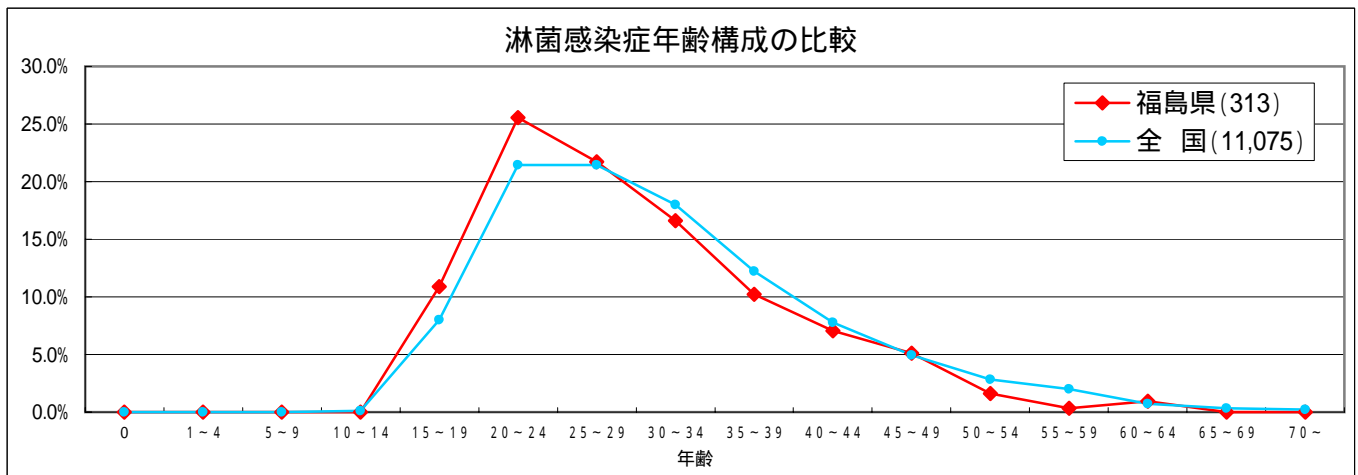


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成19年・男(274)	35	27	26	29	27	23	25	16	20	14	17	15	274
平成19年・女(39)	1	3	2	5	9	1	3	6	4	1	4	0	39
平成19年(313)	36	30	28	34	36	24	28	22	24	15	21	15	313
平成18年(306)	24	30	20	29	24	25	19	25	33	25	19	33	306
平成17年(321)	43	22	27	18	19	35	32	42	27	29	11	16	321

平成17～19年 県内の年齢別構成



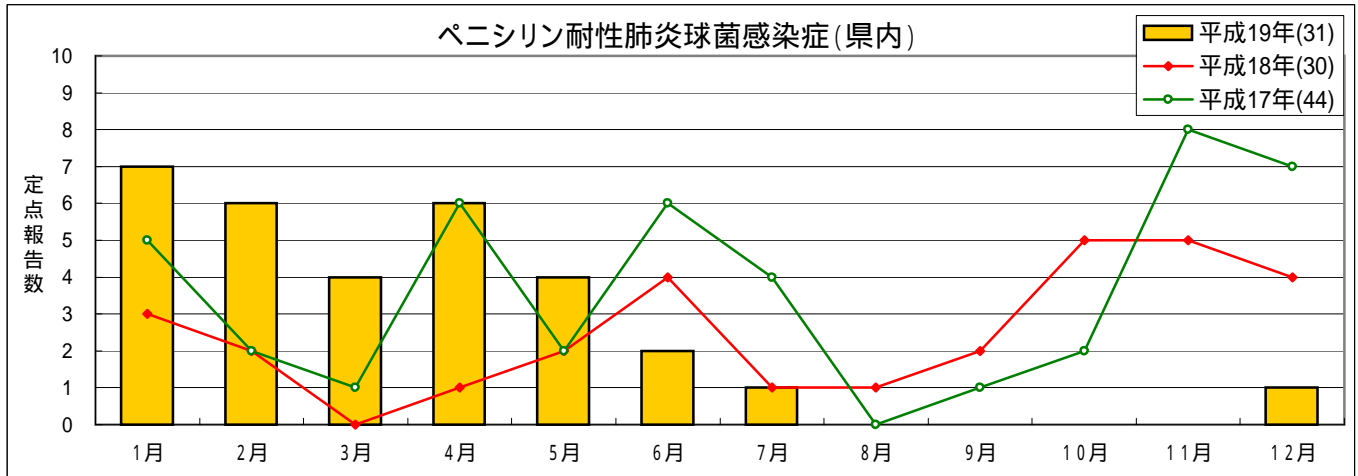
平成19年 年齢構成の比較



(94) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

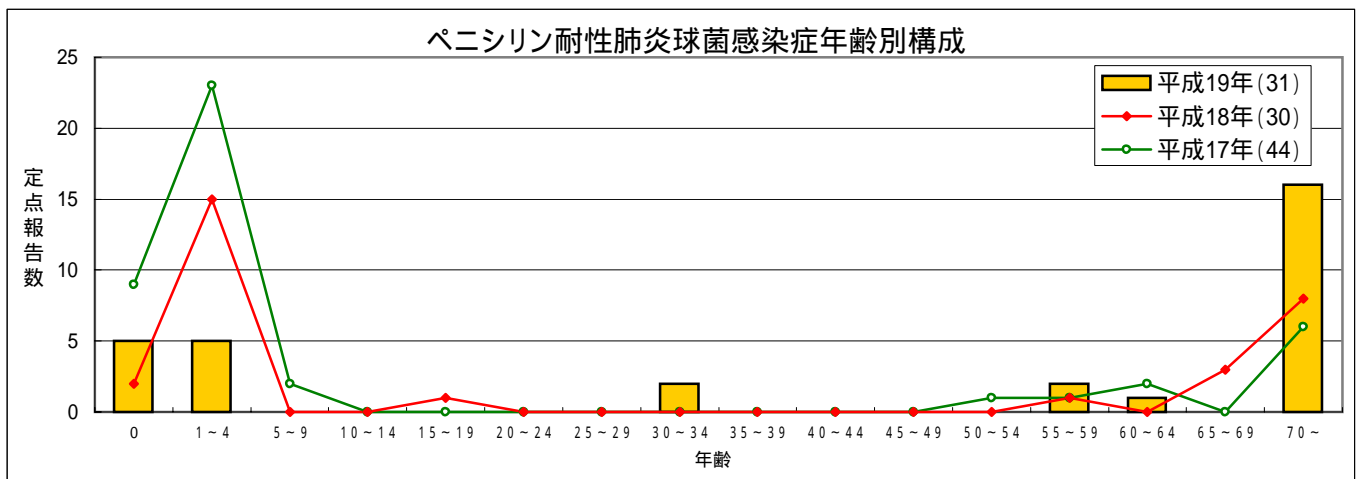
(7基幹定点)

定点からの年間報告数は31例あり、70歳以上の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、70歳以上の感染者の占める割合が高かった。

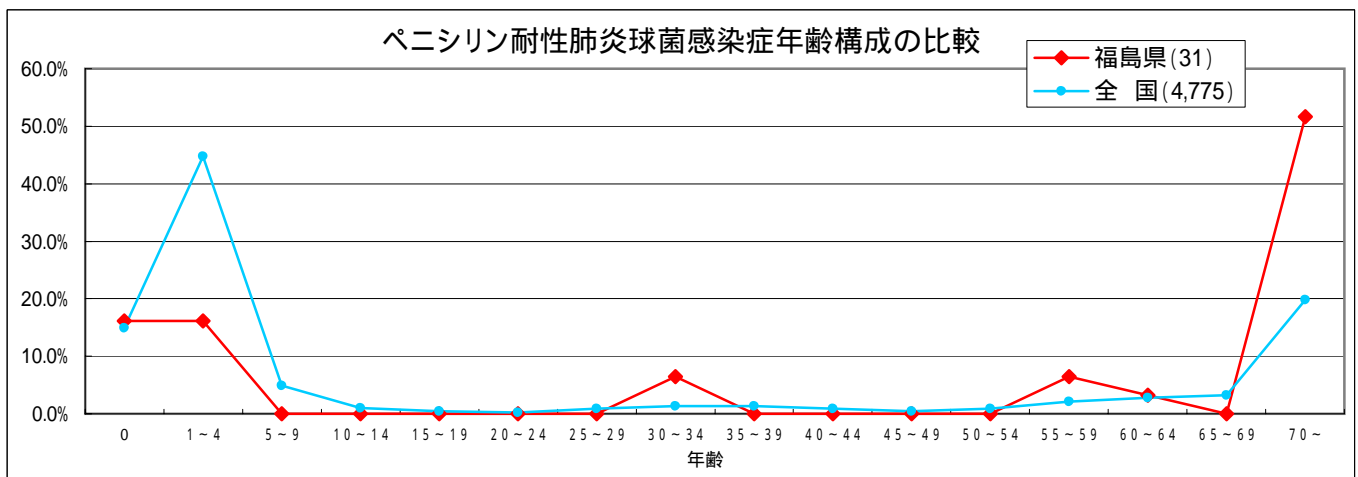


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成19年(31)	7	6	4	6	4	2	1	0	0	0	0	1	31
平成18年(30)	3	2	0	1	2	4	1	1	2	5	5	4	30
平成17年(44)	5	2	1	6	2	6	4	0	1	2	8	7	44

平成17～19年 県内の年齢別構成

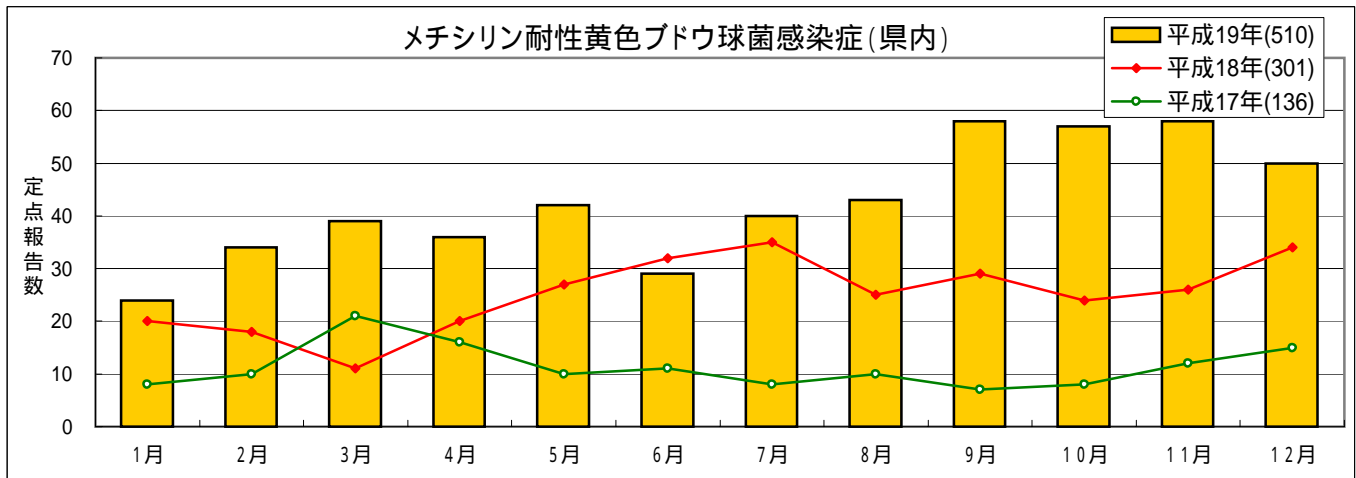


平成19年 年齢構成の比較



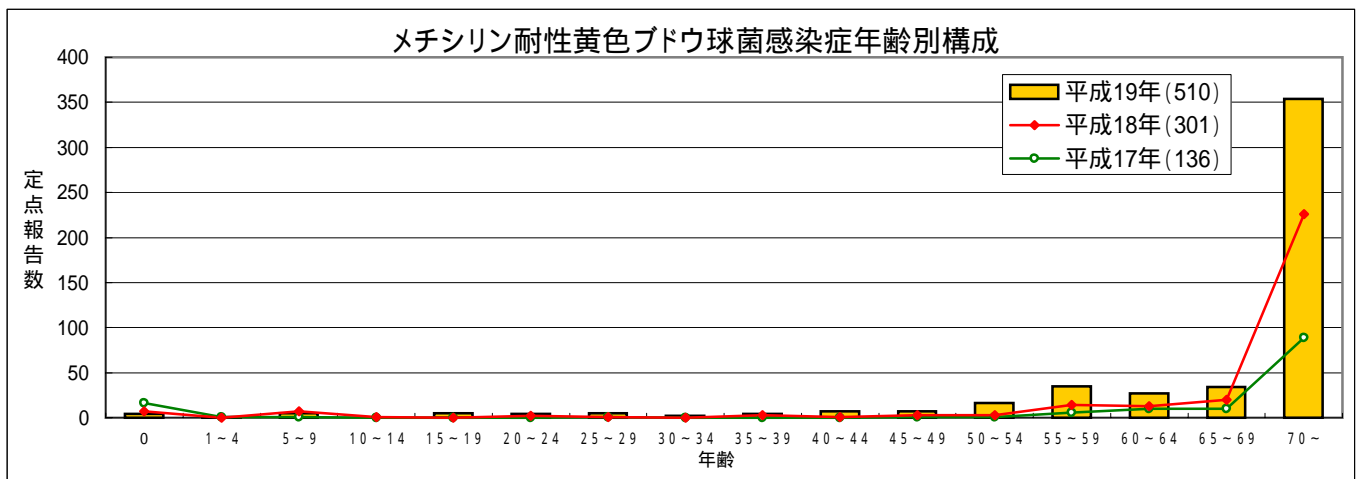
(98)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は510例あり、70歳以上の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、70歳以上の感染者の占める割合が高かった。

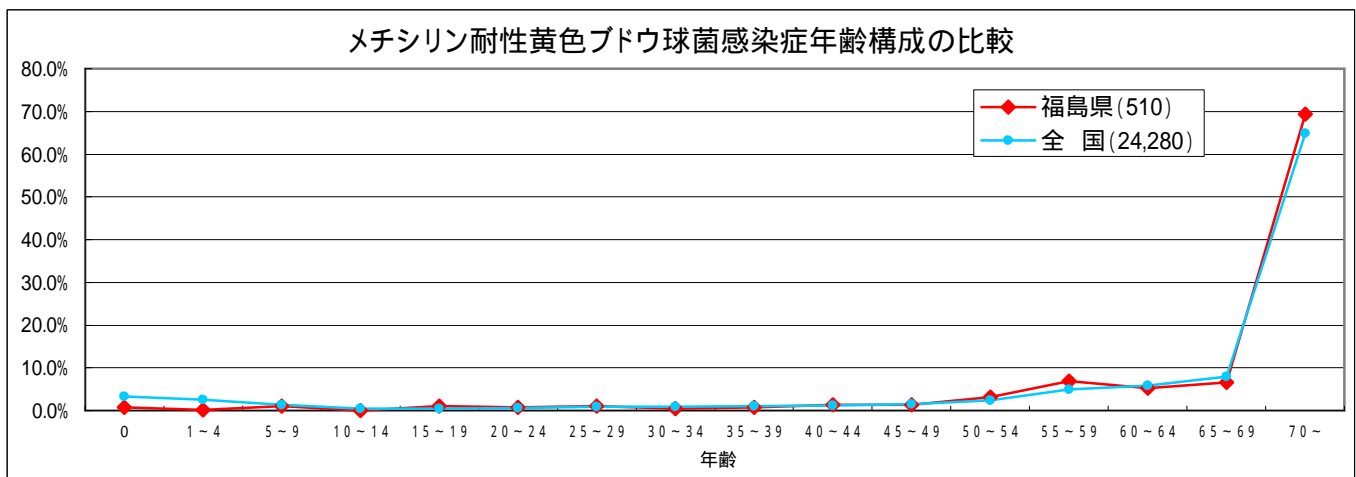


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成19年(510)	24	34	39	36	42	29	40	43	58	57	58	50	510
平成18年(301)	20	18	11	20	27	32	35	25	29	24	26	34	301
平成17年(136)	8	10	21	16	10	11	8	10	7	8	12	15	136

平成17～19年 県内の年齢別構成



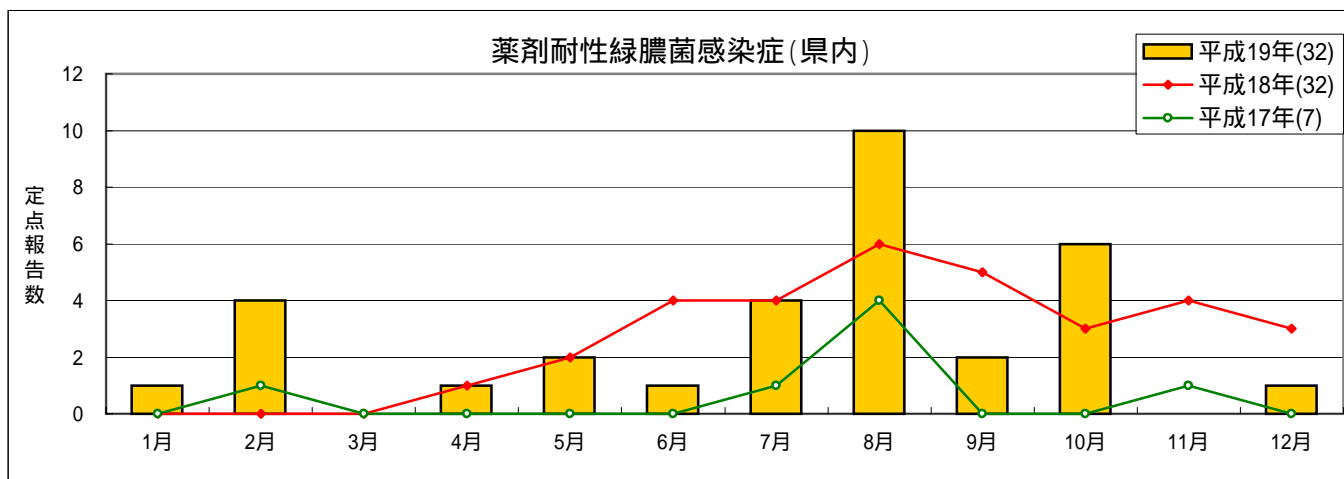
平成19年 年齢構成の比較



(99) 薬剤耐性緑膿菌感染症

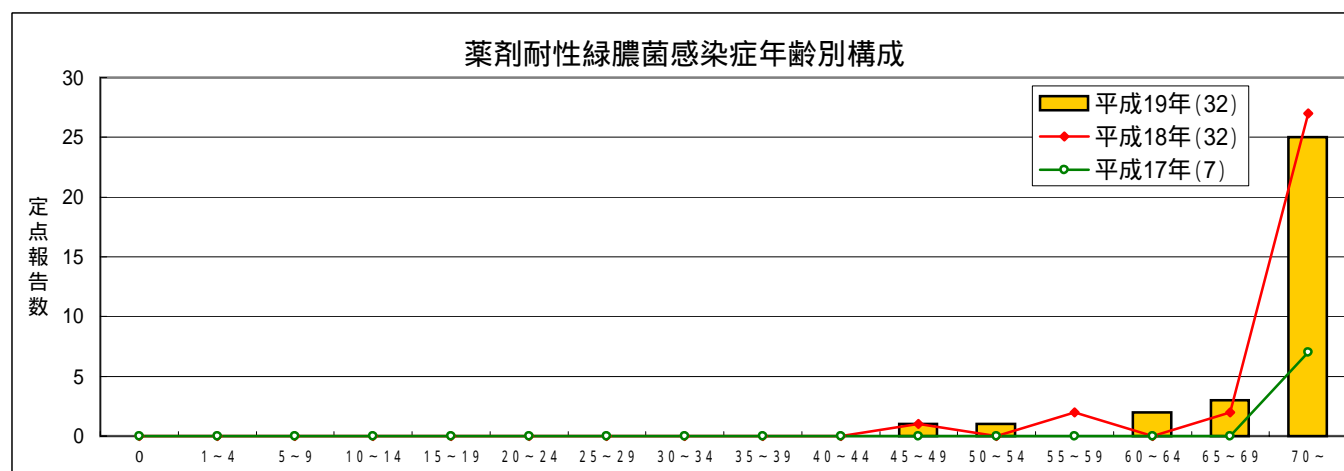
(7基幹定点)

定点からの年間報告数は32例あり、70歳以上の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、70歳以上の感染者の占める割合が高かった。

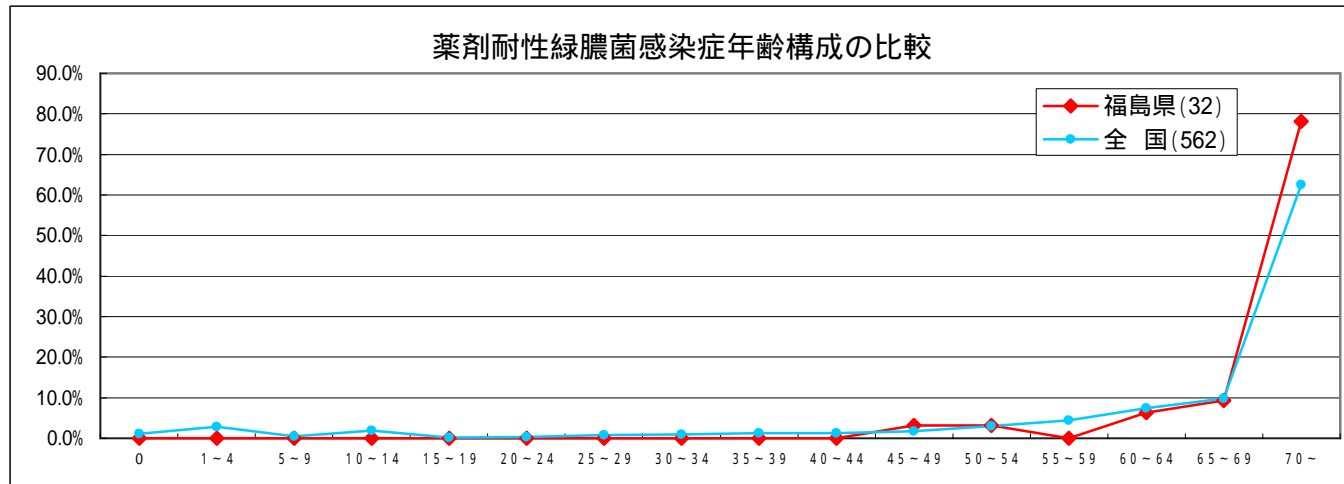


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成19年(32)	1	4	0	1	2	1	4	10	2	6	0	1	32
平成18年(32)	0	0	0	1	2	4	4	6	5	3	4	3	32
平成17年(7)	0	1	0	0	0	0	1	4	0	0	1	0	7

平成17年～19年 県内の年齢別構成



平成19年 年齢別構成の比較



検 査 情 報

- (1) 2007 年感染症発生動向調査事業報告 (ウイルス)
- (2) 2007 年感染症発生動向調査事業報告 (細菌)
- (3) 2006/2007 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況について

2007 年感染症発生動向調査事業報告（ウイルス）

菱沼郁美 柏原尚子 金成篤子 廣瀬昌子 三川正秀 大竹俊秀
微生物グループ

はじめに

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、県内の感染症発生の治療、予防に役立つ情報の提供を目的として、毎年対象病原体について感染症発生動向調査を行っている。本報では 2007 年度のウイルス検索結果について報告する。

材 料

2007 年 1 月から 12 月までの間に、県内の基幹定点 7 機関、インフルエンザ定点 8 機関、小児科定点 5 機関、眼科定点 1 機関において採取された 1,282 症例由来の咽頭拭い液、糞便、髄液、眼瞼拭い液等、計 1,516 件を検体とした。

方 法

RD-18S, HEp-2, Vero, LLCMK2, MDCK, B95a の 6 種類の細胞を用いてウイルス分離を実施した。検体が糞便の場合には、ラテックス凝集反応によるアデノ・ロタウイルス、さらに RT-PCR 法によるノロウイルス、サポウイルス、アイチウイルス、アストロウイルスの検出も併せて行った。分離ウイルスの同定には、抗血清を用いた中和試験を基本とし、補助的にダイレクトシークエンス法を行った。また、インフルエンザウイルスをはじめとしたオルソミクソウイルスについては赤血

球凝集抑制試験と赤血球吸着試験、単純ヘルペスウイルスには蛍光抗体法を用いた。

結果及び考察

1 保健所ごとの受付検体症例数

各保健所の受付検体症例数を表 1 に示した。例年同様、相双と郡山からの検体が多く、県中、会津方面からの検体は少なかった。県南の受付症例数が昨年より 4 分の 1 に減少した。

2 検体の種類別検出状況

ウイルスの検体種類別検出状況を表 2 に示した。1,282 症例 1,516 件のうち、493 症例 509 件の検体から 521 株のウイルスが検出され、分離率は 33.6 % であった。

検出された検体の種類ごとの内訳は、咽頭拭い液 341 件、糞便 161 件、髄液 4 件、眼瞼 2 件、その他 1 件であった。種類ごとの検出率は昨年と同じか、少し高めであった。

表 2 検体種類別検出検体数

	咽頭	糞便	髄液	眼瞼	その他	計
受付検体数	968	438	83	10	17	1,516
検出検体数	341	161	4	2	1	509
検出率 (%)	35.2	36.8	4.8	20.0	5.9	33.6

表 1 月別地区別受付検体症例数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
県北	12	19	19	17	6	14	7	10	7	8	4	11	134
県中			5										5
県南	7	4	6	4	7	7	1	8	6	1	2	1	54
会津	2		2	2	2			2		1	2		13
南会津	5	2											7
相双	45	56	97	49	43	50	42	51	17	26	40	48	564
郡山市	36	59	59	37	41	35	38	21	14	9	20	57	426
いわき市	11	8	5	12	5	11	7	1	6	6	3	4	79
計	118	148	193	121	104	117	95	93	50	51	71	121	1,282

表3 複数ウイルスが検出された症例

衛研番号	分離ウイルス	採取月日	診断名	年齢	性別	住所	咽頭	糞便	その他
250	Rotadry(+) Noro virus G	H19.1.18	感染性胃腸炎	1歳	男	郡山市			
586	Rotadry(+) Adeno 1	H19.3.20	感染性胃腸炎	1歳	女	郡山市			
650	Polio 1 Polio 2	H19.4.16	扁桃炎	6歳	男	相馬市			
743	Polio 1 Polio 2	H19.5.27	急性胃腸炎 無熱性けいれん	7ヶ月	女	猪苗代町			
833	Polio 2 Polio 3	H19.6.2	ギランバレー症 候群疑い	10ヶ月	男	郡山市			
1002	Rhino sp.(咽頭 気管吸引液) Adeno 2 (咽頭 糞便) Cox A 16 (糞便)	H19.7.21	急性心不全	10ヶ月	女	郡山市			
1257	Noro G Echo 25	H19.11.1	急性胃腸炎	1ヶ月	女	相馬市			
1265	Noro G CoxB 5	H19.11.8	胃腸炎	7ヶ月	男	相馬市			
1280	Adeno 2 Influenza A(H1)	H19.11.22	腺窩性扁桃炎	1歳	男	相馬市			
48	Adeno 2 Influenza A(H1)	H19.12.27	インフルエンザA	6歳	女	宮城県			

:複数ウイルス検出

:1つのウイルス検出

また、複数ウイルスが検出された症例を表3に示す。複数ウイルスを検出した症例が10症例あった。胃腸炎症状の診断名がつくものが主であるが、ライノウイルス、アデノウイルス2型、コクサッキーウイルスA16型が急性心不全の女児から、アデノウイルス2型とインフルエンザウイルスA(H1)型が上気道炎の男児とインフルエンザの女児からそれぞれ検出された。

3 月別検出状況

月別検体症例数、検出率を図1に示した。ウイルス検出症例数は3月が最も多く97症例98検体から検出された。その中ではインフルエンザウイルスが75症例76検体から検出され、最も多かった。3月は受付症例数も193症例219検体と最も多かった(表4)。年間を通じて月平均107症例を受け付けており、平均検出率38.5%であった。

4 ウイルス別検出状況

月別ウイルス検出状況を表4に示した。
1) アデノウイルス
年間を通じて67症例73株が検出された。

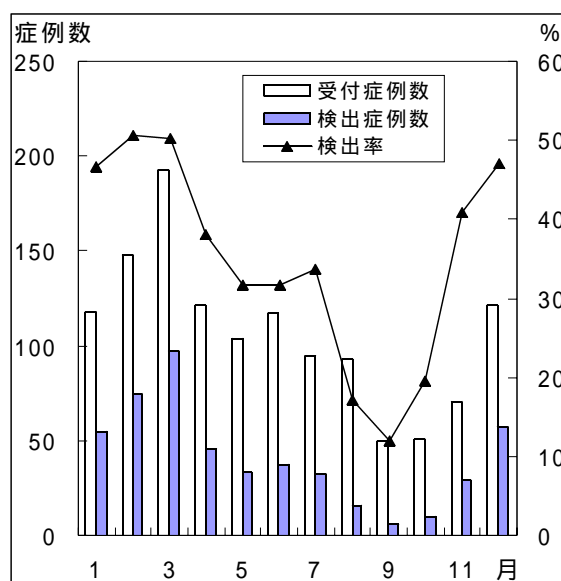


図1 月別検体症例数検出率

アデノウイルス2型が本年も昨年同様最も多く26症例28株検出された。アデノウイルス1型は12症例13株、3型は9症例10株、5型は12症例14株検出された。4型と6型はそれぞれ1症例1株検出された。4型は相双地区で10月に扁桃炎・中耳炎の7歳男児の

表4 受付月別ウイルス検出症例数

症例数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
Adeno 1		1 (1)	2 (2)	1 (1)		2 (2)	3 (4)	1 (1)				2 (2)	12 (13)
Adeno 2			4 (4)	1 (1)	1 (1)	11 (12)	4 (5)			1 (1)	3 (3)	1 (1)	26 (28)
Adeno 3	1 (1)			3 (3)			2 (2)	1 (1)			2 (3)		9 (10)
Adeno 4										1 (1)			1 (1)
Adeno 5	1 (1)	5 (6)		1 (2)				2 (2)	1 (1)	1 (1)	1 (1)		12 (14)
Adeno 6					1 (1)								1 (1)
Adenodry(+)	1 (1)		1 (1)	2 (2)				1 (1)				1 (1)	6 (6)
Cox A 10							4 (4)	2 (2)	1 (1)				7 (7)
Cox A 16	2 (2)	1 (1)	1 (1)	4 (4)	8 (8)	10 (10)	17 (18)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	1 (1)		49 (51)
CoxB 2	1 (1)	1 (1)											2 (2)
CoxB 4		1 (1)											1 (1)
CoxB 5								3 (3)	2 (3)	2 (2)	6 (7)		13 (15)
Echo 5	1 (1)												1 (1)
Echo 18							1 (1)						1 (1)
Echo 25							1 (1)			1 (1)	2 (2)		4 (4)
Echo 30									1 (2)				1 (2)
Entero71 Br	2 (2)						2 (2)			2 (2)	3 (3)	1 (1)	10 (10)
Polio 1				3 (5)	1 (1)	1 (1)							5 (7)
Polio 2				1 (1)	1 (1)	1 (1)							3 (3)
Polio 3				1 (1)		1 (1)				1 (2)			3 (5)
Influenza A(H1)		3 (3)	13 (13)	11 (11)	4 (4)	5 (5)	1 (1)				2 (2)	20 (20)	59 (59)
Influenza A(H3)	24 (24)	32 (32)	30 (30)										86 (86)
Influenza B		15 (15)	32 (33)	5 (5)	4 (4)	1 (1)						1 (1)	58 (59)
HSV 1				1 (1)	1 (1)	1 (1)		1 (1)					4 (4)
Measles (遺伝子のみ検出)						1 (1)							1 (1)
Rhino sp.						1 (1)	1 (2)						2 (3)
Rotadry(+)	4 (4)	4 (4)	6 (6)	10 (10)	7 (7)	1 (1)							32 (32)
Noro G		2 (2)	1 (1)										3 (3)
Noro G	19 (19)	11 (11)	7 (7)	3 (3)	6 (6)	2 (2)					11 (11)	32 (32)	91 (91)
Sapo G											1 (1)		1 (1)
症例数 (株数)	55 (56)	75 (76)	97 (99)	46 (51)	33 (34)	37 (39)	32 (38)	16 (16)	6 (8)	10 (11)	29 (35)	57 (58)	493 (521)
未同定症例数 検体数									2 3	1 2	2 2		7 8
受付検体症例数 検出率	118 46.6	148 50.7	193 50.3	121 38.0	104 31.7	117 31.6	95 33.7	93 17.2	50 12.0	51 19.6	71 40.8	121 47.1	1,282 38.5

同一症例複数ウイルス分離を含む

2008年2月29日現在

咽頭拭い液から検出され、1997 年以來の検出であった。6 型は東北地区で 5 月に急性咽頭炎の 10 ヶ月男児の咽頭拭い液から検出された。

2) エンテロウイルス

全体で 100 症例 109 株検出された。

最も多く検出されたのはコクサッキーウイルス A16 型で 49 症例 51 株と全体の 48 % を占めた。本年は福島県での手足口病の流行が昨年より倍以上と大きかったためと思われる。流行ピークの 7 月を中心に年間を通じて検出された。診断名の内訳は手足口病が 40 症例、ヘルパンギーナが 3 症例、上気道炎が 2 症例、その他が 3 症例であった。また、同様に手足口病の原因ウイルスであるエンテロウイルス 71 型は 10 症例 11 株検出された。さらに、コクサッキーウイルス A10 型が 7 月～9 月に 7 症例 7 株検出された。本年全国的に検出されたコクサッキーウイルス A6 型は、本県では検出されなかった。

コクサッキー B 群ウイルスは全国的な流行と同様に 5 型が多く検出され、本県では 8 月から 11 月にかけて 13 症例 15 株分離された。診断名は上気道炎、胃腸炎など様々であるが、郡山地区で 9 月に無菌性髄膜炎の 0 ヶ月の女児（咽頭拭い液・糞便）から、また、県南地区で 11 月に上気道炎の 1 ヶ月の女児（髄液）から分離された。その他にコクサッキーウイルス B2 型と B4 型が 1 月と 3 月に検出された。

エコーウイルスは 5 型、18 型、25 型、30 型が検出された。5 型、18 型は 1 症例 1 株ずつ検出された。25 型は 4 症例 4 株、胃腸炎を中心に検出された。30 型は 1 症例 2 株検出され、10 月には東北地区で上気道炎 10 歳女児の咽頭拭い液と髄液から検出された。

ポリオウイルスは春と秋の集団予防接種の時期に 8 症例 11 株検出された。すべてワクチン投与後の検出であり、ワクチン由来株と思われる。

3) インフルエンザウイルス

2006/2007 シーズンの初期の 12 月に検出されたのは A(H1)型であった。インフルエンザウイルス全体の検出のピークは例年より遅れて 3 月であり、75 症例から検出された。

流行が長引き、6 月には A(H1)型が 5 症例、B 型が 1 症例、7 月には A(H1)型が 1 症例検出された。本年は全国的に A(H3)型と B 型が流行したと同様、本県でも A(H3)型が 86 症例、B 型が 57 症例検出された。過去 5 シーズンで最も少なかったと報告した昨年よりもさらに検出数が少なかった。

なお、3 月には相双地区の脳症で 6 歳女児の咽頭拭い液、髄液から B 型が検出された。

2007/2008 シーズンは、11 月に相双地区のインフルエンザと扁桃炎の患児から A(H1)型が検出され、12 月には A(H1)型が 20 症例から、また B 型が 1 症例から検出された。

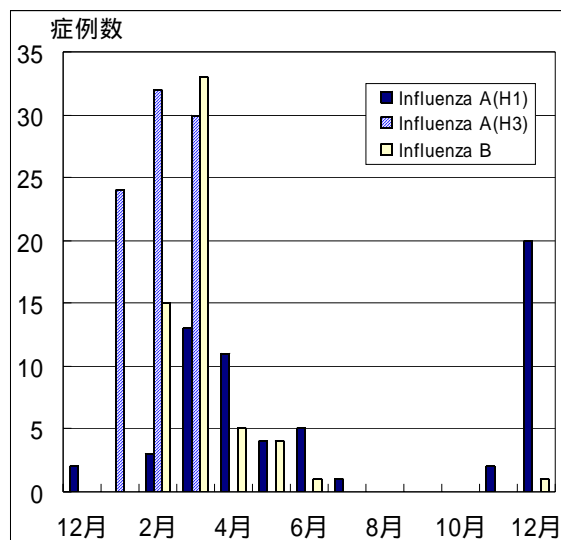


図2 月別インフルエンザ検出症例数

4) 単純ヘルペスウイルス

4 症例 4 株検出された。ヘルパンギーナから 3 株、その他から 1 株であった。

5) ノロウイルス

2006/2007 シーズンは 12 月をピークに 6 月まで検出があった。2006 年末の大流行により本県でも 12 月に 40 件ノロウイルス G が検出された。また、2007/2008 シーズンも 11 月に 11 件、12 月に 32 件が検出された。2006 年末と同様の傾向があり、大規模な流行を警戒していく必要があると示唆される。ノロウイルス G が 2 月に 2 件、3 月に 1 件検出された。

6) ロタウイルス

昨年は 1 件のみであったが本年は 1 月～6

月にかけて 32 件から検出された。乳児下痢症の原因ウイルスの一つであるが、10 ~ 12 歳から 3 件、30 代から 1 件の検出もあった。また、ほかのウイルスと同時に検出された症例があり、ノロウイルスが 1 件、アデノウイルス 1 型が 1 件であった。

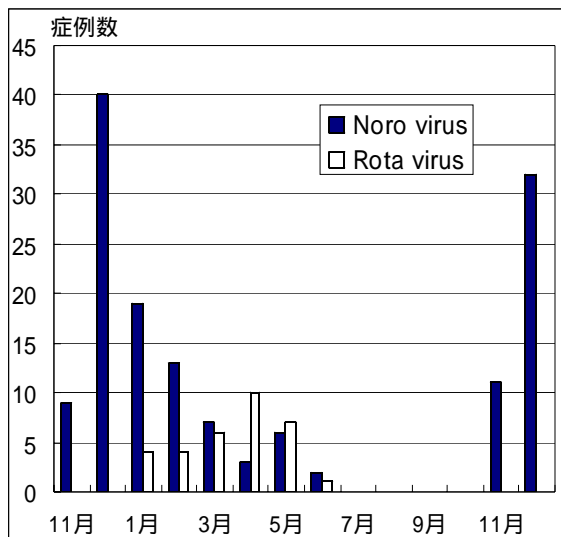


図 3 月別ノロ・ロタウイルス検出症例数

7) 麻疹ウイルス

本年高校生・大学生を中心に全国的な流行があったが、検体の搬入は 1 件のみであった。細胞培養でのウイルス検出はできず、遺伝子の検出となり、遺伝子型は D5 型と全国の流行型と同じであった。

8) その他のウイルス

ライノウイルスは 1 歳未満の患児の気管系から 2 症例 3 株分離された。このウイルスは本県では 1985 年以来の検出であったので別途報告する。

本年度からの研究事業において、胃腸炎原因ウイルスの一つであるサポウイルス G を 11 月に相双地区 4 歳男児の糞便から検出した。

5 診断名別検出状況

診断名別検出状況を表 5 に示した。

本年受付検体症例数では、上気道炎が最も多く、278 症例で、61 症例から検出があった。アデノウイルスの検出が多く 2 型が 17 症例、3 型が 8 症例であった。

昨年末のノロウイルスの大流行の影響で胃腸炎が 271 症例で、146 症例から検出があった。昨年の 1.5 倍の受付症例数で、検出率も 53.9 %と 1.5 倍程度増加した。検出ウイルスはノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルス、コクサッキー B 群ウイルス、エコーウイルスなど様々であるが、ノロウイルスが 94 症例と全体の 64.4 %占め、次いでロタウイルスが 21.9 %であった。

インフルエンザは 267 症例で、192 症例から検出された。ポリオウイルスが検出された 1 症例をのぞきすべてインフルエンザウイルスの検出であった。

下気道炎は 105 症例で、12 症例から検出された。アデノウイルス、コクサッキーウイルス、インフルエンザウイルスなどが検出された。

手足口病は昨年全国で検出されたウイルスの半数近くをエンテロウイルス 71 型が占めたが、本年はコクサッキーウイルス A16 型が半数以上を占めた。本県でも今年もコクサッキーウイルス A16 型が 8 割を占めていた。

ヘルパンギーナは 32 症例中 9 症例から検出され、コクサッキーウイルス A16 型が 3 症例、コクサッキーウイルス A10 型が 1 症例、単純ヘルペスウイルス 1 型が 3 症例であった。

まとめ

1 昨年末からのノロウイルスの大流行により、診断名別の受付症例数では胃腸炎が多くなった。ノロウイルスは胃腸炎 271 症例中 94 症例 34.7 %から検出された。また、ロタウイルスも 32 症例と大幅に増加した。

2 インフルエンザウイルスは流行が遅く検出のピークが 3 月となった。また、流行が長引いたため 7 月に A(H1)が 1 件の検出された。A(H3)と B が主として検出された。

3 コクサッキーウイルス B5 型は、13 症例 15 株が検出された。上気道炎、胃腸炎のほか髄膜炎や熱性けいれんの症例からも検出された。

4 麻疹の全国的な流行があったが、本県では 1 症例の受付のみで、遺伝子のみの検出であった。

表5 診断名別ウイルス検出症例数

	上気 道炎	下気 道炎	インフル エンザ	胃腸 炎	髄膜 炎	手足 口病	口内 炎	発疹 症	ヘルパン ギーナ	熱性 痲瘰	結膜 炎等	その 他	計
Adeno 1	4	3	1	2					1	1			12
Adeno 2	17	2		1	1					3	1	1	26
Adeno 3	8				1								9
Adeno 4	1												1
Adeno 5	4			4		1		1	1		1		12
Adeno 6	1												1
Adenodry(+)				6									6
Cox A 10	3	1				1			1	1			7
Cox A 16	3					39	1		3			3	49
CoxB 2		1		1									2
CoxB 4	1												1
CoxB 5	6			4	1					2			13
Echo 5	1												1
Echo 18								1					1
Echo 25				3			1						4
Echo 30	1												1
Enterovirus 71 Br	1	1				8							10
Polio 1	3			2									5
Polio 2	1			1								1	3
Polio 3			1									2	3
Influenza A(H1N1)	2	1	56										59
Influenza A(H3N2)	4	2	79							1			86
Influenza B	2		56										58
HSV 1									3			1	4
Measles (遺伝子のみ検出)												1	1
Rhino sp.		1										1	2
Rotavirus(+)				32									32
Norovirus G				3									3
Norovirus G				91									91
Sapovirus G				1									1
陽性症例数	61	12	192	146	3	49	2	2	9	8	2	7	493
受付検体症例数	278	105	267	271	24	78	9	26	32	81	11	100	1,282
検出率(%)	21.9	11.4	71.9	53.9	12.5	62.8	22.2	7.7	28.1	9.9	18.2	7.0	38.5

同一症例複数ウイルス分離を含む

2008年2月29日現在

謝 辞

検体採取等本事業にご協力いただいた病原体定点医療機関の諸先生方に深謝いたします。

2007年感染症発生動向調査事業報告（細菌）

小黒祐子 小澤奈美 渡邊奈々子 須釜久美子 大竹俊秀
微生物グループ

はじめに

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、県内の感染症発生の治療、予防に役立つ情報の提供を目的として、対象病原体について感染症発生動向調査を行っている。本報では2007年の細菌検査結果について報告する。

材 料

2007年1月から12月まで、県内11定点のうち、協力の得られた6定点医療機関より採取された548件を対象とした。検体の内訳を表1に示す。咽頭・扁桃拭い液192件、後鼻腔拭い液274件、糞便・直腸拭い液60件、髄液13件であり、菌株による搬入は338件である。

方 法

1 細菌分離

A群溶血性レンサ球菌（以下、“A群溶レン菌”とする）、細菌性髄膜炎起因菌、百日咳菌、感染性胃腸炎起因菌等を対象とし、厚生省監修「微生物検査必携・第3版」に従い検索した。

2 薬剤耐性遺伝子検出、薬剤感受性試験 肺炎球菌、インフルエンザ菌の薬剤耐性遺

伝子の検出および薬剤感受性試験は既報¹⁾の方法により実施、判定した。なお、薬剤感受性試験は公立相馬総合病院検査科で実施した。

結 果

1 患者居住地別症例数

表2に示したとおり総検体548件のうち、郡山市と相馬市で385件（70.3%）を占め、地域に偏りが認められる。

表2 居住地域別症例数

地 域 名	症例数	地 域 名	症例数	
福島市	0	会津若松市	10	
本宮市	25	喜多方市	1	
安達郡	5	大沼郡	3	
郡山市	168	耶麻郡	1	
須賀川市	4	相馬市	217	
田村市	6	南相馬市	16	
田村郡	3	相馬郡	43	
石川郡	3	双葉郡	5	
白河市	7	いわき市	0	
西白河郡	1	県 外	26	
東白川郡	0	不明	4	
			計	548

2 検査材料別分離率

輸送培地で搬入した検体について、細菌分離率を表3に示す。咽頭拭い液は185件中154件、83.2%、糞便・直腸拭い液は25件中

表1 月別・検査材料別検体数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
咽頭・扁桃拭い液	10	19	16	13	14	14	11	0	3	19	23	50	192
スワブ(再掲)	(9)	(16)	(16)	(13)	(13)	(13)	(10)		(3)	(19)	(23)	(50)	(185)
平板(再掲)													(0)
菌株(再掲)	(1)	(3)		(1)	(1)	(1)							(7)
後鼻腔拭い液	23	19	21	22	22	17	21	28	23	26	14	38	274
菌株													
糞便・直腸拭い液	2	3	4	4	6	8	3	9	8	4	7	2	60
キャリア(再掲)		(2)	(2)	(4)		(3)		(1)	(7)	(1)	(5)		(25)
菌株(再掲)	(2)	(1)	(2)		(6)	(5)	(3)	(8)	(1)	(3)	(2)	(2)	(35)
髄液	1	3	1	1	1		1			2	2	1	13
髄液(再掲)													(0)
菌株(再掲)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)		(1)			(2)	(2)	(1)	(13)
その他		2		1			1	3		1		1	9
キャリア(再掲)													(0)
菌株(再掲)		(2)		(1)			(1)	(3)		(1)		(1)	(9)
		血液 ¹		腹水			血液	血液		皮膚貯留液		血液	
		外耳 ¹											
計	36	46	42	41	43	39	37	40	34	52	46	92	548

表3 月別・検査材料別分離率

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
咽頭拭い液	スワブ	9	16	16	13	13	13	10		3	19	23	50	185
	分離数	9	16	6	14	10	10	9		2	14	23	41	154
	分離率(%)	(100.0)	(100.0)	(37.5)	(107.7)	(76.9)	(76.9)	(90.0)		(66.7)	(73.7)	(100.0)	(82.0)	(83.2)
糞便・直腸拭い液	キャリプレ		2	2	4		3		1	7	1	5		25
	分離数			1	2		3		1	1		3		11
	分離率(%)		(0)	(50.0)	(50.0)		(100.0)		(100.0)	(14.3)	(0)	(60.0)		(44.0)

11 件，44.0 %であった。

3 細菌分離状況

表4に月別の細菌分離状況を示す。

1) 溶血性レンサ球菌

A 群溶レン菌は 156 株分離され，すべて呼吸器症状を有する患者の上気道拭い液（咽頭・扁桃 142 株，後鼻腔 14 株）由来である。患者の年齢は，0 ~ 41 歳で，4 ~ 9 歳が 80.8 % を占め，ピークは 5 歳，6 歳であった。また，月別では 11 月，12 月の 2 ヶ月間に 70 株（44.9 %）を検出した。A 群溶レン菌の血清型は 8 種類に型別された（表 4）。最も多く分離されたのは T-12 型 71 株（45.5 %），次いで T-4 型 32 株（20.5 %），T-1 型 16 株（10.3 %），T-B3264 型 15 株（9.6 %），T-11 型，T-6 型，T-25 型，T-3 型の順であった。

他の溶血性レンサ球菌（以下，“溶レン菌”とする）は年間を通じて 19 株分離された。内訳は G 群溶レン菌 16 株，B 群溶レン菌 2 株，C 群溶レン菌 1 株である。G 群溶レン菌分離患者の年齢は 1 ~ 22 歳で 5 ~ 8 歳が 56.3 % を占めた。G 群溶レン菌 2 株以外は呼吸器感染症患者の咽頭・後鼻腔拭い液由来で，G 群溶レン菌の 2 株は胃腸炎患者の直腸拭い液，糞便からの分離である。B 群溶レン菌 2 株の血清型は Ib 型 1 株，型不明 1 株であった。B 群溶レン菌型不明株は，髄液からの分離である。

2) 糞便・直腸拭い液からの腸管系病原菌

腸管系病原菌は 44 株分離され（表 4），内訳は下痢原性大腸菌 26 株，*Salmonella* 14 株，*Campylobacter jejuni* 3 株，*Klebsiella oxytoca* 1 株である。大腸菌の血清型は 11 種類で，O1 が最も多く 10 株（38.5 %），次いで O111 が 4 株（15.4 %），O126 が 3 株（11.5 %）であった。O157 はベロ毒素 1 型，2 型遺伝子を保有していたが，他の大腸菌には毒素遺伝子は認

められなかった。*Salmonella* の血清型は 6 種類で亜種 4:i:-9 株（64.3%），*Enteritidis*，*Stanley*，*Thompson*，*Typhimurium*，*Montevideo* 各 1 株であった。

3) 肺炎球菌，インフルエンザ菌

肺炎球菌は 127 株分離された。細菌性髄膜炎患者の髄液由来は 4 株で，その他は呼吸器感染症患者の上気道（後鼻腔 110 株，咽頭 13 株）由来である。患者の年齢は，細菌性髄膜炎患者（58，77 歳）を除くと，0 ~ 14 歳で，0 ~ 2 歳が 70.9 % を占め，ピークは 1 歳であった。

インフルエンザ菌は 132 株分離された。細菌性髄膜炎患者の髄液由来が 3 株で，他は呼吸器感染症患者の上気道（後鼻腔 116 株，咽頭 13 株）由来である。患者の年齢は，0 ~ 11 歳で，0 ~ 2 歳が 67.1 % を占め，ピークは 1 歳であった。インフルエンザ菌の血清型は，型不明が最も多く 111 株（86.0 %），次いで b 型 8 株（6.2 %），d 型 4 株（3.1 %），e 型 3 株（2.3 %），a 型，c 型各 1 株であった。なお，細菌性髄膜炎患者髄液分離株 3 株は b 型 2 株，型不明 1 株であった。

4) 髄液からの検出菌

前述の溶レン菌，インフルエンザ菌，肺炎球菌以外に 71 歳の髄膜炎患者から *Streptococcus intermedius*，*Prevotella intermedia*，*Prevotella heparinolytica* 各 1 株が分離された。また 0 歳の患者から大腸菌型不明 1 株，56 歳の患者から *Acinetobacter calcoaceticus* 1 株分離された。

5) その他の検出菌

血液から 6 株分離され，*Campylobacter jejuni*，*Actinobaculum schaalii*，*Aerococcus viridans*，*Haemophilus aphrophilus*，*Listeria monocytogenes*，*Salmonella Enteritidis* 各 1 株であった。

Campylobacter jejuni を検出した患者は，糞

表4 月別細菌分離状況(2007年1月~12月)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
A群溶	レン菌 T-1	1	3	1	1	1	5				1	1	2	16
A群溶	レン菌 T-3		1			1								2
A群溶	レン菌 T-4	4	7		6	2	1	2		1	3	6		32
A群溶	レン菌 T-6	1	1		2								1	5
A群溶	レン菌 T-11	1		2	2	1							2	8
A群溶	レン菌 T-12		3	1		2	3	7	1	1	6	15	32	71
A群溶	レン菌 T-25	1	1			1								3
A群溶	レン菌 T-B3264	2	1		1							2	9	15
A群溶	レン菌 T型不明			1	1	1					1			4
B群溶	レン菌 Ib型	1												1
B群溶	レン菌 型不明										1			1
C群溶	レン菌		1											1
G群溶	レン菌	2		1	1	3	1	1	2	1	4			16
<i>E.coli</i>	O1		1	1			2			1		3	2	10
<i>E.coli</i>	O6											1		1
<i>E.coli</i>	O8								1					1
<i>E.coli</i>	O18								1					1
<i>E.coli</i>	O25											1		1
<i>E.coli</i>	O111	1		1			2							4
<i>E.coli</i>	O114						1							1
<i>E.coli</i>	O126					2	1							3
<i>E.coli</i>	O128					1								1
<i>E.coli</i>	O146						1							1
<i>E.coli</i>	O157 VT1,2(+)			1										1
<i>E.coli</i>	型不明	1		1										2
<i>S. Enteritidis</i>						1		1						2
<i>S. Stanley</i>						1								1
<i>S. Thompson</i>										1				1
<i>S. Typhimurium</i>								1						1
<i>S. Montevideo</i>											1			1
<i>Salmonella</i> sp	亜種 4:i:-							7			2			9
<i>C.jejuni</i>					1		1	2						4
<i>A.calcoaceticus</i>											1			1
<i>A.schaalii</i>								1						1
<i>A.viridans</i>													1	1
<i>S.aureus(mecA)</i>				1	1									2
<i>S.auricularis(mecA)</i>											1			1
<i>S.oralis</i>					1									1
<i>K.oxytoca</i>					1									1
<i>P.aeruginosa</i>					1									1
<i>P.heparinolytica</i>			1											1
<i>P.intermedia</i>			1											1
<i>H.aphrophilus</i>			1											1
<i>L.monocytogenes</i>								1						1
<i>B.firmus</i>				1										1
<i>B.idriensis</i>			1											1
<i>S.intermedius</i>			1											1
<i>S.pneumoniae</i>	PSSP	1			1					1			2	5
	PISP	3	4	5	5	5	6	3	6	4	3	4	11	59
	PRSP	7	6	4	3	3	2	9	6	10	5		8	63
<i>H.influenzae</i>	BLNAS	4	1	3	1	1		5	4	2	7	7	7	42
	軽度BLNAR		3		2	1	4	1	2	1	1	2		17
	BLNAR	4	5	5	6	7	4	4	7	3	7	2	6	60
	BLPAR	1	1	2	1	2	1				2			10
	BLPACR-				1	1				1				3
計		35	44	31	39	37	35	45	30	27	46	44	83	496

便からも分離された。その他腹水から *Bacillus firmus*, 皮膚貯留液から *Staphylococcus auricularis* (*mecA+*), 外耳から *Bacillus idriensis* が各 1 株分離された。

4 肺炎球菌, インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

1) 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

薬剤耐性遺伝子の検出結果と Clinical and Laboratory Standards Institute (CLSI) による薬剤感受性判定結果を表 5 に示す。

遺伝子検査の結果, ペニシリン結合蛋白をコードする 3 種類の遺伝子 *pbp* の何れかに変異が認められた株は 127 株中 118 株 (92.9 %) であった。その内訳は *pbp1a* 変異 1 株, *pbp2x* 変異 18 株, *pbp2b* 変異 1 株, *pbp1a+2x* 変異 16 株, *pbp2x+2b* 変異 18 株, *pbp1a+2x+2b* 変異 64 株である。これらを遺伝子変異の有無によって分類すると, ペニシリン感受性肺炎球菌 (以下 “PSSP” とする) 9 株 (7.1 %), ペニシリン中等度耐性肺炎球菌 (以下 “PISP” とする) 54 株 (42.5 %), ペニシリン耐性肺炎球菌 (以下 “PRSP” とする) 64 株 (50.4 %) である。なお, 髄膜炎患者の髄液由来株は 遺伝子 *pbp2x*, *pbp1a+2x* に変異のある PISP, *pbp1a+2x+2b* に変異のある PRSP であった。

一方, CLSI による薬剤感受性試験では, PSSP39 株 (30.7 %), PISP51 株 (40.2 %),

PRSP34 株 (26.8 %) に分類された。この PSSP39 株の内 33 株 (84.6 %) に *pbp* 変異が検出され, PISP51 株の内 28 株 (54.9 %) に *pbp1a+2x+2b* 変異が検出された。

マクロライド耐性遺伝子は 108 株 (85.0 %) に認めた。その内訳は耐性遺伝子 *mefA* 検出が 48 株, *ermB* 検出が 72 株であり, このうち 12 株は *mefA*, *ermB* 共に検出した。

2) インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

薬剤耐性遺伝子の検出結果と CLSI による薬剤感受性判定結果を表 6 に示す。

遺伝子検査の結果, ペニシリン結合蛋白をコードする遺伝子 *ftsI* の変異部位 *pbp3-1*, *pbp3-2* の何れかに変異を認めた株は 132 株中 85 株 (64.4 %) であった。TEM 遺伝子別にみると, TEM 遺伝子陰性 (β -ラクタマーゼ陰性) は 117 株, TEM 遺伝子陽性 (β -ラクタマーゼ陽性) は 13 株 (10.0 %) であった。これらを遺伝子変異によって分類すると, β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン感受性インフルエンザ菌 (以下 “BLNAS” とする) 45 株 (34.6 %), β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン軽度耐性インフルエンザ菌 (以下 “軽度 BLNAR” とする) 23 株 (17.7 %), β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 (以下 “BLNAR” とする) 62 株 (47.7 %) であった。 β -ラクタマーゼ陽性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 (以下

表 5 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

CLSIによる 薬剤耐性	<i>pbp</i> 変異								計
	変異なし	<i>pbp1a</i>	<i>pbp2x</i>	<i>pbp2b</i>	<i>pbp1a+2x</i>	<i>pbp1a+2b</i>	<i>pbp2x+2b</i>	<i>pbp1a+2x+2b</i>	
PSSP	6	1	16	1	8		6	1	39
PISP	3		1		7		12	28	51
PRSP								34	34
未実施			1		1			1	3
計	9	1	18	1	16		18	64	127

表 6 インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子結果

CLSIによる 薬剤耐性	TEM	<i>pbp</i> 変異			未実施	計
		変異なし	<i>pbp3-1</i>	<i>pbp3-2</i>		
BLNAS	3	38	16	3	10	67
軽度BLNAR			1	1	13	16
BLNAR		1	2	2	30	35
BLPAR	10	6	2	1	2	12
未実施			2			2
計	13	45	23	7	55	132

“BLPAR”とする) 13株のうち3株(23.1%)が、β-ラクタマーゼ陽性アモキシシリン/クラバン酸耐性-インフルエンザ菌(以下“BLPACR-”とする)であった。すべてTEM遺伝子陰性株で*pbp3-1*変異(軽度BLNAR)2株,変異なし(BLNAS)1株であった。一方,CLSIによる薬剤感受性試験では,BLNAS 67株(51.5%),軽度BLNAR 16株(12.3%),BLNAR35株(26.9%),BLPAR12株(9.2%)に分類された。このBLNAS 67株の内29株(43.3%)に*pbp3-1*,あるいは*pbp3-2*遺伝子変異を検出した。

考 察

A群溶レン菌は,小児の咽頭炎の主要な原因菌である。付表に本調査によるA群溶レン菌T型別の年次推移を示した。主要な血清型であるT-1型,4型,12型の3種の血清型の

占める割合は例年50%以上であり²⁾,2007年は総分離株の76.3%を占めた。2006年はT-1型が顕著に増加し,その分離割合は1989年以降最も高率(45.0%)であったが,2007年はT-12型が総分離株の45.5%を占めた。病原体定点からのT-12型分離状況を見ると2007年10月頃から増加傾向にあり,病原微生物情報2008年2月においてもさらに増加傾向が見られる。

A群溶レン菌分離患者の年齢構成は5歳,6歳がピークで4~9歳で80.8%を占めた。G群溶レン菌も同様に5~8歳で56.3%を占めた。この傾向は,1歳をピークとした低年齢層に多い肺炎球菌やインフルエンザ菌とは異なっていた。

*Salmonella*の血清型は6種類で亜種4:i:-が9株分離され,64.3%を占めた。この血清型は,海外でも増加傾向にある³⁾。今回は,1

付表 A群溶レン菌T型別の年次推移(1989~2007)

	T型	1	2	3	4	6	8	9	11	12	13	14/49	18	22	23	25	28	B3264	型不明	計
1989		60		1	95	37			2	102	1		3	3			7	5	15	331
%		18.1		0.3	28.7	11.2			0.6	30.8	0.3		0.9	0.9			2.1	1.5	4.5	100
1990		39		5	101	55		1	14	75		3	2	10			29	8	22	364
%		10.7		1.4	27.7	15.1		0.3	3.8	20.6		0.8	0.5	2.7			8.0	2.2	6.0	100
1991		69	3	2	157	16	2	2	24	212		3	2	27			19	21	25	584
%		11.8	0.5	0.3	26.9	2.7	0.3	0.3	4.1	36.3		0.5	0.3	4.6			3.3	3.6	4.3	100
1992		175		31	129		1	1	18	89		2	1	12			5	65	143	672
%		26.0		4.6	19.2		0.1	0.1	2.7	13.2		0.3	0.1	1.8			0.7	9.7	21.3	100
1993		85		35	190	1			34	123		4	24	17			31	61	81	686
%		12.4		5.1	27.7	0.1			5.0	17.9		0.6	3.5	2.5			4.5	8.9	11.8	100
1994		110		15	172	2			21	265			95	9		1	40	18	36	784
%		14.0		1.9	21.9	0.3			2.7	33.8			12.1	1.1		0.1	5.1	2.3	4.6	100
1995			1	2	116	2			9	122			9	4			36	17	14	332
%			0.3	0.6	34.9	0.6			2.7	36.7			2.7	1.2			10.8	5.1	4.2	100
1996		125			103	111			7	41			4				18	7	54	470
%		26.6			21.9	23.6			1.5	8.7			0.9				3.8	1.5	11.5	100
1997		82	4		66	39			7	61				4			25	11	17	316
%		25.9	1.3		20.9	12.3			2.2	19.3				1.3			7.9	3.5	5.4	100
1998		58	17		57	37			6	100				1		42	43	10	18	389
%		14.9	4.4		14.7	9.5			1.5	25.7				0.3		10.8	11.1	2.6	4.6	100
1999		55	5		68	3		1	3	59	4			1		66	42	6	44	357
%		15.4	1.4		19.0	0.8		0.3	0.8	16.5	1.1			0.3		18.5	11.8	1.7	12.3	100
2000		51	4		22	34			1	74		1		6		16	8	14	10	241
%		21.2	1.7		9.1	14.1			0.4	30.7		0.4		2.5		6.6	3.3	5.8	4.1	100
2001		84	5	9	46	7			1	97	1					6	10	8	5	279
%		30.1	1.8	3.2	16.5	2.5			0.4	34.8	0.4					2.2	3.6	2.9	1.8	100
2002		23	17	40	97	3			4	58						11	18	5	3	279
%		8.2	6.1	14.3	34.8	1.1			1.4	20.8						3.9	6.5	1.8	1.1	100
2003		24	1	17	107				1	99	1				1	11	12	27	6	307
%		7.8	0.3	5.5	34.9				0.3	32.2	0.3				0.3	3.6	3.9	8.8	2.0	100
2004		80	1	2	42	18			4	73	1					8	4	11	4	248
%		32.3	0.4	0.8	16.9	7.3			1.6	29.4	0.4					3.2	1.6	4.4	1.6	100
2005		21		15	33	19			4	20						4	3	6	2	127
%		16.5		11.8	26.0	15.0			3.1	15.7						3.1	2.4	4.7	1.6	100
2006		138		3	52	44			9	41	3						6	9	2	307
%		45.0		1.0	16.9	14.3			2.9	13.4	1.0						2.0	2.9	0.7	100
2007		16		2	32	5			8	71						3		15	4	156
%		10.3		1.3	20.5	3.2			5.1	45.5						1.9		4.9	1.3	100
計		1,295	58	179	1,685	433	3	5	177	1,782	23	1	140	94	1	168	356	324	505	7,229
%		17.9	0.8	2.5	23.3	6.0	0.04	0.1	2.4	24.7	0.3	0.01	1.9	1.3	0.01	2.3	4.9	4.5	7.0	100

地域からからの検出であったが、今後は更に注目していきたい。細菌性髄膜炎の患者からは、インフルエンザ菌、肺炎球菌の分離が多く B 群溶レン菌、大腸菌、*Acinetobacter calcoaceticus* は各 1 株の検出であった。2 月に 71 歳の細菌性髄膜炎患者からは、*Streptococcus intermedius*、*Prevotella intermedia*、*Prevotella heparinolytica* の 3 株が分離された。これらの菌は従来の方法では菌種の決定が困難なため、シークエンス (16S rRNA 遺伝子配列解析) によって菌種を決定した。72 歳の急性膵炎患者の腹水から分離された菌株 *Bacillus firmus* や 0 歳の胎便吸引症候群患者の外耳から分離された菌株 *Bacillus idriensis* もシークエンスによって菌種を決定した。83 歳急性腎盂腎炎患者の血液から分離された菌株は、アピ 20A、RapID ANA より、*Actinomyces meyeri* と推測されたが、塩基配列による同定の必要性があり、岐阜大学大学院研究科の大楠清文准教授にシークエンスを依頼した。その結果 新種の可能性が高い非常に珍しい *Actinobaculum schaalii* となった。このことは、今後同定キット等で高い確率の結果が得られても果たして正しく菌種を決定することができるのか疑問が残ることを意味している。今後の課題としたい。

肺炎球菌、インフルエンザ菌は細菌性髄膜炎⁴⁾と共に呼吸器感染症の主要な病原菌である。分離された肺炎球菌 127 株、インフルエンザ菌 132 株 (髄液由来 7 株、呼吸器由来 252 株) の患者の年齢構成は 1 歳をピークとした低年齢層に多く、0 ~ 2 歳の占める割合が肺炎球菌 70.9%、インフルエンザ菌 67.9% とほぼ同割合であった。この傾向は、2006 年と同様である。

インフルエンザ菌の血清型は型不明が 86.0% と高率である。現在の血清型別は、莢膜に基づく型別であるために菌株の継代等の保存環境に大きく左右される。type b は病原性に強く関与し、髄膜炎の起因菌ばかりでなく、鼻咽腔などの呼吸器系においても全身感染症の侵入経路となりうるため、近年、type b か否かの鑑別が重要視されてきている。当所においては、現在莢膜の有無に左右されない遺伝子による type b の型別の検討を進め

ている。今回、髄液由来 3 株中の 2 株が type b、1 株が型不明であった。薬剤耐性は BLNAR、L-BLNAR であった。武下⁴⁾らはインフルエンザ菌 type b の耐性化が増加傾向であると報告している。今後この両面から動向を見守りたい。

当所では 2002 年から肺炎球菌とインフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検査を実施している^{1)6)~9)}。今年、ペニシリン耐性遺伝子が認められた肺炎球菌は 92.9% で、最も高かった 2005 年 92.4% 同様耐性が高率に維持されている状況である (2002 年 84.7%、2003 年 80.5%、2004 年 87.2%、2006 年 87.2%)。

一方、肺炎球菌のマクロライド耐性に関しては、85.0% が耐性遺伝子を保有していた。2006 年 93.2% に比べやや減少はしているが (2002 年 79.5%、2003 年 77.9%、2004 年 91.3%、2005 年 91.6%)、一時的なものか今後注目していきたい。

インフルエンザ菌のペニシリン耐性遺伝子保有率は 64.4% で 2006 年 64.0% とほぼ同じ値を示した。2003 年 71.8%、2004 年 50.7%、2005 年 46.9% と一時的な耐性遺伝子保有の減少傾向を認めていたが、2006 年以降再び耐性遺伝子保有が増加した。また、TEM 遺伝子陽性株は、2003 年 28.9%、2004 年 1.4%、2005 年 7.0% と減少傾向にあったが、2006 年に 12.6% と増加傾向を示した。2007 年は 10.0% とやや減少した。TEM 遺伝子陽性株の内、BLPAR-、BLPAR- の占める割合は 23.1% で、2006 年の 23.5% とほぼ同じであった。

表 5、表 6 に示したように、耐性遺伝子による薬剤感受性は、CLSI による薬剤感受性よりも耐性側にシフトしている。肺炎球菌では薬剤感受性上 PSSP と判定された 15.4% のみが遺伝子上も PSSP であり、他は、なんらかの変異を認めた。インフルエンザ菌も同様に薬剤感受性上の BLNAS が、遺伝子上では BLNAR に判定されることもあり、耐性遺伝子検出は正確な薬剤耐性菌の状況把握に有用である。

まとめ

1 2007 年 1 月から 12 月まで採取された検体 548 件から 496 株の細菌を分離した。

2 A 群溶レンサ菌 156 株は T-12 型が 45.5 % を占めた。

3 A 群溶レンサ菌は、例年とは異なり、10 ~ 12 月に 51.9 % が検出され、患者の年齢は 4 ~ 9 歳が 80.8 % を占めた。

4 他の溶レン菌は B 群 2 株、C 群 1 株、G 群 16 株を分離した。B 群溶レン菌の血清型は Ib 型、型不明各 1 株である。

5 腸管系病原菌は *Salmonella* 14 株、*Campylobacter*、*jejuni* 3 株、*Klebsiella oxytoca* 1 株である。下痢原性大腸菌 26 株を分離した。

6 *Salmonella* の血清型は 6 種類で、亜種 4:i:- (64.3%)、Enteritidis、Stanley、Thompson、Typhimurium、Montevideo 各 1 株であった。

7 大腸菌の血清型は 11 種類で、O1 が 10 株 38.5 %、O111 が 4 株 15.4 % を占めた。O126 は 3 株 11.5 % であった。O157 はベロ毒素 1 型 2 型遺伝子陽性で、他の大腸菌には毒素遺伝子は認められなかった。

8 髄膜炎からの分離菌は、ペニシリン耐性肺炎球菌 1 株、ペニシリン中等度耐性肺炎球菌 3 株、 β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン軽度耐性インフルエンザ菌 2 株、 β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌、大腸菌、B 群溶レン菌、*Streptococcus intermedius*、*Prevotella intermedia*、*Prevotella heparinolytica*、*Acinetobacter calcoaceticus* 各 1 株であった。

9 肺炎球菌は 127 株、インフルエンザ菌は 132 株分離され、患者の年齢は、いずれも 1 歳が最も多く、0 歳から 2 歳で約 70 % を占めた。

10 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検査では、92.9 % に変異が認められ、ペニシリン感受性肺炎球菌 7.1 %、ペニシリン中等度耐性肺炎球菌 42.5 %、ペニシリン耐性肺炎球菌 50.4 % であった。マクロライド耐性遺伝子は 85.0 % に認められた。

11 インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検査では、64.4 % に変異が認められ、 β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン感受性インフルエンザ菌 34.6 %、 β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン軽度耐性インフルエンザ菌 17.7 %、 β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 47.7 %、 β -ラクタマーゼ陽性アンピシリン

耐性インフルエンザ菌 10.0 % であった。

謝 辞

検体採取等本事業にご協力いただいた病原体定点の医療機関の諸先生方に深謝いたします。

引用文献

- 1) 平沢恭子, 須釜久美子, 長沢正秋, 他. 平成 16 年感染症発生動向調査事業報告 (細菌). 福島県衛生研究所年報 2004; 22: 59-66.
- 2) 国立感染症研究所. <特集> 溶血レンサ球菌感染症 2000 ~ 2004. 病原微生物検出情報 2004; 25: 252-258.
- 3) 国立感染症研究所 感染症情報センター <http://idsc.nih.gov/j/iasr/index-j.html> 2008/2/8
- 4) 国立感染症研究所. <特集> 細菌性髄膜炎 2001 現在. 病原微生物検出情報 2002; 23: 31-37.
- 5) 武下公子, 根ヶ山清, 今田和子, 他. 香川県 8 施設において分離された *Haemophilus influenzae* type b の分離状況と薬剤感受性. 医学検査 2007; 5: 769-774.
- 6) 平沢恭子, 須釜久美子, 長沢正秋, 他. 平成 14 年感染症発生動向調査事業報告 (細菌). 福島県衛生研究所年報 2002; 20: 46-54.
- 7) 平沢恭子, 須釜久美子, 長沢正秋, 他. 平成 15 年感染症発生動向調査事業報告 (細菌). 福島県衛生研究所年報 2003; 21: 63-70.
- 8) 平沢恭子, 須釜久美子, 長沢正秋, 他. 平成 17 年感染症発生動向調査事業報告 (細菌). 福島県衛生研究所年報 2005; 23: 80-87.
- 9) 平沢恭子, 渡邊奈々子, 小澤奈美, 他. 2006 年感染症発生動向調査事業報告 (細菌). 福島県衛生研究所年報 2006; (印刷中)

2006/2007 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行について

廣瀬昌子 菱沼郁美 柏原尚子 金成篤子 三川正秀
微生物グループ

要 旨

2006/2007 シーズンのインフルエンザ患者発生は第 43 週から報告され、第 11 週をピークに第 31 週まで続いた。ピーク時における定点あたりの報告数は 35.6 と 2005/2006 シーズンよりも規模の大きいものであった。

分離されたウイルスは A ソ連型 (H1) (19.1%), A 香港型 (H3) (48.1%), B 型 (32.0%) であり、A 香港型を主とした 3 型の流行であった。

HI 抗体価については、A 香港型は低い保有状況であり、B 型ビクトリア系統も低い保有状況にあった。

キーワード：インフルエンザ A 香港型 B 型 (ビクトリア系統)

はじめに

当所では、感染症発生動向調査に基づき県内の医療機関より搬入された検体のウイルス検索を行っている。また、感染症流行予測事業のインフルエンザ感受性調査も実施している。

そこで、県内における 2006/2007 シーズンのインフルエンザの流行状況、ウイルス分離状況及び患者状況に加え、血清抗体価保有状況の概要を報告する。

材 料

1 ウイルス検索

2006 年 10 月から 2007 年 7 月まで、感染症発生動向調査により県内 8 保健所管内の 9 医療機関から搬入された 814 検体 (796 症例) を用いた。その内訳は、咽頭ぬぐい液 793 件、髄液 21 件であった。

2 血清学的検査

「平成 18 年度感染症流行予測事業」のインフルエンザ感受性調査として、2006 年 9 月 1 日から 10 月 11 日までに県北地区の健康成人および県南地区の医療機関受診者の同意を得て採取した血清 246 検体 (0 歳 ~ 90 歳) について抗体調査を行った。年齢階層別の検体数を表 1 に示す。

表 1 年齢階層別の検体数

年齢階層	検体数
0 ~ 4	38
5 ~ 9	31
10 ~ 14	29
15 ~ 19	10
20 ~ 29	28
30 ~ 39	30
40 ~ 49	31
50 ~ 59	24
60 ~	25
合計	246

方 法

1 流行状況の把握

福島県感染症発生動向調査週報による患者発生状況および県教育庁教育指導領域まとめによる公立学校におけるインフルエンザ発生状況について集計した。

2 ウイルス検索および同定

感染症発生動向調査により搬入された検体のうち呼吸器系検体および髄液について、RD-18s, Hep-2, VERO, LLCMK2 および MDCK に接種し、2 代継代を行った。MDCK 細胞において細胞変性効果 (CPE) が出現したもの

については、国立感染症研究所から分与されたフェレット感染血清およびヒツジ免疫血清を使用し、0.75 %モルモット血球による赤血球凝集抑制試験（以下“HI 試験”とする）により同定を行った。

抗血清使用株を以下に示す。

A/New Caledonia/20/99(A ソ連型(2006/2007 シーズンワクチン株)

A/Hiroshima/52/2005 (A 香港型)(2006/2007 シーズンワクチン株)

B/Malaysia/2506/2004 (ビクトリア系統) (2006/2007 シーズンワクチン株)

B/Shanghai/361/2002 (山形系統)

3 血清学的検査

血清を RDE () (デンカ生研製) で処理した後、「平成 18 年度感染症流行予測事業要領」により HI 試験を行った。抗原はデンカ生研製の A/New Caledonia/20/99 (A ソ連型) , A/Hiroshima/52/2005 (A 香港型) , B/Malaysia/2506/2004 (ビクトリア系統) , B/Shanghai/361/2002 (山形系統) の 4 株を使用した。

結 果

1 流行状況

1) 県内における患者発生状況

2006/2007 シーズンのインフルエンザ患者報告数を図 1 に示した。県内では第 43 週 (郡山市) に報告が開始され¹⁾、第 3 週には流行開始の指標と考えられる定点あたりの報告数が 1.0 を越え、第 11 週にはピークとなった。その後、第 27 週には定点あたりの報告数が 0.5 未満となり終息した。2006/2007 シーズンの患者報告数の累計は 19,482 人、ピーク時の定点あたりの報告数は 35.6 人となり、2005/2006 シーズンに比べて規模は大きく、ピークは約 1 ヶ月遅かった。

地域別発生状況を見ると (図 2) , 流行開始は、県北が第 52 週、南会津が第 2 週、県中は第 5 週でそれ以外の地区は第 3 週であったが、ピーク時期は各地区とも第 10 週から第 12 週の範囲であった。流行の終息時期は、県北は第 24 週、県中、相双は第 22 週、県南は第 21 週、南会津、郡山市は第 20 週であっ

表 2 県内のインフルエンザ患者報告数

シーズン	患者数	ピーク時定点あたりの報告数
2001/2002	5,971	29.8 (8 週)
2002/2003	11,876	37.6 (6 週)
2003/2004	19,144	31.8 (5 週)
2004/2005	27,089	53.7 (9 週)
2005/2006	14,131	26.2 (4 週)
2006/2007	19,482	35.6 (11 週)

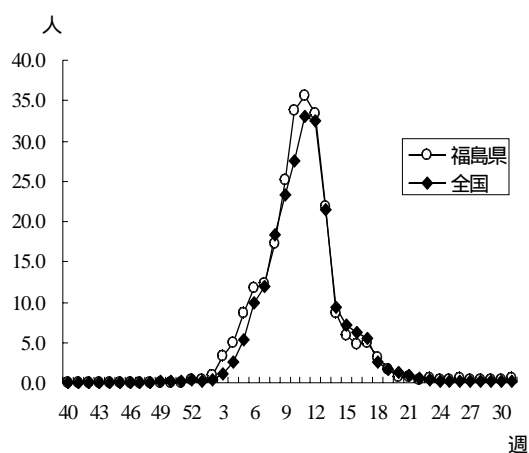


図 1 患者報告数

たが、いわき市では第 31 週まで続いた。報告開始の第 43 週から第 31 週までの定点あたりの週平均患者報告数はいわき市 (7.1 人) , 県南 (6.4 人) , 郡山市 (6.1 人) , 会津 (5.3 人) , 県北 (5.2 人) , 県中 (4.3 人) , 相双 (4.0 人) , 南会津 (2.9 人) であった。

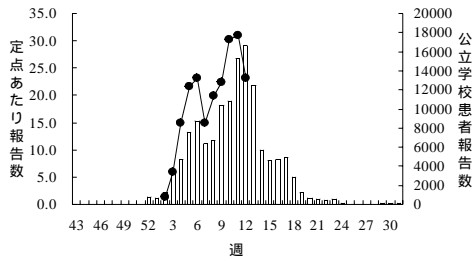
2) 公立小中学校におけるインフルエンザ発生状況

公立小中学校の患者数 (欠席者数を含む) を図 2 に示した。流行開始は県南、会津の第 51 週であったが、県内全域の報告は冬休み明けの第 2 週であった。ピークは発生動向調査とほぼ同じ第 10 週から第 12 週であった。第 52 週から第 12 週までの欠席者総数は 94,103 人であった。

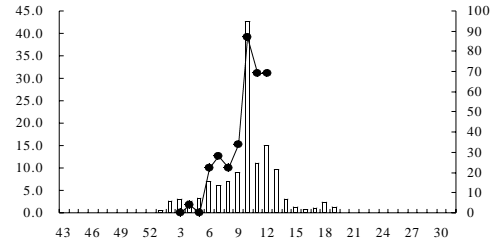
2 ウイルス分離状況

1) 週別ウイルス分離状況

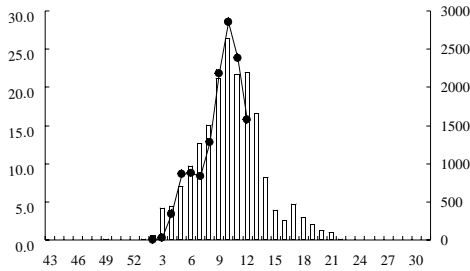
□ 定点あたり患者報告数 ● 公立学校患者報告数
 県北



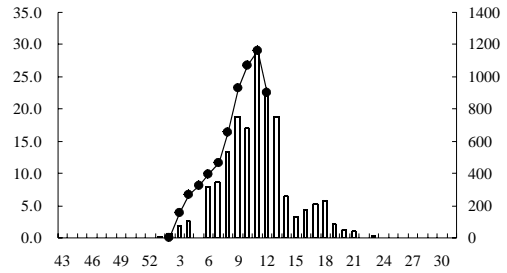
南会津



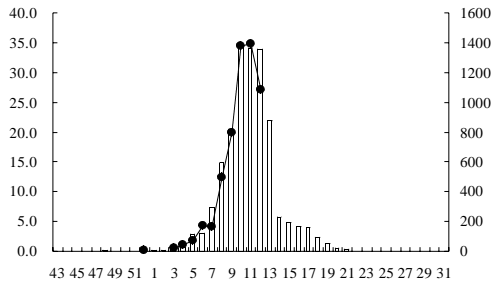
県中 (郡山市を含む)



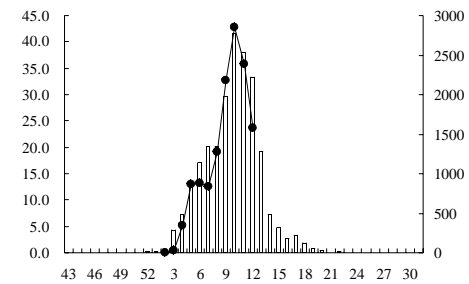
相双



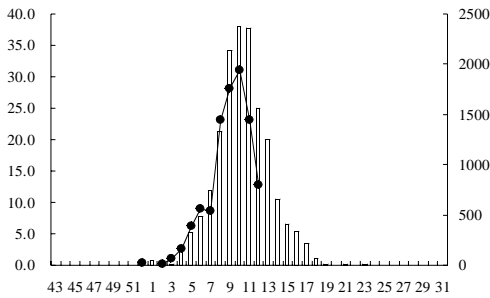
県南



郡山市 (県中を含む)



会津



いわき市

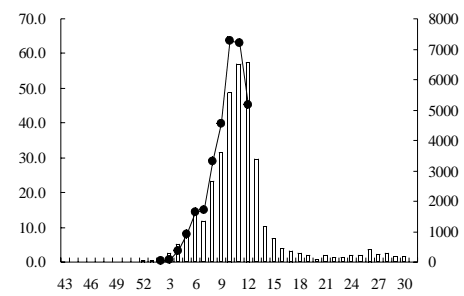


図2 地域別患者報告数

県内の週別ウイルス分離状況を図3に示した。2006/2007シーズンは、第52週に採取された県北および郡山市の検体から分離されたA香港型(H3)で始まり、第5週にはB型が、第6週にはAソ連型(H1)が分離され、

2006/2007シーズンも2005/2006シーズンと同様3型の流行であった²⁾。A香港型は第52週分離後、第13週まで分離され、Aソ連型は第6週から第26週まで分離された。B型は第5週から第22週までであった。各型の

分離数は、A ソ連型 36 株 (19.9%)、A 香港型 87 株 (48.1%)、B 型 58 株 (32.0%)、合計 181 株であった。B 型は昨年同様ビクトリア系統であった。

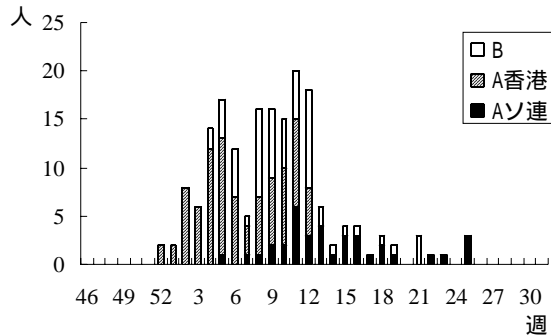


図3 週別ウイルス分離状況

さらに、分離されたウイルスの割合の推移を比較するために、患者数が増加し始めた第3週以前を前期、第4週から第13週を中期、第14週以降を後期とし図4に示した。前期はA香港型のみであったが、中期にはA香港型11.5%、Aソ連型54.0%、B型34.5%分離され、後期にはAソ連型66.7%、B型33.3%が分離された(図4)。

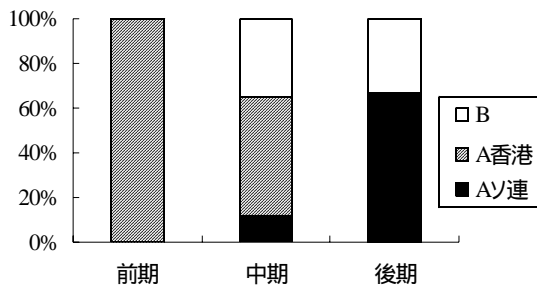


図4 時期別ウイルス分離状況

地域別週別分離状況の推移を見ると(図5)、県北、郡山市においては早期にA香港型が分離され、その後、第6週に郡山市においてAソ連型が分離された。B型は県北で第5週に分離された後各地で分離された。

2) 年齢階層別ウイルス分離状況

年齢階層別ウイルス分離状況を図6に示した。分離数は5~9歳が65例(35.9%)、次いで10~14歳が53例(29.3%)、0~4歳が51例(28.2%)、15歳~が12例(6.6%)であった。分離型別では、A香港型、B型は各年齢階層から分離されたが、Aソ連型は14歳以下の年齢階層だけから分離された。また、A香港型は0~4歳と15歳以上で大きな割合を占めた。

3) 分離陽性者の診断名及び臨床症状

ウイルス分離陽性者の初診時診断名を表3に示した。インフルエンザの診断名が177例(94.5%)と大部分を占め、次いで上気道炎が8例(4.4%)であった。次に臨床症状を表4に示す。発現率は発熱が最も多く(98.9%)、次いで上気道炎(76.8%)であった。型別では、Aソ連型では下気道炎が25%にみられ、A香港型で筋肉痛、B型で関節痛がそれぞれ8%にみられた点が特徴的であった。また、Aソ連型では上気道炎の発症率が他の型より少ない割合であった。

表3 ウイルス分離陽性者の診断名(診断時)

診断名		人数	割合
インフルエンザ	インフルエンザ	155	(94.5%)
	インフルエンザ・気管支炎	3	
	インフルエンザ・胃腸炎	3	
	インフルエンザ・気管支炎・上気道	1	
	インフルエンザ・熱性痙攣	3	
	インフルエンザ・扁桃炎	1	
	インフルエンザ・急性咽頭気管支炎	1	
	インフルエンザ・クループ症候群	1	
	インフルエンザ・熱せん妄	2	
	インフルエンザ・異常行動	1	
上気道炎	扁桃炎・肺炎	1	(4.4%)
	扁桃炎・気管支炎	2	
	咽頭炎	1	
	咽頭炎・胃腸炎	1	
	急性咽頭炎	1	
その他	扁桃炎・脳症	2	(1.1%)
	肺炎	1	
	熱性痙攣	1	
合計	181		

3 血清学的検査

インフルエンザ感受性調査によるHI抗体保有状況を表6、図6に示す。

1) A/New Caledonia/20/99 (Aソ連型, 2006/2007シーズンワクチン株)

本株は、2005/2006シーズンから流行が始まり、2005/2006シーズンの分離株の4分の1を占めた。HI抗体価10倍以上の保有率は5~19歳では70%以上と高く、特に15~19

歳では 90%と最も高かった。有効防御免疫の指標とみなされている HI 抗体価 40 倍以上は、10 ~ 19 歳で 65%と高い保有率であったが、0 ~ 4 歳、60 歳以上では 10%未満の低い保有率であった。

2) A/Hiroshima/52/2005 (A 香港型, 2006/2007 シーズンワクチン株)

A 香港型は 2005/2006 シーズンの流行の主

流株であり、分離株の 65%を占めた。HI 抗体価 10 倍以上の保有率では、10 ~ 19 歳で 60%と高い保有率であったが、他の年齢階層では 5 ~ 9 歳の 48%以外は、0 ~ 4 歳で 20%、20 ~ 59 歳で 10 ~ 16%と低い保有率であった。特に 60 歳以上では 4%であった。HI 抗体価 40 倍以上の保有率は全般的に低く、15 ~ 19 歳、30 歳以上では 0%であった。

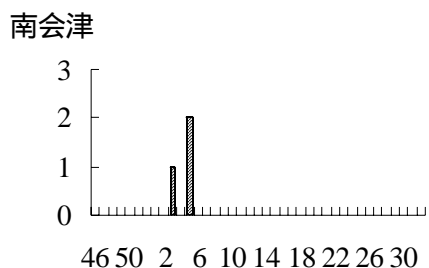
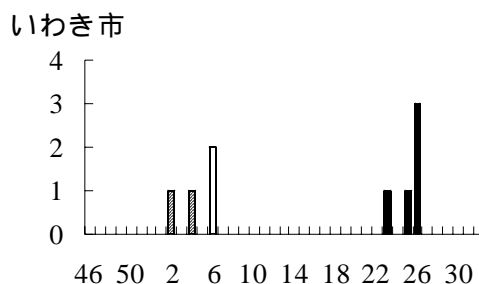
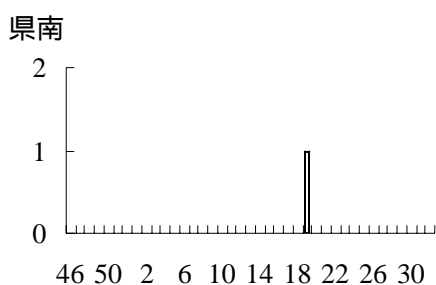
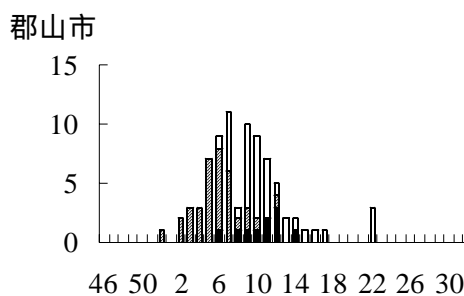
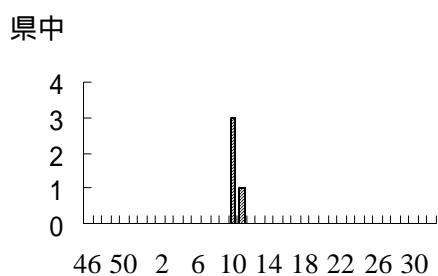
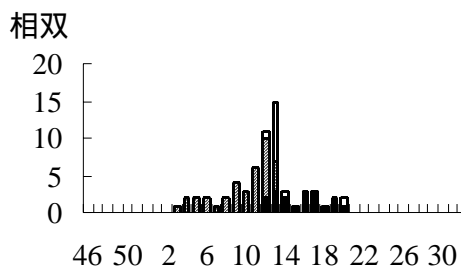
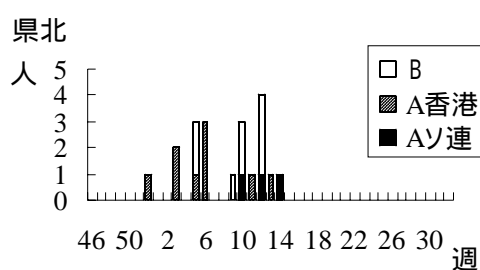


図5 地域別ウイルス分離状況

表4 分離陽性者の臨床症状発現率(%)

	上 気 道 炎	下 気 道 炎	関 節 痛	筋 肉 痛	下 肢 痛	嘔 気	嘔 吐	痙 攣	中 枢 神 経	下 痢	腹 痛	胃 腸 炎	口 内 炎	肺 炎	倦 怠	食 欲 不 振	発 熱	37.1 ~ 38.0	38.1 ~ 39.0	39.1 ~ 40.0
HI	36例	55.6	25.0	2.8	2.8	2.8				5.6	2.8			5.6		100	16.7	44.4	38.9	
H3	87例	80.5	6.9	1.1	8.0	2.3	3.4	2.3		2.3	2.3		1.1	4.6	1.1		97.7	9.2	48.3	40.2
B	58例	84.5		8.6	1.7	1.7	3.4	6.9	1.7	6.9	1.7					1.7	100	15.5	55.2	29.3
合計	181例	76.8	8.3	3.3	5.0	0.6	2.8	4.4	1.1	0.6	4.4	1.7	0.6	3.3	0.6	0.6	98.9	12.7	49.7	36.5

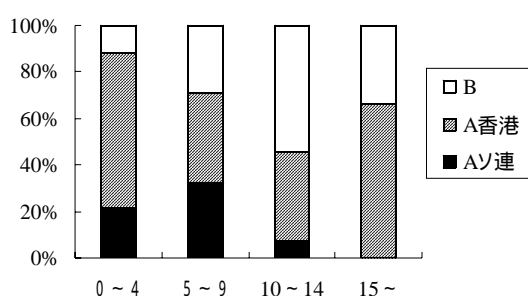


図6 年齢階層別ウイルス分離状況

3) B/Malaysia/2506/2004 (ビクトリア系統, 2006/2007 シーズンワクチン株)

2004/2005 シーズンの分離株は山形系統であったが, 2005/2006 シーズンはビクトリア系統であった。HI 抗体価 10 倍以上の保有率は 30 ~ 49 歳で 40 ~ 50%を示しているが, 0 ~ 4 歳で 2%, 5 ~ 9 歳, 50 歳以上で 16%, 10 ~ 19 歳で 20%であった。HI 抗体価 40 倍以上の保有率は 30 ~ 39 歳の 30%を最高にそれ以外は低い保有状況であった。特に 0 ~ 4 歳, 60 歳以上では 0%であった。

4) B/Shanghai/361/2002 (山形系統)

2005/2006 シーズンはウイルスの分離がなく, ワクチン株とは異なる。HI 抗体価 10 倍以上の保有率は 5 ~ 49 歳で 60%以上あり, 特に 15 ~ 19 歳では 100%と高い保有状況であったが, 50 ~ 59 歳では 12%と低い保有率であった。HI 抗体価 40 倍以上の保有率は, 15 ~ 19 歳で 80%, 10 ~ 14 歳, 20 ~ 29 歳, 40 ~ 49 歳で 42 ~ 45%を示した。しかし, 0 ~ 4 歳, 50 歳以上では 10%以下であり, 60 歳以上では 0%であった。

まとめ

1 県内における患者発生状況

2005/2006 シーズンよりも大きな流行であった。

地域別では, 県南, 会津, いわき市において, 他の地域と比較して大きな流行があったと考えられた。

公立小中学校の患者発生状況は, 感染症発生動向調査による観測とほぼ同様であった。

2 ウイルスの分離状況

分離されたウイルスは, A ソ連型(19.9%), A 香港型(48.1%), B 型(32.0%)であった。A 香港型を主にした 3 型の混合流行であった。

3 HI抗体保有状況

2005/2006 シーズンの保有状況と比較して低い状況であった。A ソ連型は全般的に高い保有率であったが, 4 歳以下, 60 歳以上では低い保有率であった。A 香港型では全般的に低い保有率であった。B 型では, ビクトリア系統は, 30 ~ 39 歳の 30%をピークに低い保有率であった。また, 山形系統は, A ソ連型と同じように 4 歳以下, 50 歳以上において低い保有率であった。

謝 辞

本調査を行うにあたり, 検体の採取にご協力いただいた県民の皆様ならびに各医療機関の諸先生, 国立感染症研究所, 県教育庁教育指導領域, 保健所職員の方々に深謝いたします。

表5 年齢階層別のインフルエンザ抗体価

A /New Caledonia/20/99(H1N1) (ワクチン株)

年齢階層	< 10	10	20	40	80	160	320	640	計
0～4	32	3	2		1				38
5～9	9	8	4	5	1	2	2		31
10～14	5	2	3	5	3	3	5	3	29
15～19	1	1	1	2		2	2	1	10
20～29	10	10	2	4	1		1		28
30～39	20	5	2	1	1	1			30
40～49	13	10	2	2	2	1	1		31
50～59	13	2	1	3	3	1	1		24
60～	15	3	5	1	1				25
計	118	44	22	23	13	10	12	4	246

A /Hiroshima/52/2005(H3N2) (ワクチン株)

年齢階層	< 10	10	20	40	80	160	320	640	計
0～4	30	5	2	1					38
5～9	16	8	3	3	1				31
10～14	11	12	2	3	1				29
15～19	4	5	1						10
20～29	24	3		1					28
30～39	27	3							30
40～49	26	5							31
50～59	21	1	1		1				24
60～	24	1							25
計	183	43	9	8	3	0	0	0	246

B /Malaysia/2506/2004 (ビクトリア系) (ワクチン株)

年齢階層	< 10	10	20	40	80	160	320	640	計
0～4	37	1							38
5～9	26	4			1				31
10～14	23	4	1		1				29
15～19	8	1		1					10
20～29	18	3	7						28
30～39	15	4	2	4	4	1			30
40～49	18	9	3	1					31
50～59	20	1	1	1	1				24
60～	21	4							25
計	186	31	14	7	7	1	0	0	246

B /Shanghai/361/2002 (山形系)

年齢階層	< 10	10	20	40	80	160	320	640	計
0～4	27	5	3	1			1	1	38
5～9	10	7	5	6		2	1		31
10～14	6	6	4	6	4	2		1	29
15～19		1	1	4		3	1		10
20～29	2	5	9	6	3	2		1	28
30～39	8	7	7	2	5	1			30
40～49	8	7	3	4	5	3	1		31
50～59	11	6	2	3	1	1			24
60～	19	2	4						25
計	91	46	38	32	18	14	4	3	246

引用文献

- 1) 福島県感染症情報週報 2007 ; 43
- 2) 廣瀬昌子, 金成篤子, 三川正秀, 他 .
2005/2006 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況について . 福島県衛生研究所 2005 ; 23 : 88-94

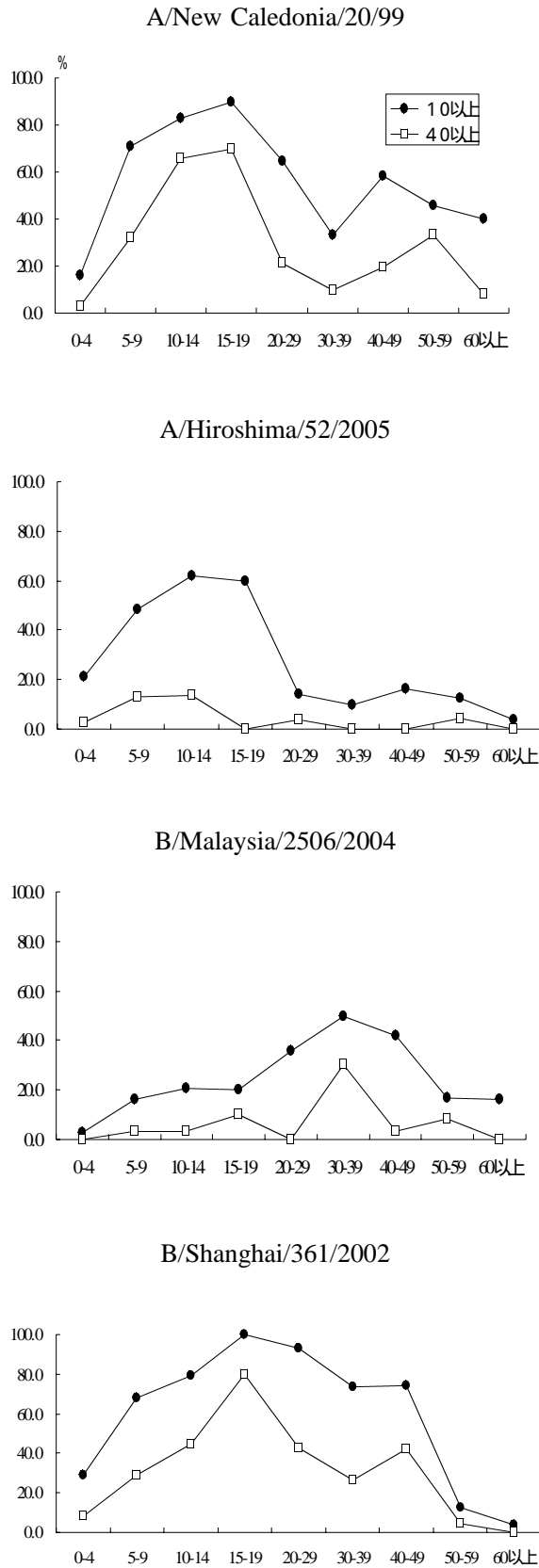


図7 年齢階層別HI抗体価保有率